



福井県の人口の動向と将来見通し (2025年3月改定版)

福井県人口ビジョン

福 井 県

※表紙に使用している画像は、AIサービスを用いて生成したものです。

本資料の位置づけ

まち・ひと・しごと創生法において、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するに当たっては、人口の現状及び将来の見通しを踏まえることとしている。そのため、福井県の総合戦略策定に当たり、基礎となる人口の動向等の把握のため、2015年10月に「福井県の人口の動向と将来見通し」を策定し、2020年7月に改定した。

前回の改定から5年が経過したため、今回、最新の人口動向や将来人口推計に関する基礎データを分析するとともに、本県人口の将来展望を再検証する。あわせて、日本全体の最重要課題の一つである人口減少問題に対して、県・企業・団体・市町などすべての関係者と認識を共有し、「チームふくい」により対策を力強く実行していくため、「福井県の人口の動向と将来見通し」を改定する。

Contents

1 総人口の動向

1- 1 福井県の人口将来見通し	1
1- 2 総人口の推移	3
1- 3 年齢階級別人口の推移	4
1- 4 人口増減の推移	5

2 自然増減の状況

2- 1 自然増減の推移	6
2- 2 出生数、合計特殊出生率の推移	7
2- 3 20-30代女性人口、婚姻数、出生数の推移	8
2- 4 結婚持続期間別の平均出生こども数	8
2- 5 男女別年代別未婚率の推移	9
2- 6 男女別平均初婚年齢	10
2- 7 平均出産年齢	10
2- 8 男女別初婚年齢別婚姻人数	11
2- 9 年齢別未婚率	12
2-10 20-39歳日本人未婚女性人口に対する初婚者数の割合	13
2-11 過去5年間の初婚者数に対する出生数の割合	14
2-12 未婚者初婚率と初婚者出生比の地域比較(順位)	15
2-13 未婚者初婚率と初婚者出生比の地域比較(実数値)	16
2-14 交際意欲、恋人探し活動の有無	17
2-15 恋人探しをしていない理由	18

2-16 交際経験の有無	18
2-17 年代別結婚意欲	19
2-18 初婚夫婦の年齢差	19
2-19 結婚意欲のある方が結婚に至っていない理由	20
2-20 婚活をしたことがある割合	21
2-21 恋愛や結婚に対する行政の支援の必要性	21
2-22 婚活をしていることを周りに知られることへの抵抗	21
2-23 年代別 未婚者の理想とするこどもの数	22
2-24 年代別 既婚者の理想とするこどもの数	22
2-25 年代別 既婚者の理想とするこどもの数と現実の差	23
2-26 理想とするこどもの数を実現するために必要なこと	24
2-27 こどもを育てるにあたり、負担に思うことや困ったこと、不安に思うこと	25
2-28 出生順位別出生数	26
2-29 出生順位別出生率 全国比較	27
2-30 出生順位別出生率(全国)	28
2-31 出生順位別出生率(福井県)	28
2-32 出産年齢別出生数	29
2-33 夫の休日の家事・育児時間別に見た第2子以降の出生状況	30
2-34 男女別 行動の種類別総平均時間	31
2-35 育児休業の取得状況	32
2-36 こどもの数別既婚者世帯構成	33

2-37	既婚者世帯構成別こどもの数	33
2-38	100歳以上の高齢者数	34
2-39	平均寿命と健康寿命	35
2-40	男女別平均寿命推計	35
2-41	高齢化率	36
2-42	高齢者に占める後期高齢者割合	36
2-43	高齢者の体力・運動能力	37
2-44	高齢者元気生活率	37

3 社会増減の状況

3- 1	三大都市圏および地方圏における人口移動の推移	38
3- 2	社会増減の推移	39
3- 3	年齢階級別の転入超過数の推移	40
3- 4	男女別年齢階級別の転出超過数の状況	41
3- 5	男女別年齢階級別の転入数、転出数の状況	42
3- 6	地域ブロック別の転入超過数の推移	43
3- 7	男女別地域ブロック別の転入超過数の状況	44
3- 8	月別男女別の転入超過数の状況	45
3- 9	新ふくい人数の推移	46
3-10	地域別の学生Uターン就職率の推移	47
3-11	【新規学卒者】良い企業とはどのような企業か	48
3-12	若者の県内定着率の状況	49
3-13	県内高校生の大学等・専修学校への進学状況	50
3-14	県内・県外就職意向の推移	51
3-15	【県内就職者向け】福井で就職した理由	52
3-16	【県外就職者向け】福井で就職しなかった理由	53

4 県内市町の状況

4- 1	県内市町の社会移動の状況	54
4- 2	地域別・転出先別 転入超過数の状況	55

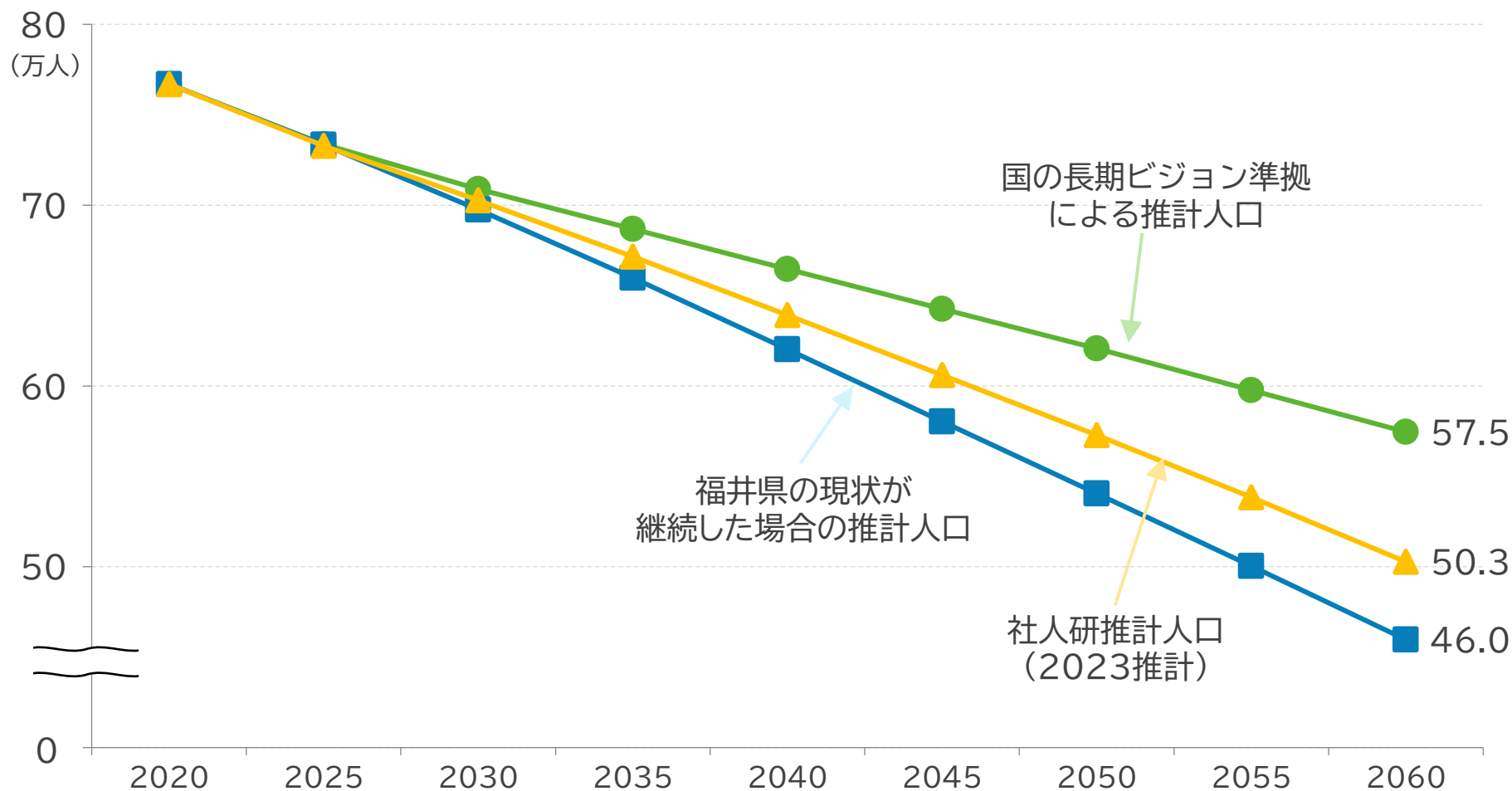
5 県民の暮らしの状況

5- 1	三世代世帯割合の推移、核家族世帯の割合の推移	56
5- 2	一人暮らし高齢者割合の推移	57
5- 3	世帯収入の推移	58
5- 4	年齢階級別労働力率比較	59
5- 5	女性の就業率と正規雇用率	60
5- 6	有効求人倍率の推移	61
5- 7	職種別有効求人倍率の推移	61
5- 8	子育て世代の女性の働きやすさ指標	62
5- 9	非正規の職員・従業員に就いた主な理由	63
5-10	前職をやめた求職者が希望する雇用形態	64
5-11	都道府県別男女賃金格差	65
5-12	県内企業の女性管理職割合	66
5-13	女性が管理職になることが難しい理由	66
5-14	福井県の外国人住民数の推移	67
5-15	福井県の国籍別外国人住民数の推移	68
5-16	福井県の外国人労働者数の推移	69
5-17	福井県の国籍別外国人労働者数の推移	70
5-18	県外に居住地を移した理由	71
5-19	「男は仕事、女は家庭」といった考えに賛成と回答した割合	72
5-20	職場における性別による待遇の違い	73
5-21	県民の年代別の幸せ実感	74

1.総人口の動向 福井県の人口将来見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計方法による福井県の2060年の推計人口は50.3万人
- 合計特殊出生率が2040年に人口置換水準である2.07に達した場合でも、その後減少を続け、2060年には57.5万人となる見通し

図表1-1 福井県の人口将来見通し



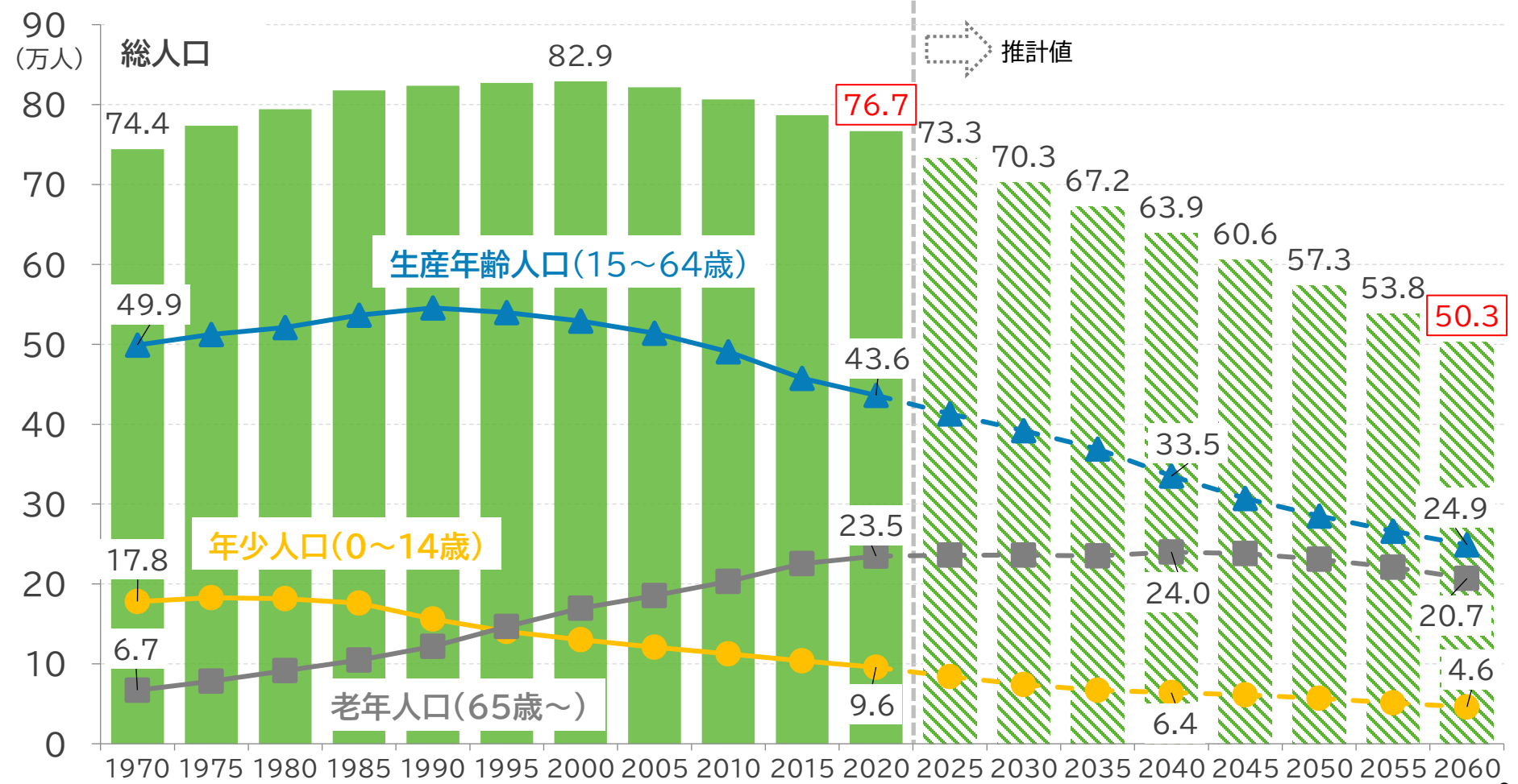
【推計にあたっての条件設定】

条 件			2060年人口
国の 長期ビジョン に準拠	出生率	2030年1.80(国民希望出生率) 2040年2.07(人口置換水準)	57.5万人
	社会減	2029年に東京圏の転出・転入均衡 (概ね地方の転出・転入も均衡)	
社人研推計 に準拠	出生率	出生率が1.5程度で推移	50.3万人
	社会減	2035～2040年の間に転出超過 が1/4程度になり、その後継続	
現状の出生・ 移動が継続	出生率	2023年の合計特殊出生率が継続	46.0万人
	社会減	2020-2025年の純移動率 (社人研2023推計値)が継続	

1.総人口の動向 福井県の人口推移

- 本県人口は2000年の82.9万人をピークに減少傾向、直近では76.7万人(2020年国勢調査)
- 社人研による推計では、2040年に63.9万人、2060年には50.3万人まで減少する見込み
- 年少人口や生産年齢人口はほぼ一貫して減少、老年人口は増加ののち、2040年頃から減少に転じる見込み

図表1-2 総人口の推移(福井県)

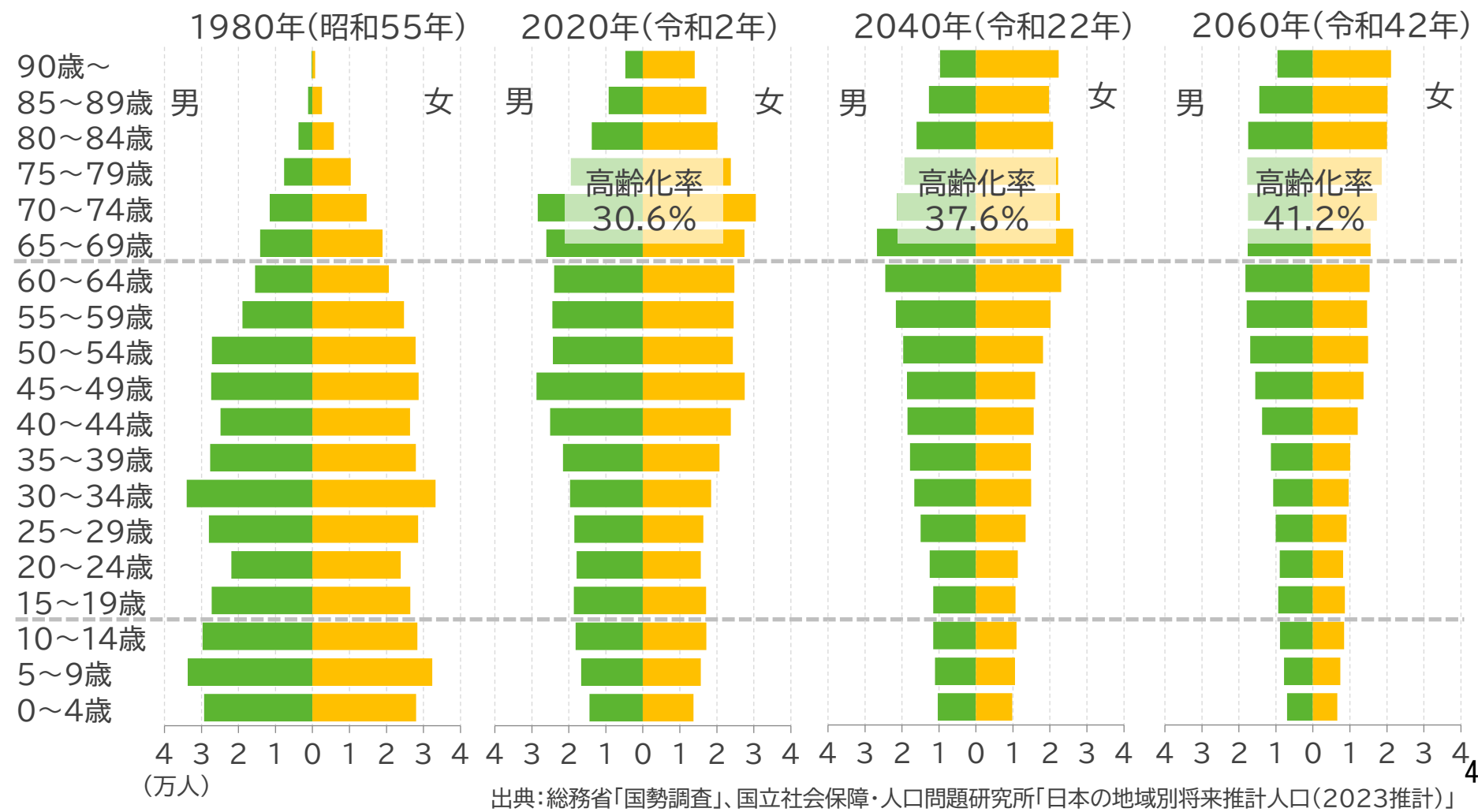


1.総人口の動向 福井県の人口推移

○1980年は生産年齢人口や年少人口が多い人口構成であったが、年少人口の減少と老年人口の増加により、2020年には高齢化率が30%を超過

○高齢化率は2040年に37.6%、2060年には41.2%まで上昇すると推計

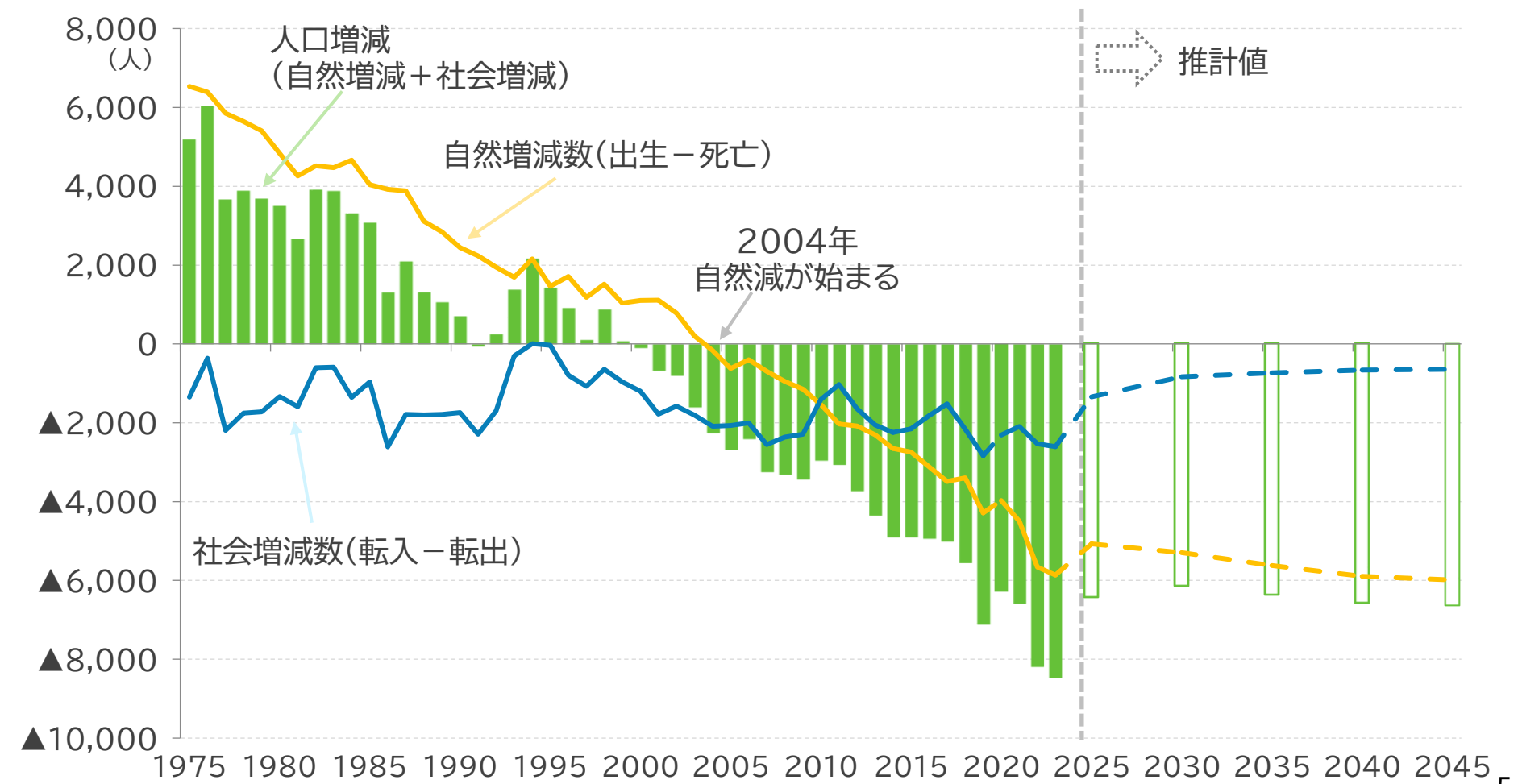
図表1－3 年齢階級別人口の推移(福井県)



1.総人口の動向 福井県の人口推移

- 2000年に自然増加数が社会減少数を下回り、人口減少に転換
- さらに、2004年からは自然減となり、人口の減少幅が拡大
- 自然減は継続して拡大傾向にあり、社会減は概ね横ばいで推移

図表1－4 人口増減の推移(福井県)



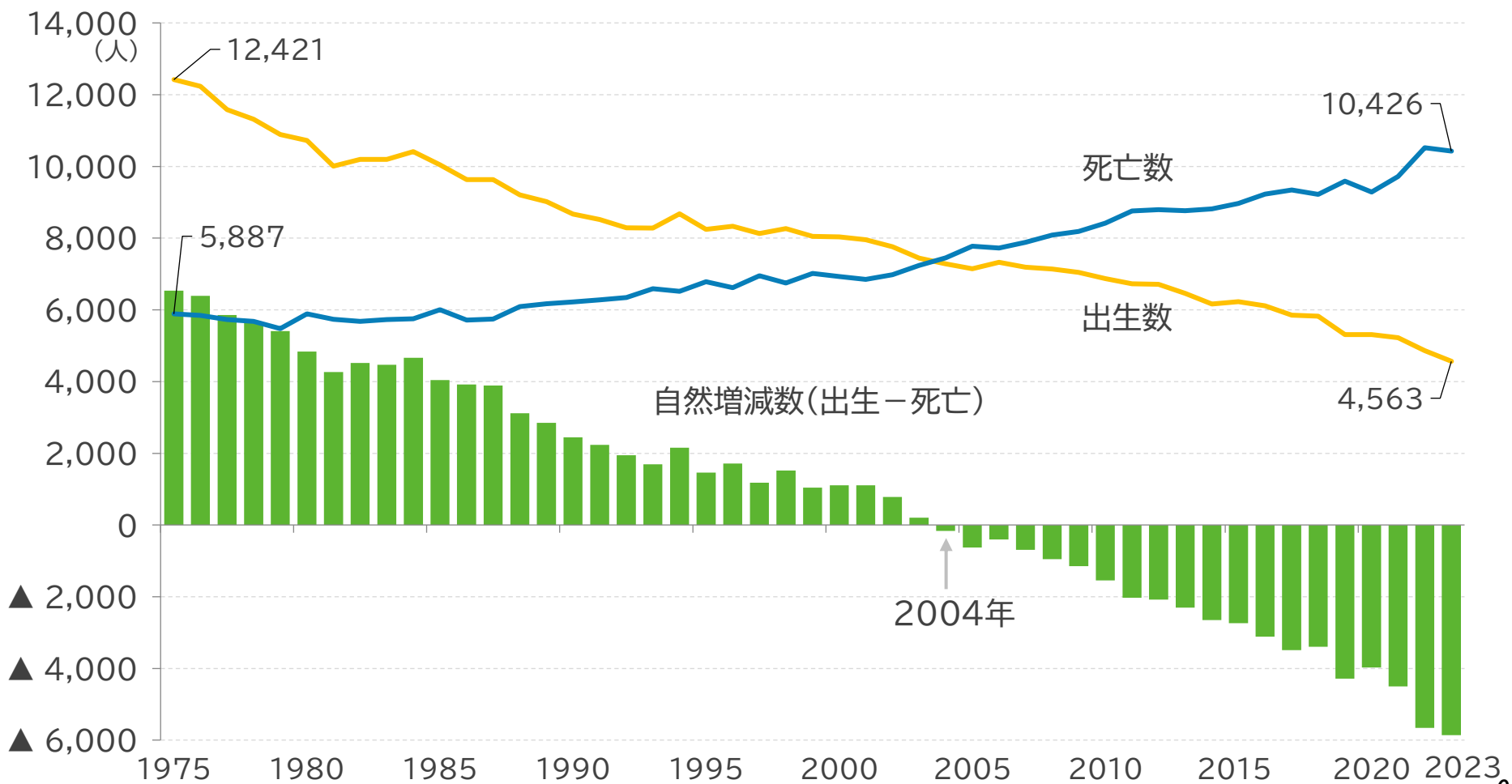
出典:厚生労働省「人口動態統計」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(2023推計)」

2.自然増減の状況 自然増減の推移

○出生数は減少、死亡数は増加傾向にあり、2004年以降は自然減が継続

○2022年に出生数が5千人を下回るなど、自然減は拡大傾向

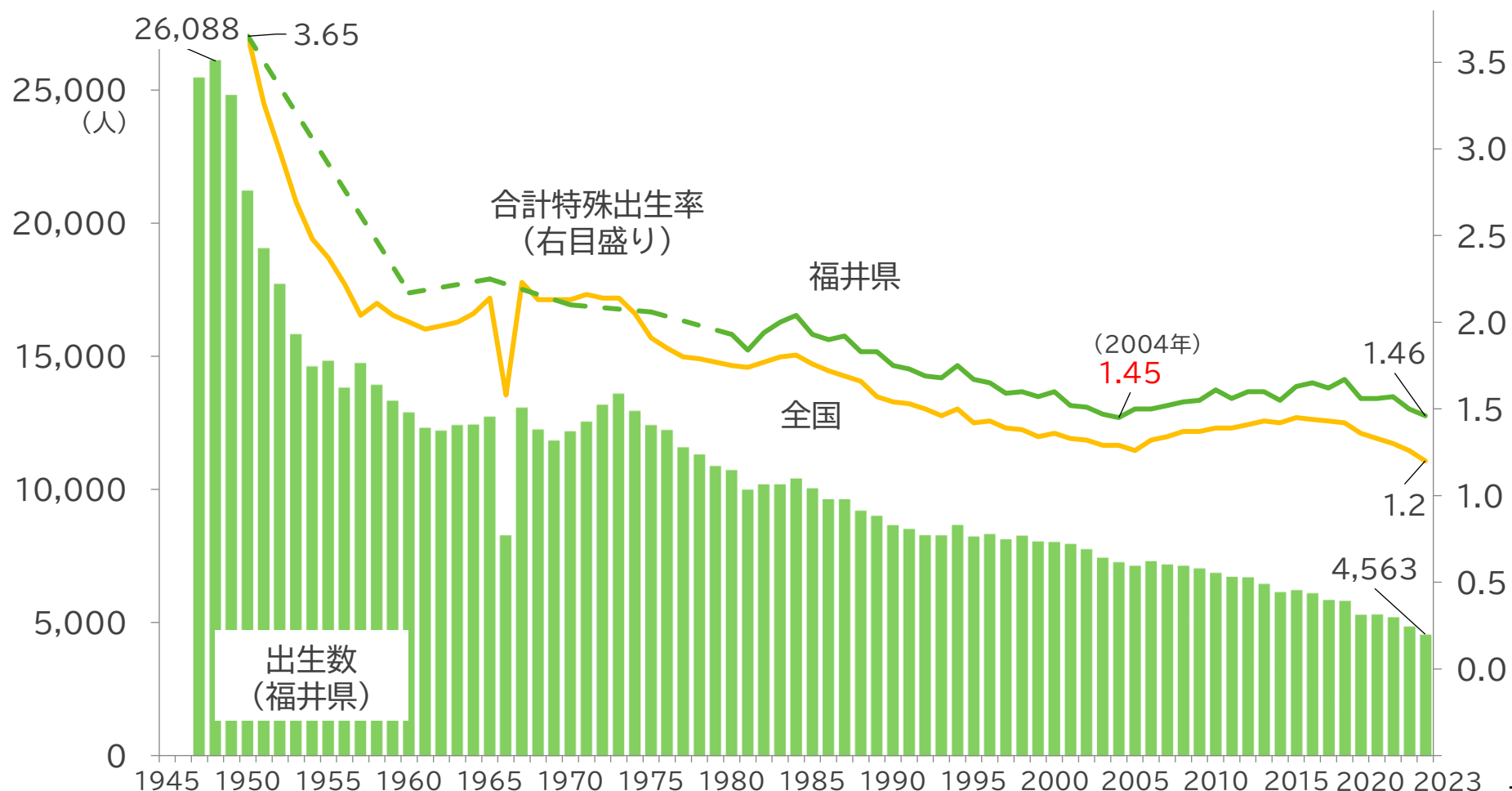
図表2-1 自然増減の推移(福井県)



2.自然増減の状況 自然増減の推移

- 本県の合計特殊出生率は全国トップレベルを維持しているものの、2018年以降低下
- 親世代の人口の減少により、合計特殊出生率が上昇した期間においても、出生数は減少

図表2-2 出生数、合計特殊出生率の推移

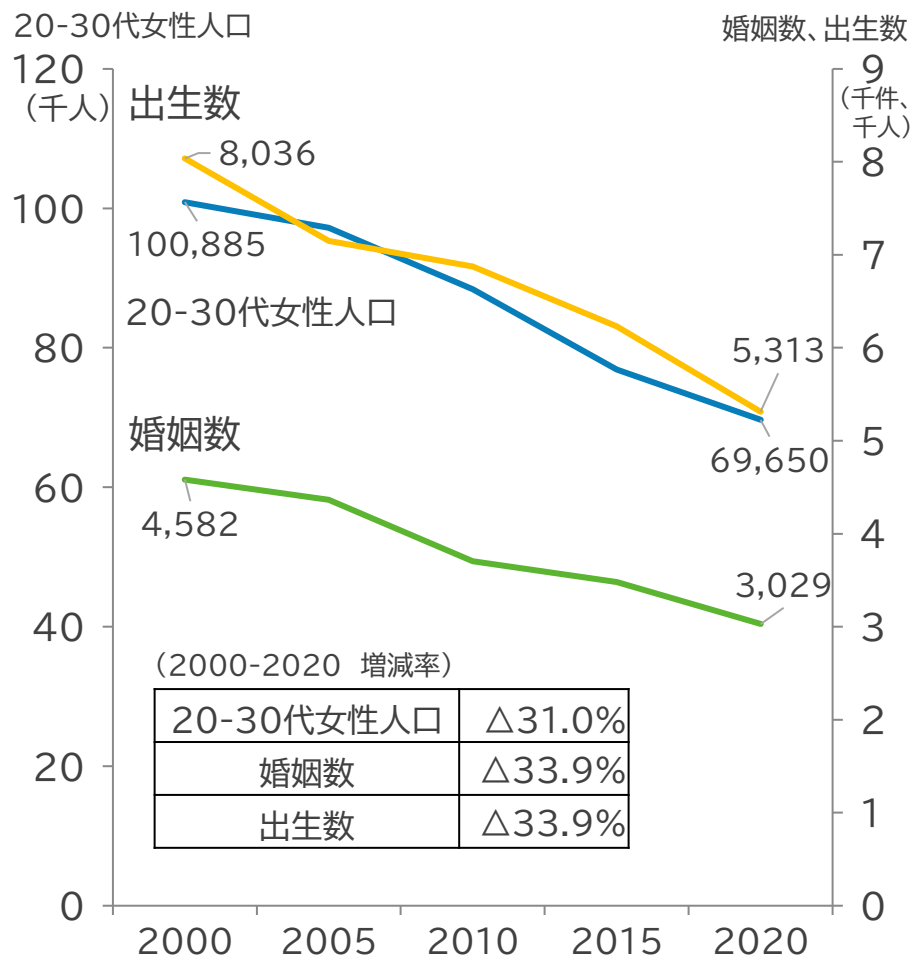


2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○本県の20～30代女性人口、婚姻数、出生数は20年間でいずれも3割超の減少

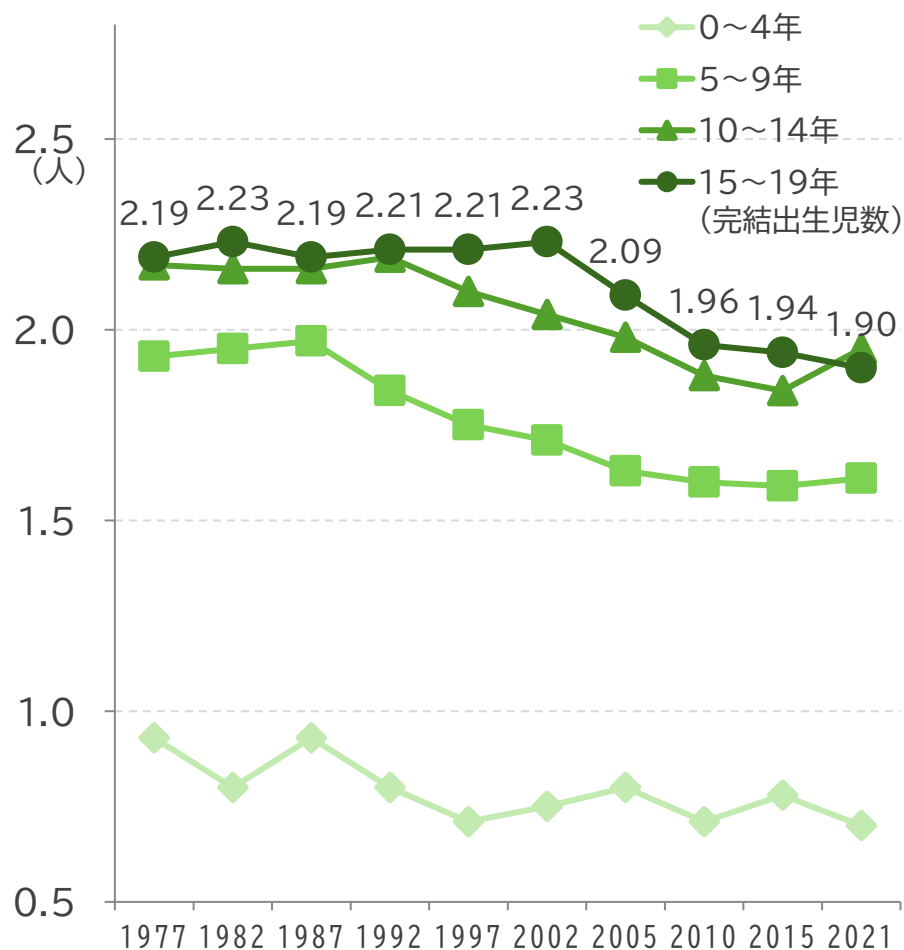
○夫婦が持つこどもの数は2人前後で推移

図表2-3 20-30代女性人口、婚姻数、出生数の推移(福井県)



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態統計」

図表2-4 結婚持続期間別の平均出生子ども数(全国)



出典：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

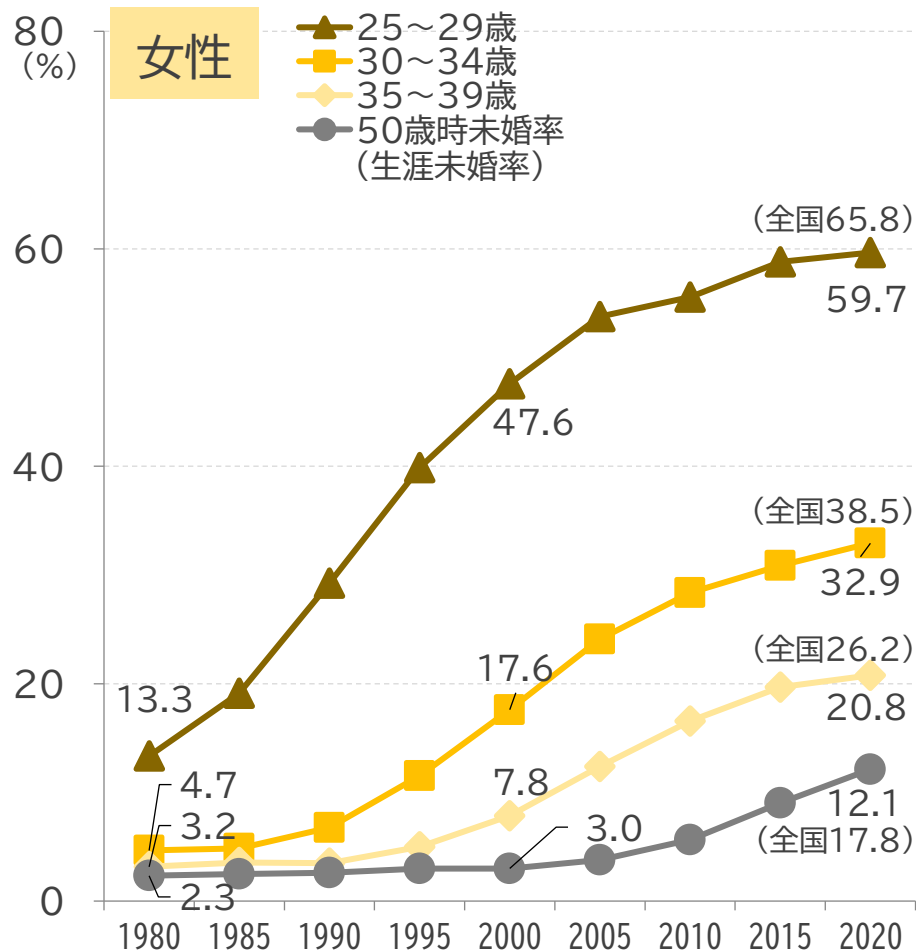
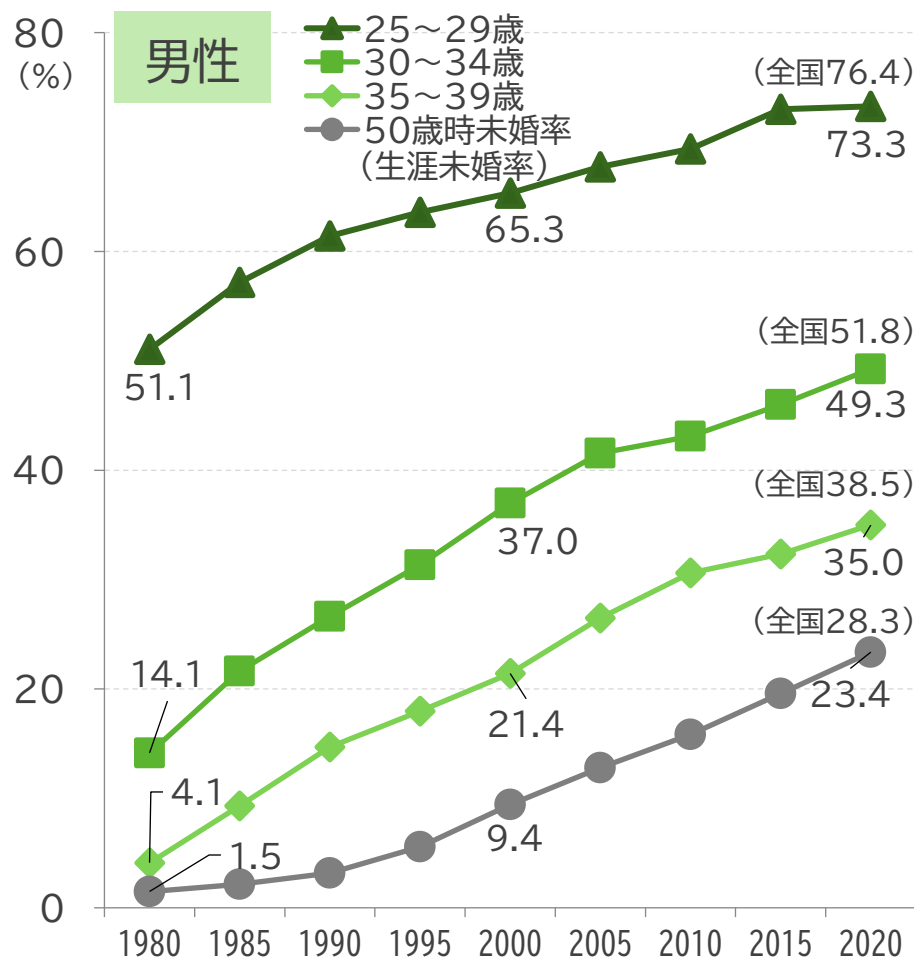
2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○全国平均と比較すると本県の未婚率は低いものの、本県においても未婚化が進行

（50歳時未婚率の低さ 男性：全国2位、女性：全国1位）

○特に20代後半から30代前半の女性の未婚率が大きく上昇

図表2-5 男女別年代別未婚率の推移

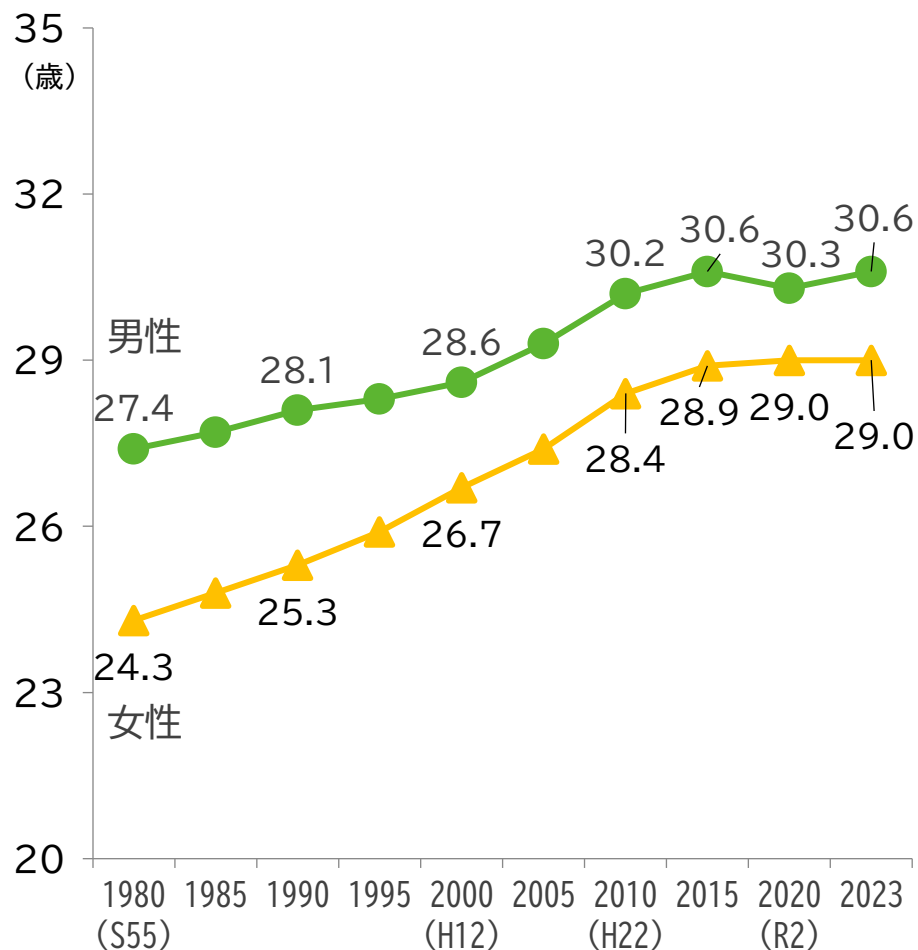


2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○平均初婚年齢と平均出産年齢が上昇傾向にあった中でも、結婚から出産までの期間はほぼ一定(約1年)

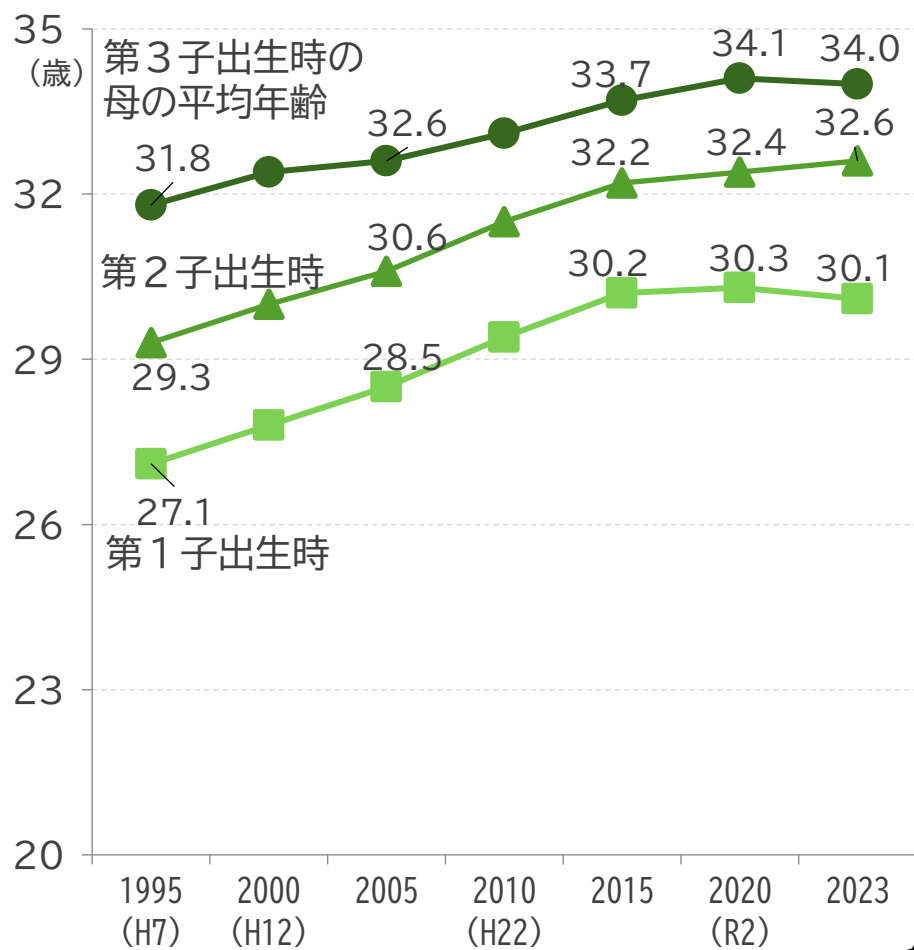
○近年は平均初婚年齢、平均出産年齢ともに横ばいで推移

図表2-6 男女別平均初婚年齢(福井県)



出典:厚生労働省「人口動態統計」

図表2-7 平均出産年齢(福井県)

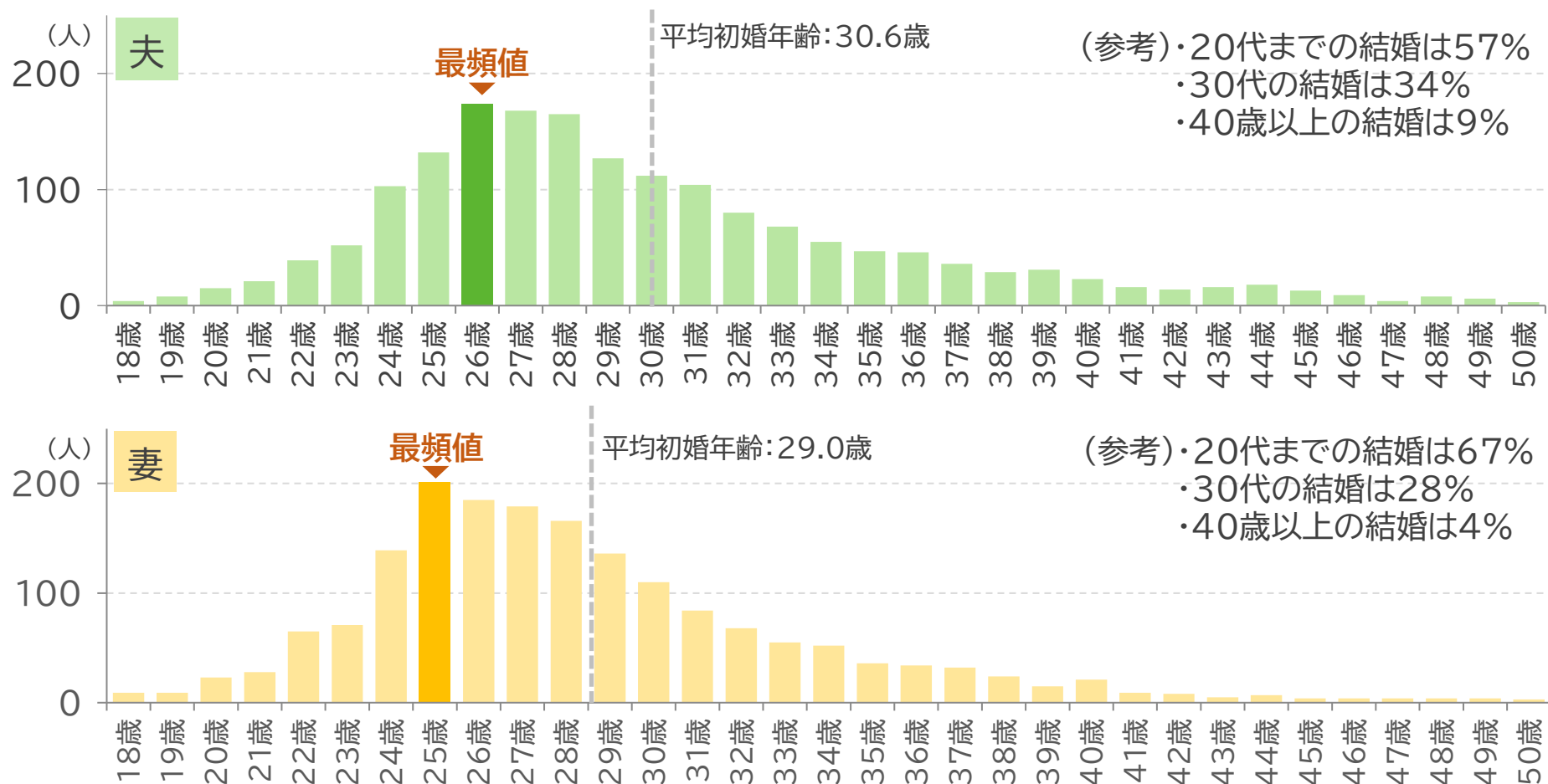


出典:厚生労働省「人口動態統計」

2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○本県の平均初婚年齢は男性30.6歳、女性29.0歳だが、初婚年齢の最頻値は男性で26歳、女性は25歳

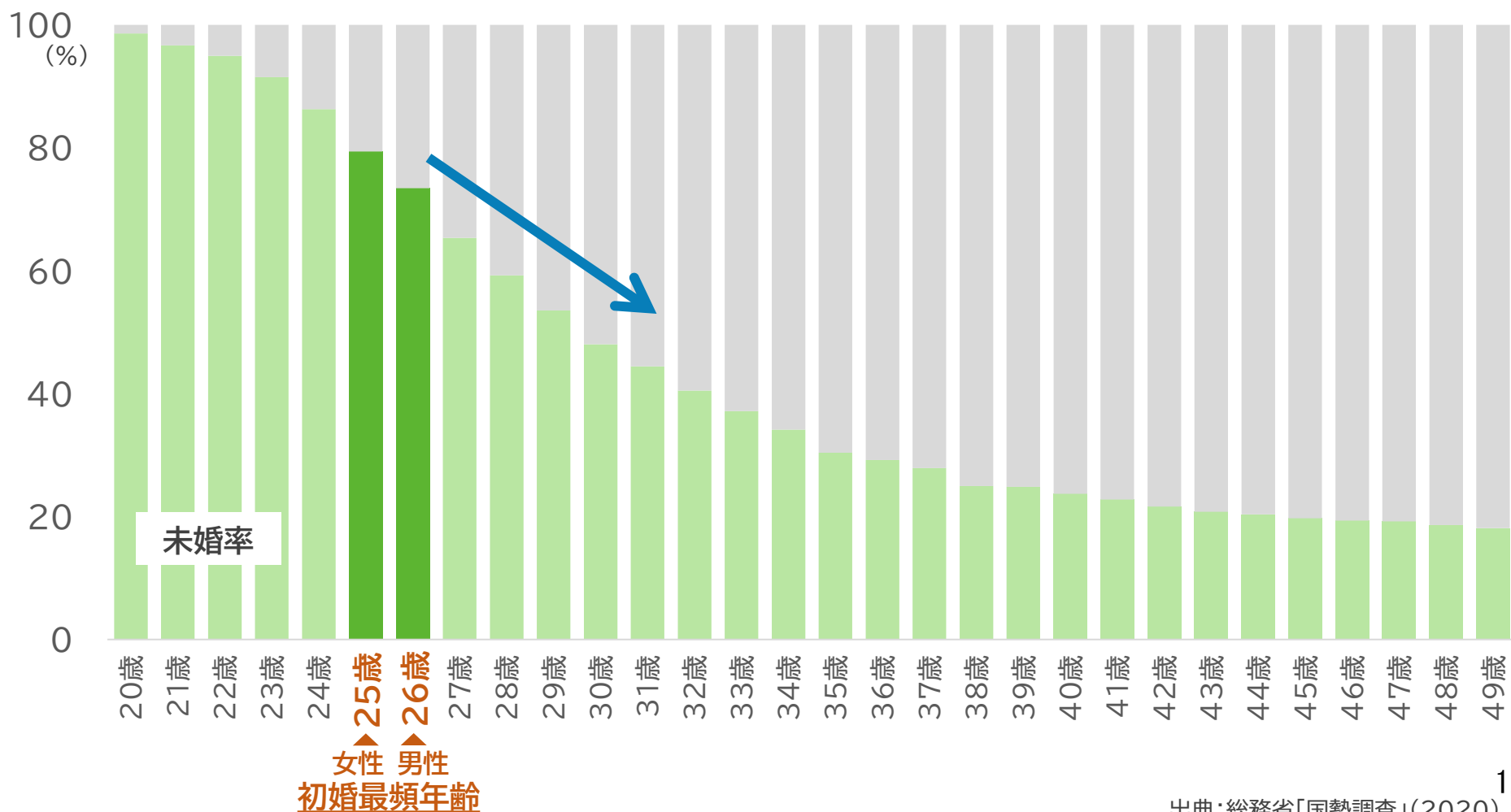
図表2-8 男女別初婚年齢別婚姻人数(福井県)



2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○県内の未婚率は、初婚最頻値年齢を過ぎると大きく減少

図表2-9 年齢別未婚率(福井県)※男女計



2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○結婚年齢のボリュームゾーンである20-30代女性人口に対する初婚者数の割合は、福井県が最上位であり、未婚女性が結婚する割合が高い

図表2-10 20-39歳日本人未婚女性人口に対する初婚者数の割合(未婚者初婚率)

※人口千対。2015年、2020年の初婚数を各年の20-39歳日本人未婚女性人口で除した結果を平均して算出。

都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位
全 国	70.4		富山県	78.2	(10)	島根県	82.4	(2)
北海道	67.4	(40)	石川県	72.1	(28)	岡山県	71.6	(30)
青森県	70.0	(34)	福井県	82.5	(1)	広島県	77.5	(12)
岩手県	71.0	(32)	山梨県	76.0	(15)	山口県	75.1	(18)
宮城県	63.3	(45)	長野県	81.8	(4)	徳島県	71.2	(31)
秋田県	67.0	(42)	岐阜県	72.6	(26)	香川県	81.7	(5)
山形県	73.8	(24)	静岡県	80.6	(6)	愛媛県	74.6	(21)
福島県	78.3	(9)	愛知県	81.8	(3)	高知県	68.2	(36)
茨城県	71.8	(29)	三重県	77.3	(13)	福岡県	67.7	(38)
栃木県	75.5	(17)	滋賀県	74.2	(22)	佐賀県	72.2	(27)
群馬県	72.9	(25)	京都府	58.6	(46)	長崎県	76.0	(16)
埼玉県	64.5	(44)	大阪府	67.6	(39)	熊本県	74.0	(23)
千葉県	66.1	(43)	兵庫県	68.7	(35)	大分県	78.2	(11)
東京都	67.3	(41)	奈良県	57.8	(47)	宮崎県	78.5	(8)
神奈川県	68.1	(37)	和歌山県	74.9	(20)	鹿児島県	75.1	(19)
新潟県	70.2	(33)	鳥取県	76.9	(14)	沖縄県	80.0	(7)

参考:岩澤美帆・菅桂太・鎌田健司・余田翔平・金子隆一(2022)「出生力の地域差に対する結婚力効果と夫婦出生力効果—対数線形モデルを利用した13市区町村別合計出生率の分解—」

2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○過去5年間の初婚数に対する出生数の割合でも福井県は上位

図表2-11 過去5年間の初婚者数に対する出生数の割合(初婚者出生比)

※2015年、2020年の出生数を、2010-2014、2015-2019の初婚数で除した結果を平均して算出。

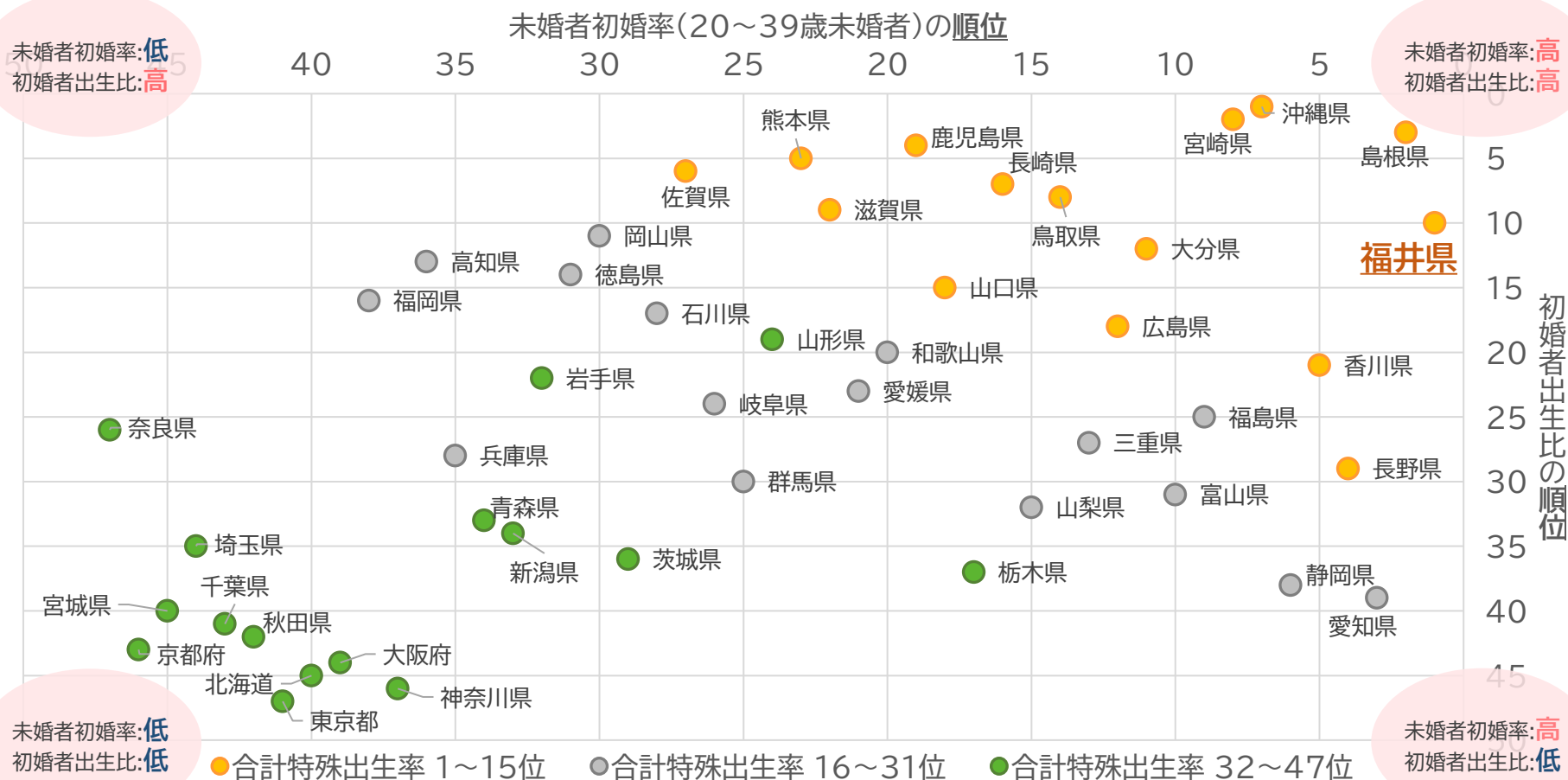
都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位	都道府県	割合	順位
全 国	0.346		富山県	0.359	(31)	島根県	0.412	(3)
北海道	0.330	(45)	石川県	0.370	(17)	岡山県	0.380	(11)
青森県	0.356	(33)	福井県	0.380	(10)	広島県	0.370	(18)
岩手県	0.367	(22)	山梨県	0.356	(32)	山口県	0.374	(15)
宮城県	0.345	(40)	長野県	0.359	(29)	徳島県	0.377	(14)
秋田県	0.343	(42)	岐阜県	0.365	(24)	香川県	0.367	(21)
山形県	0.368	(19)	静岡県	0.346	(38)	愛媛県	0.367	(23)
福島県	0.362	(25)	愛知県	0.345	(39)	高知県	0.378	(13)
茨城県	0.352	(36)	三重県	0.360	(27)	福岡県	0.373	(16)
栃木県	0.348	(37)	滋賀県	0.386	(9)	佐賀県	0.406	(6)
群馬県	0.359	(30)	京都府	0.340	(43)	長崎県	0.398	(7)
埼玉県	0.354	(35)	大阪府	0.336	(44)	熊本県	0.411	(5)
千葉県	0.344	(41)	兵庫県	0.360	(28)	大分県	0.378	(12)
東京都	0.281	(47)	奈良県	0.360	(26)	宮崎県	0.412	(2)
神奈川県	0.327	(46)	和歌山県	0.368	(20)	鹿児島県	0.412	(4)
新潟県	0.355	(34)	鳥取県	0.394	(8)	沖縄県	0.465	(1)

参考:岩澤美帆・菅桂太・鎌田健司・余田翔平・金子隆一(2022)「出生力の地域差に対する結婚力効果と夫婦出生力効果—対数線形モデルを利用した14市区町村別合計出生率の分解—」

2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○未婚者初婚率、初婚者出生比の全国順位が高い(低い)都道府県は、合計特殊出生率の順位も高い(低い)傾向

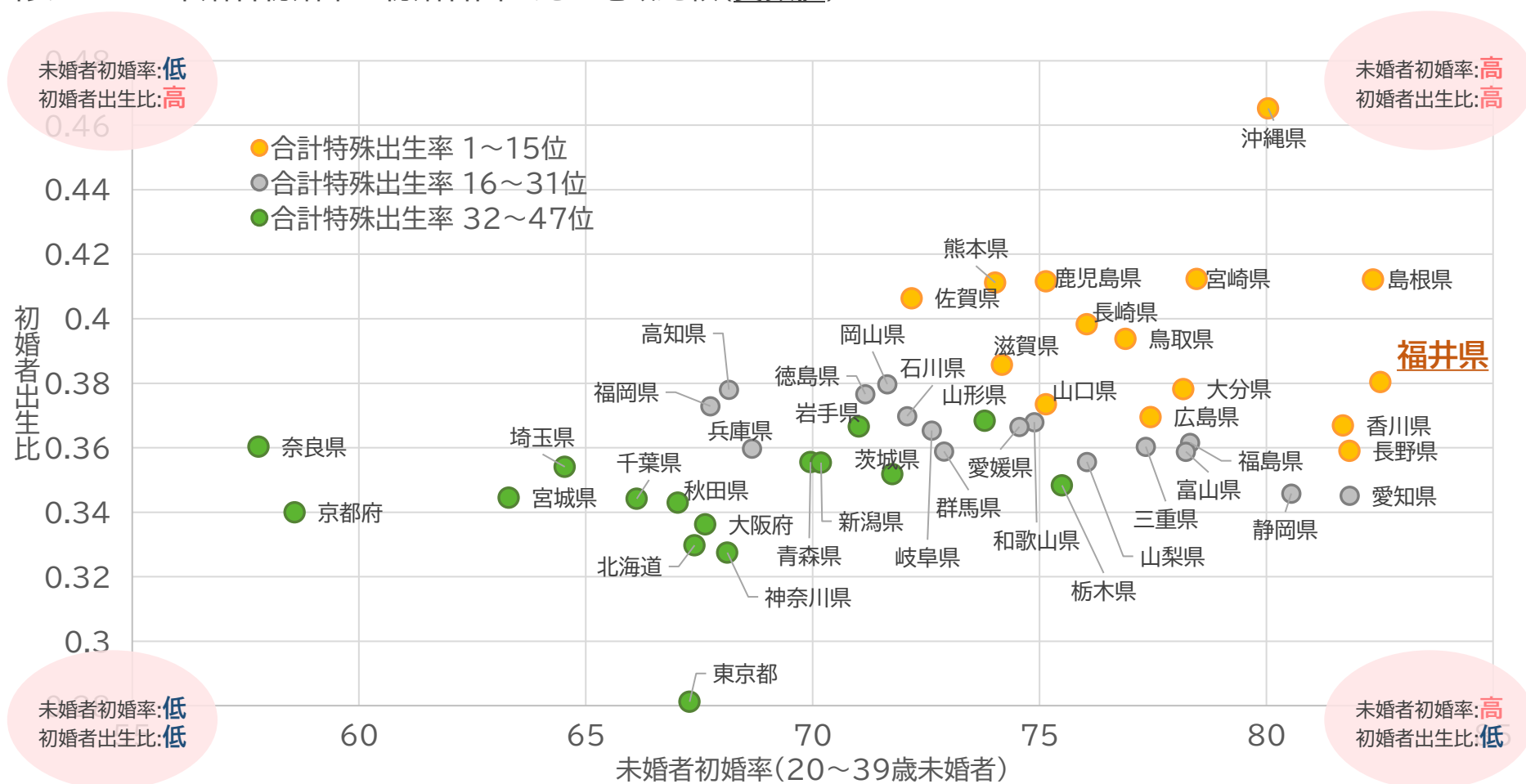
図表2-12 未婚者初婚率と初婚者出生比の地域比較(順位)



2.自然増減の状況 結婚・夫婦の出生動向

○初婚者出生比の数値は、沖縄県、東京都がそれぞれ上下に突出

図表2-13 未婚者初婚率と初婚者出生比の地域比較(実数値)



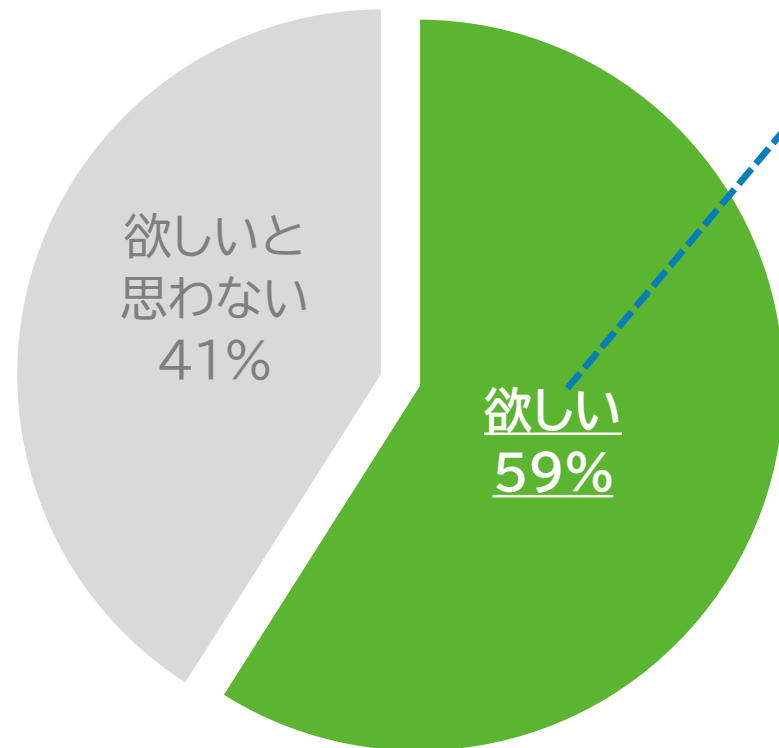
2.自然増減の状況 恋愛に関する意識

○県内在住の交際中でない20～30代の未婚者のうち、交際相手が欲しいと思っているのは全体の約6割

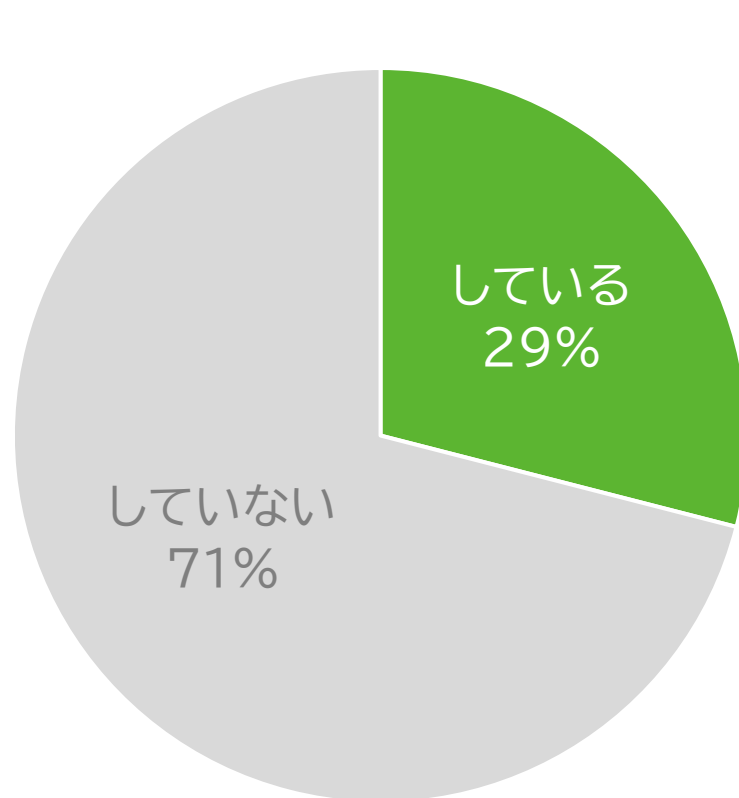
○交際相手が欲しいと思っている人のうち、約7割が恋人探しを意識した活動をしていない

図表2-14 交際意欲、恋人探し活動の有無(県内の交際中でない20～30代未婚者)

Q.交際相手が欲しいと思いますか(n=329)



Q.恋人探しを意識した活動をしていますか(n=193)



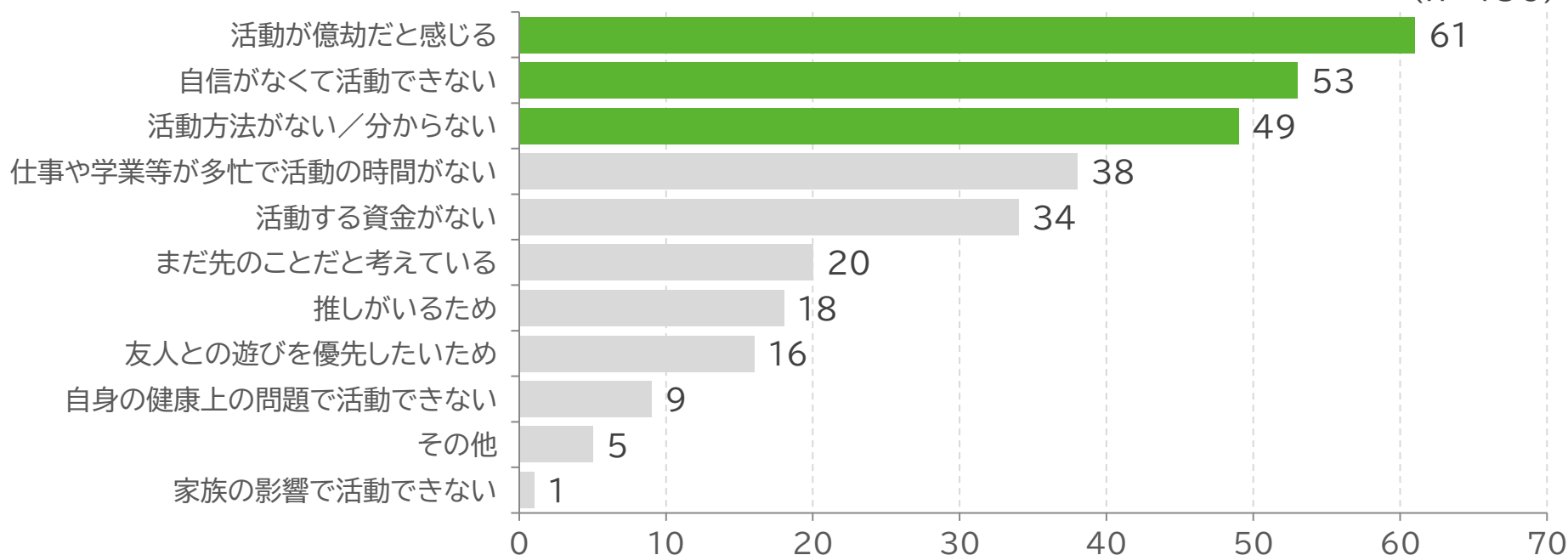
2.自然増減の状況 恋愛に関する意識

○恋人探しをしていない主な理由は「活動が億劫」「活動方法がわからない」「自信がない」

○県内の20～30代のうち、交際経験のない割合は男性で約37%、女性で約21%

図表2-15 恋人探しをしていない理由(県内の20～30代未婚者)※実数

(n=136)



図表2-16 交際経験の有無(県内の20～30代未婚者) (n=481)

	交際経験あり	交際経験なし	(回答なし)
男 性	55.3%	37.0%	7.8%
女 性	59.2%	21.4%	19.5%

2.自然増減の状況 結婚に関する意識

- 県内の20～39歳までの未婚者の約7割は結婚意欲があるが、年齢が上がるにつれて結婚意欲は低下する傾向
- 初婚夫婦の年齢差は3歳差以内が約7割

図表2－17 年代別結婚意欲(福井県)

(n=481)

年代			結婚意欲 あり 計			結婚意欲 なし 計	まだ わからない
	できるだけ早く 結婚したい	いずれは 結婚したい		あまり結婚した いと思わない	結婚するつもり はない		
20-24歳	18.4%	57.4%	75.9%	8.5%	7.1%	15.6%	8.5%
25-29歳	17.9%	54.1%	71.9%	14.3%	7.7%	21.9%	6.1%
30-34歳	12.2%	50.4%	62.6%	16.0%	11.5%	27.5%	9.9%
35-39歳	7.7%	23.1%	30.8%	23.1%	30.8%	53.8%	15.4%
総 計	16.2%	53.2%	69.4%	13.3%	9.1%	22.5%	8.1%

出典:福井県「こども・子育てニーズ調査」(2024)

図表2－18 初婚夫婦の年齢差(全国)

3歳差以内の初婚同士夫婦の割合 **73%**

[内訳]妻年上(1歳差)11%、妻年上(2歳差)5%、妻年上(3歳差)3%

夫婦同年齢 23%

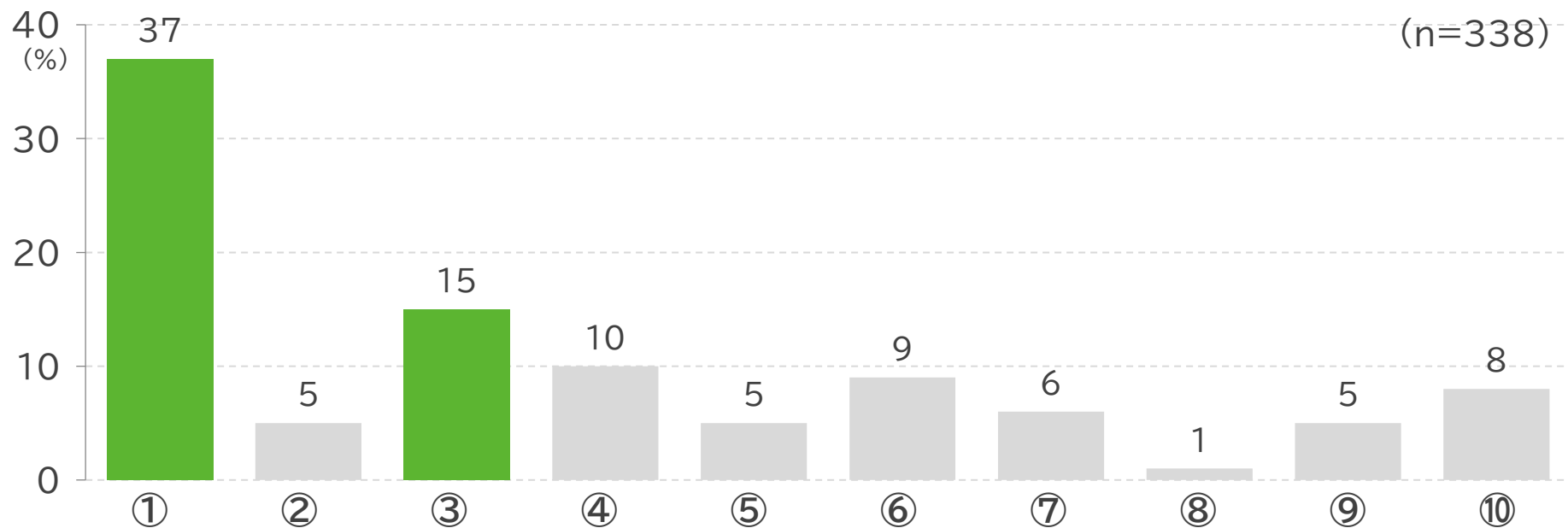
夫年上(1歳差)14%、夫年上(2歳差)10%、夫年上(3歳差)7%

出典:厚生労働省「人口動態統計」(2023)

2.自然増減の状況 結婚に関する意識

○県内の結婚意欲のある人が結婚に至っていない主な理由は、出会いの不足と経済的不安

図表2-19 結婚意欲のある方が、結婚に至っていない理由(福井県)



① まだ適切な相手と巡り会っていない

② 異性とうまくコミュニケーションが取れない

③ 結婚資金が足りない・結婚生活にお金がかかる

④ 結婚するにはまだ年齢的に若い

⑤ うまく結婚生活を送る自信がない

⑥ まだ独身生活を楽しまたい

⑦ 仕事が多忙で出会いづくりに支障が生じている

⑧ 親や周囲が結婚に賛成していない

⑨ 現在婚約中

⑩ その他

2.自然増減の状況 結婚に関する意識

○県内の未婚者のうち、30代で婚活を経験する割合が男性 約32%、女性 約40%である一方、20代の婚活経験者は男女ともに10%台

○県内の若者の約5割が恋愛や結婚について行政の支援が必要と回答

○県内の女性は男性に比べ、婚活をしていることを周りに知られることへの抵抗感がある割合が高い

図表2-20 婚活をしたことがある割合(県内未婚者)

	20代	30代
男 性 (n=219)	15.0%	31.9%
女 性 (n=262)	12.6%	40.3%

図表2-21 恋愛や結婚に対する行政の支援の必要性(県内未婚者)

男 性 (n=219)	20代	30代
支援が必要	50.3%	50.0%
支援の必要はない	49.7%	50.0%

女 性 (n=262)	20代	30代
支援が必要	43.2%	45.8%
支援の必要はない	56.8%	54.2%

図表2-22 婚活をしていることを周りに知られることへの抵抗(県内未婚者)

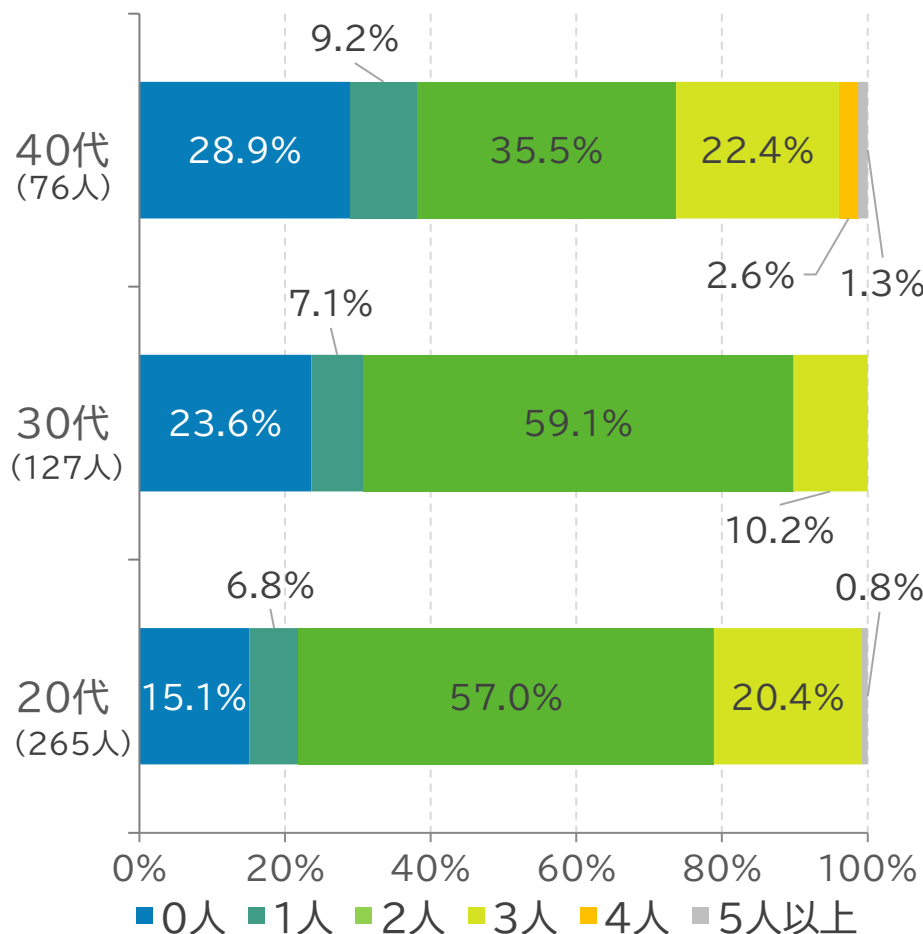
男 性 (n=219)	20代	30代	女 性 (n=262)	20代	30代
ある	40.2% [14.3% 25.9%	38.9% [18.1% 20.8%	ある	61.5% [28.9% 32.6%	51.4% [15.3% 36.1%
少しある			少しある		
あまりない	24.5%	23.6%	あまりない	20.0%	25.0%
ない	35.4%	37.5%	ない	18.4%	23.6%

2.自然増減の状況 出産に関する意識

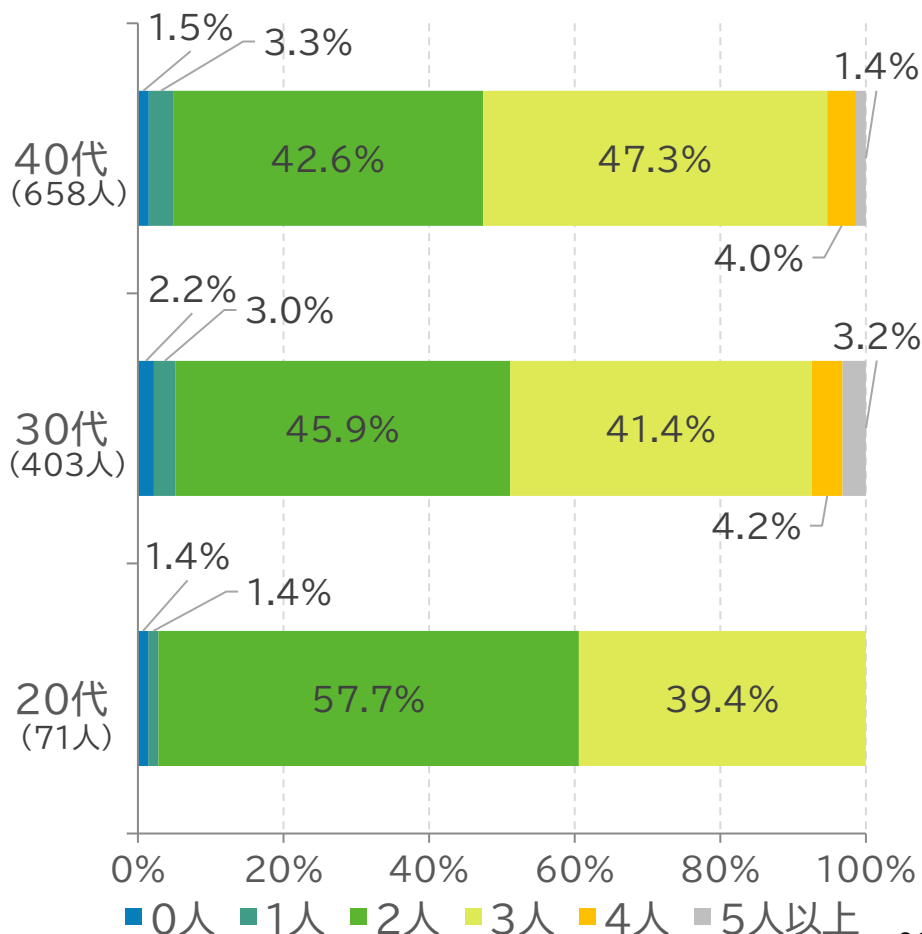
○既婚者に比べ、未婚者の方がこどもを持たないことを理想とする割合が高い

○理想のこどもの数は、40代では3人の割合が最も高いが、20代30代では2人の割合が最も高く、理想のこどもの数の主流が3人から2人に移りつつある

図表2-23 年代別 未婚者の理想とするこどもの数
(福井県)



図表2-24 年代別 既婚者の理想とするこどもの数
(福井県)

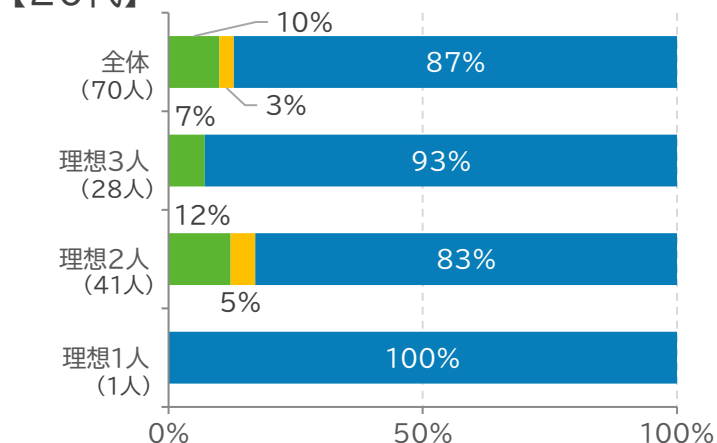


2.自然増減の状況 出産に関する意識

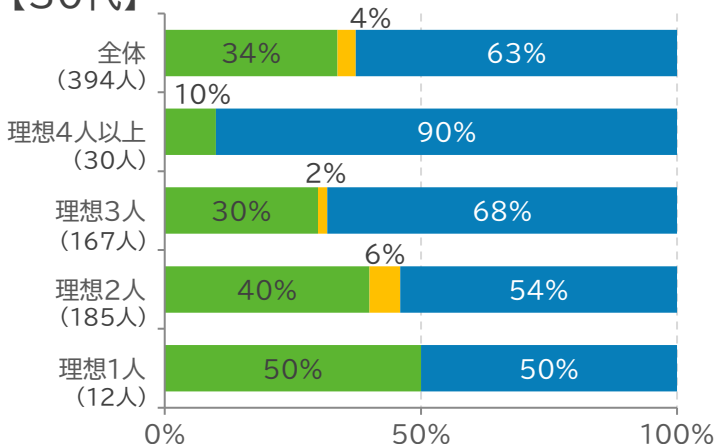
○こどもの数の理想と現実について、（多くが出産を終えている）40代の4割が理想をかなえられておらず、特に理想3人以上の場合は、半数以上が現実のこどもの数が理想より少ない

図表2-25 年代別 既婚者の理想とすることどもの数と現実の差(福井県)

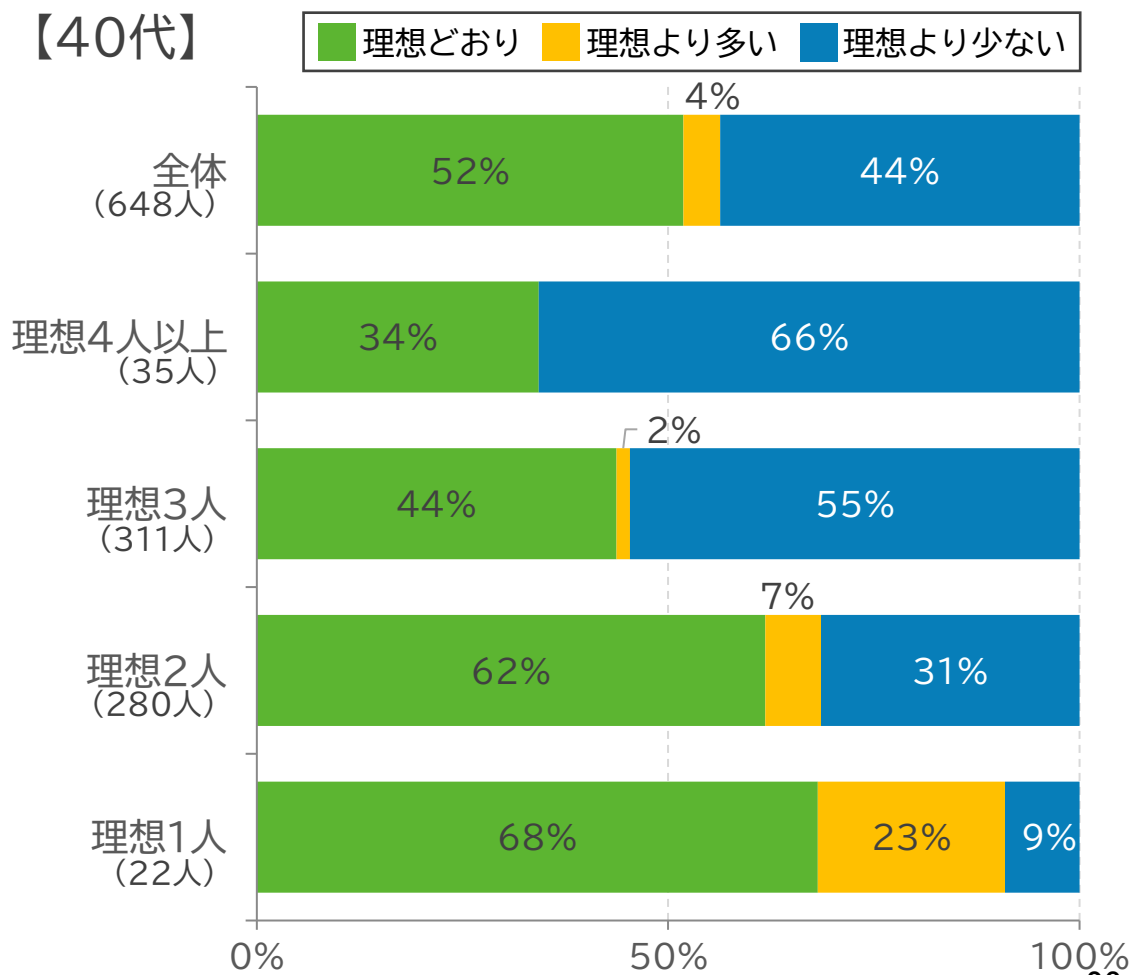
【20代】



【30代】



【40代】

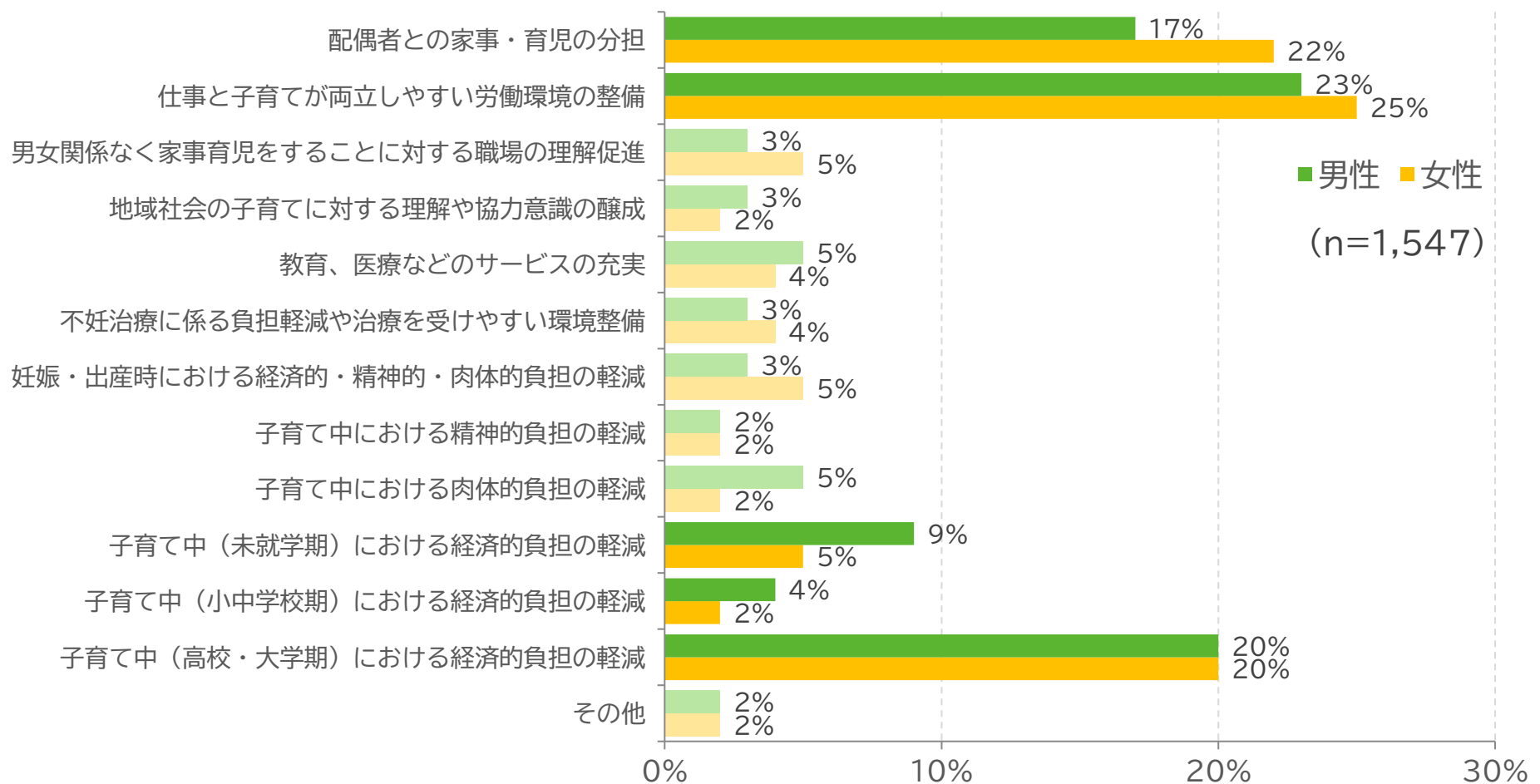


2.自然増減の状況 出産に関する意識

○理想のこどもの数の実現のためには、仕事と子育てを両立しやすい環境や家事・育児の適切な分担、経済的負担の軽減を求める意見が多い

○仕事と子育てを両立しやすい環境や家事・育児の適切な分担を求める意見は女性の方が多い

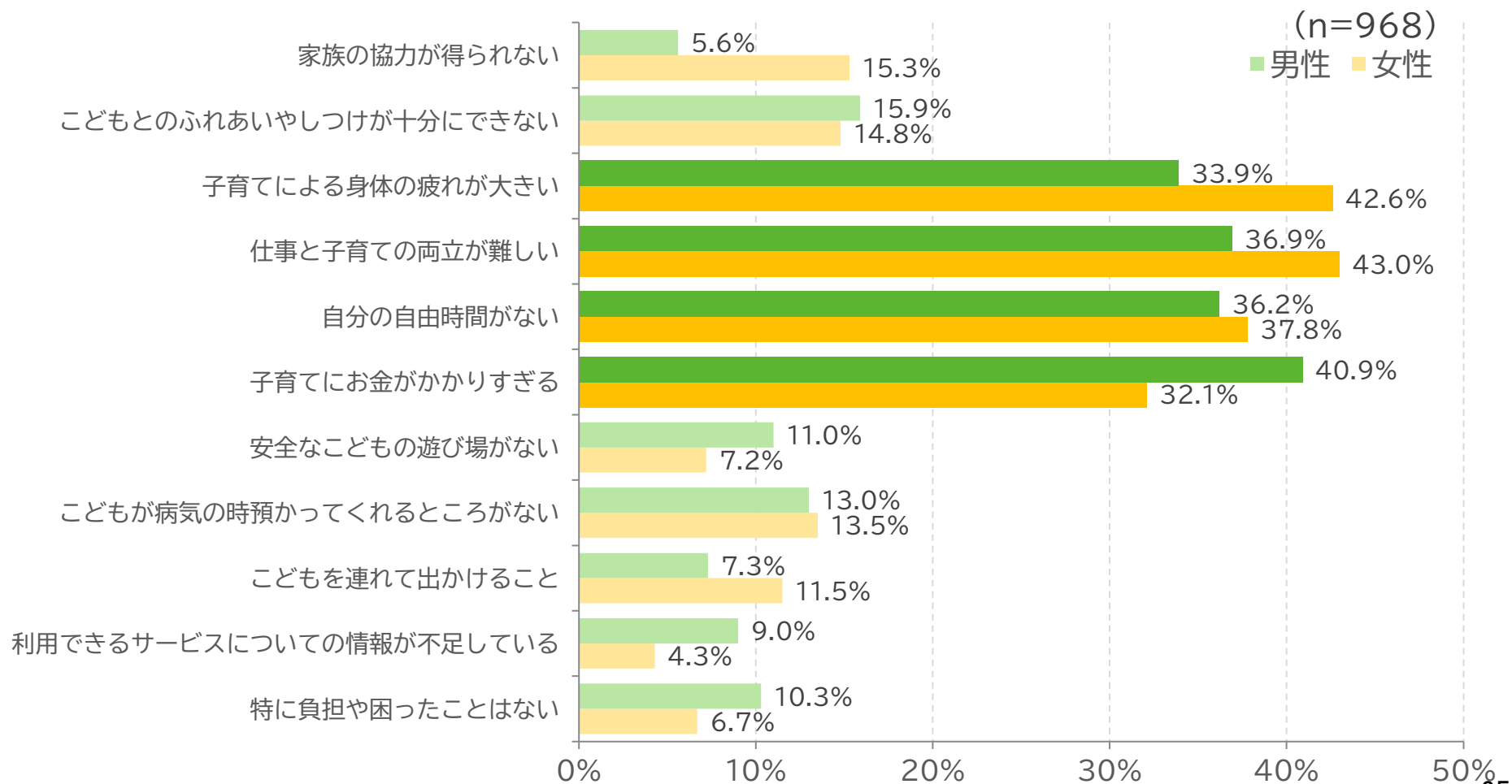
図表2-26 理想とするこどもの数を実現するために必要なこと(福井県)



2.自然増減の状況 出産に関する意識

○子育て世帯が子育てに関して負担に感じている点は、主に身体的・経済的負担と、仕事や自分の時間とのバランス

図表2-27 こどもを育てるにあたり、負担に思うことや困ったこと、不安に思うこと(福井県)※3つまで回答



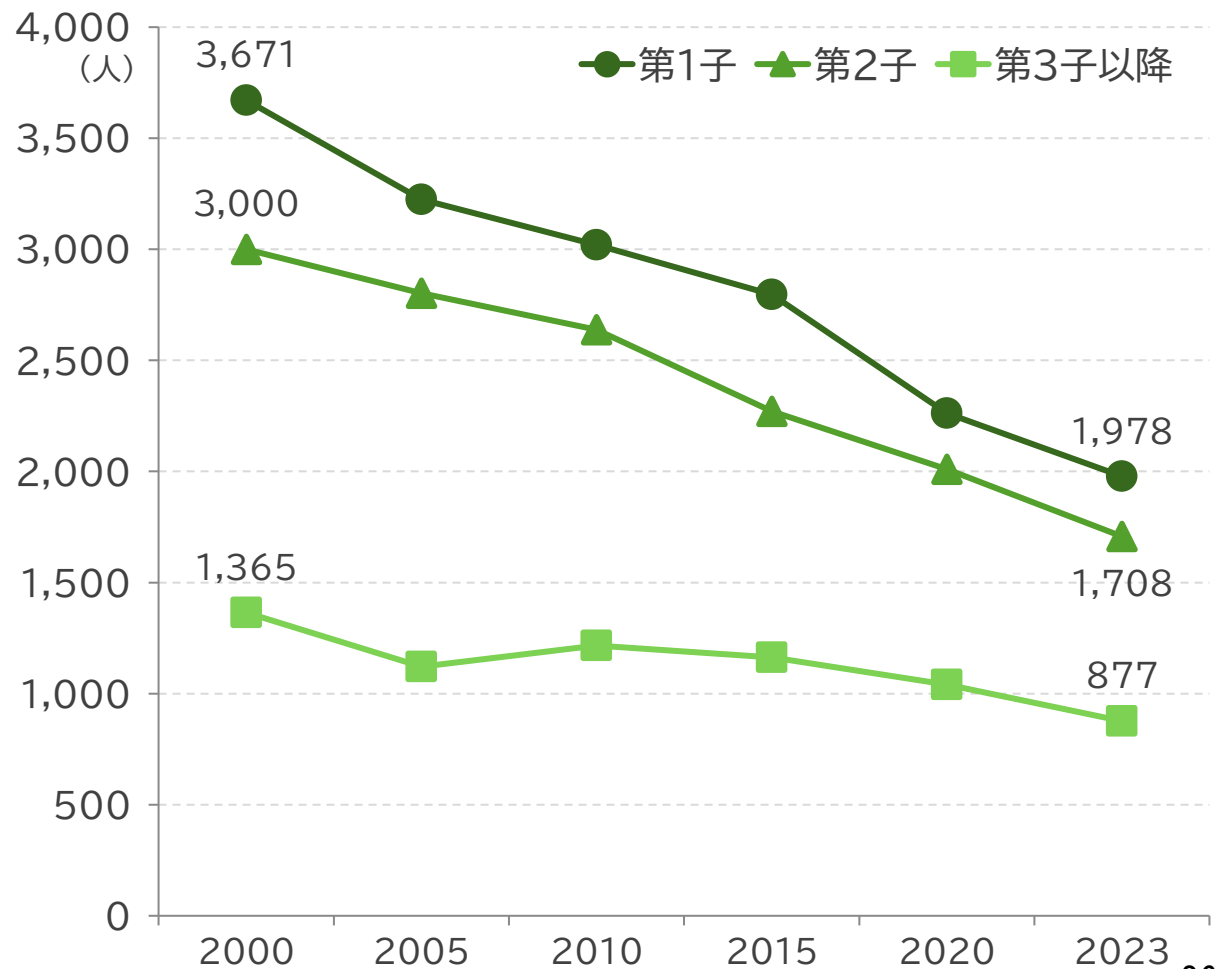
2.自然増減の状況 出生数・出生率の推移

○本県の出生順位別出生数は、2000年から2023年にかけて、第1、2子が4割超の減少

○第3子も出生数は減少しているが、減少幅は第1、2子に比べ小さい

図表2－28 出生順位別出生数(福井県)

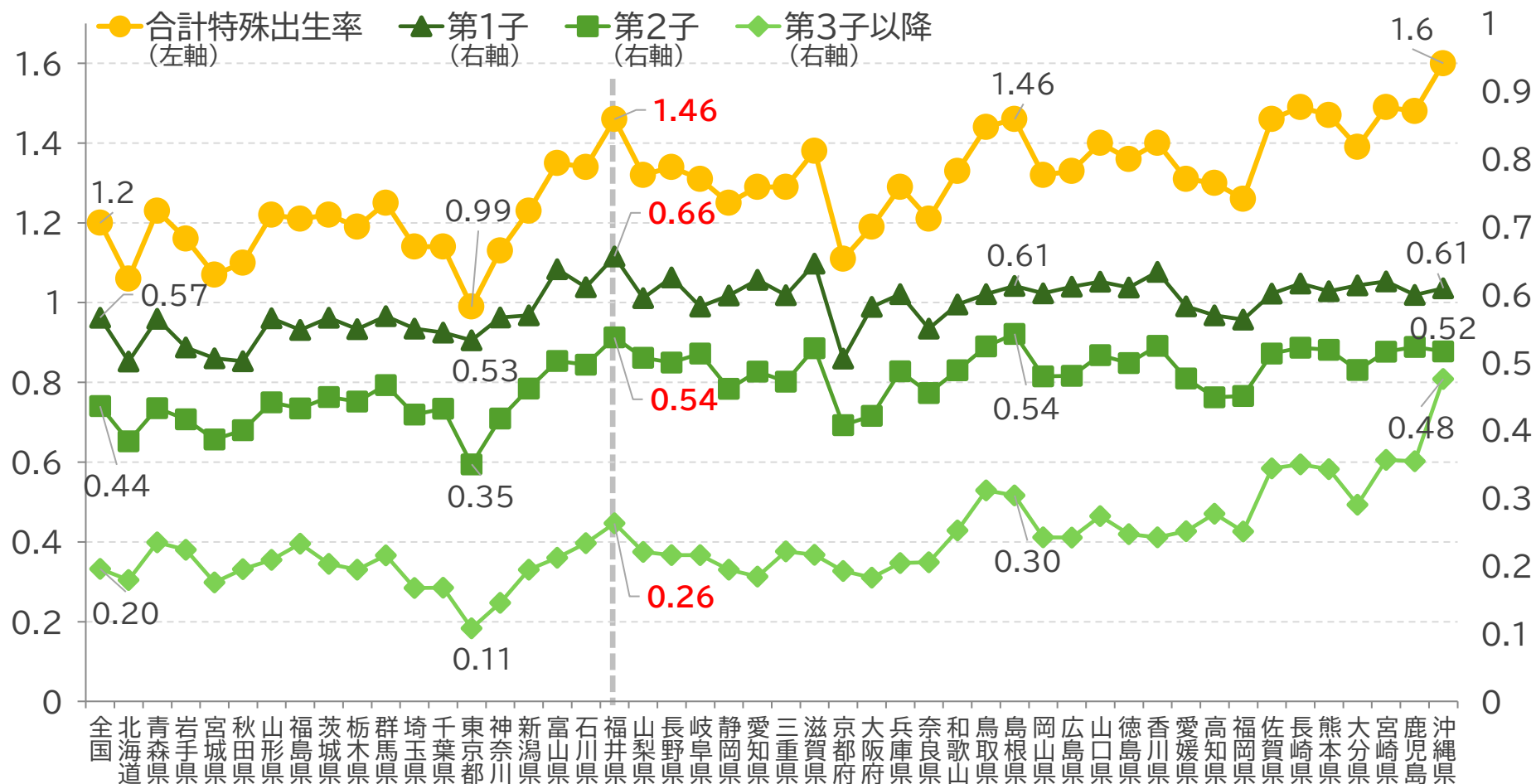
	総数	第1子	第2子	第3子以降
2000	8,036	3,671	3,000	1,365
2005	7,148	3,224	2,802	1,122
2010	6,874	3,020	2,638	1,216
2015	6,230	2,796	2,271	1,163
2020	5,313	2,262	2,010	1,041
2023	4,563	1,978	1,708	877



2.自然増減の状況 出生数・出生率の推移

- 出生順位別合計特殊出生率では、本県の第1子と第2子は全国トップレベル
- 第3子の合計特殊出生率は12位で、沖縄など上位県と比べてやや低い傾向

図表2-29 出生順位別出生率 全国比較(2023)

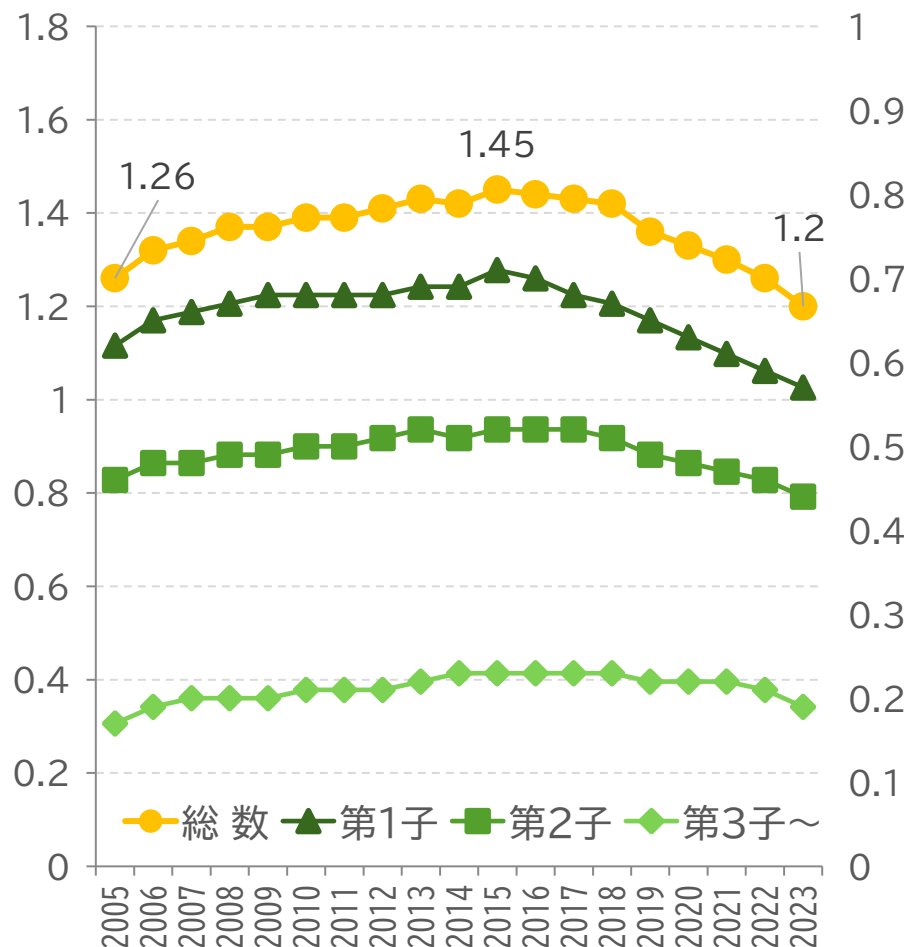


2.自然増減の状況 出生数・出生率の推移

○全国の合計特殊出生率は2015年以降継続して低下、本県は近年低下傾向

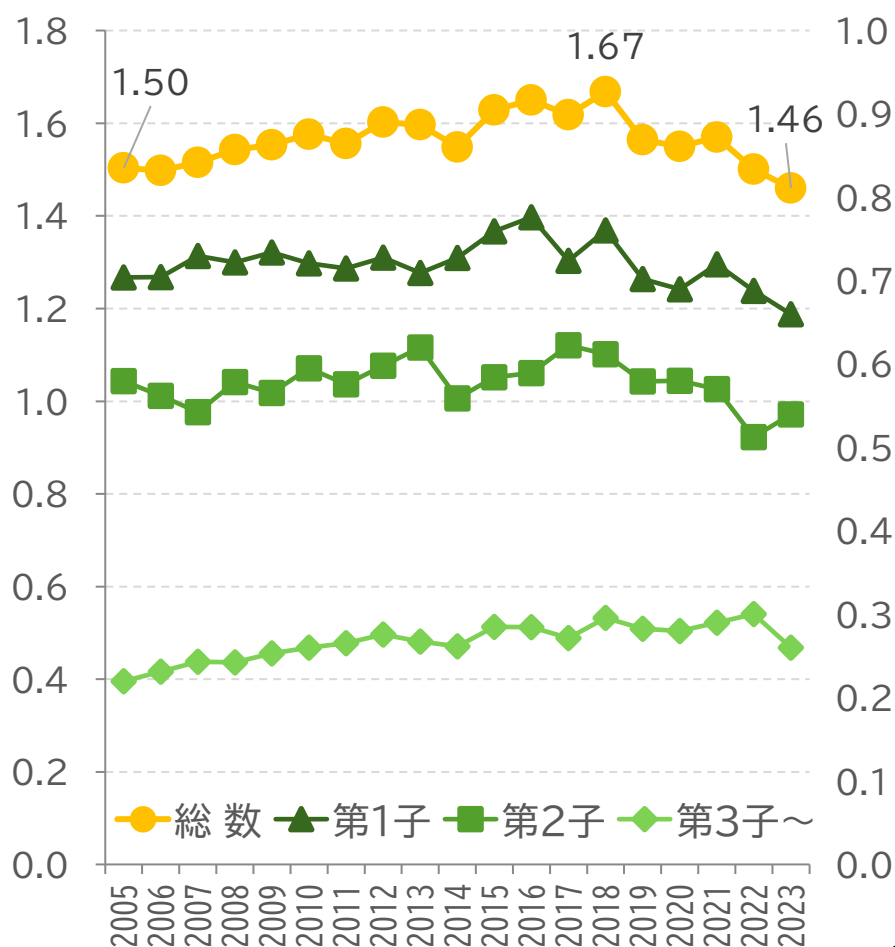
○本県においては第3子の出生率は継続して上昇傾向、第1、2子は若干の低下傾向

図表2-30 出生順位別出生率(全国)



出典:厚生労働省「人口動態統計」

図表2-31 出生順位別出生率(福井県)

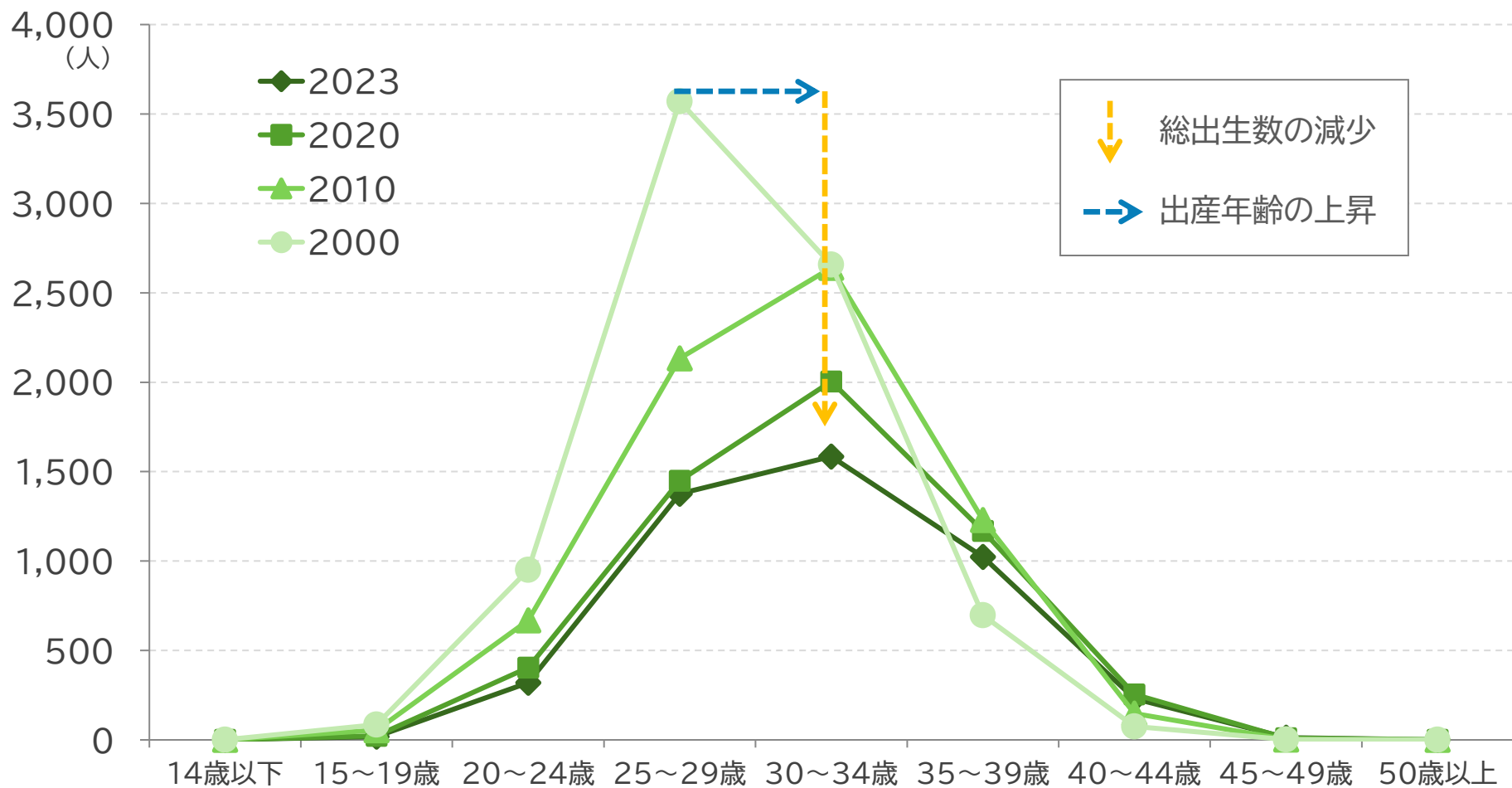


出典:厚生労働省「人口動態統計」

2.自然増減の状況 出生数・出生率の推移

○本県においては出産のピークは20代後半から30代前半にシフト

図表2-32 出産年齢別出生数(福井県)



2.自然増減の状況 夫婦のワークライフバランス

- 夫の家事・育児時間とこども1人以上の夫婦における第2子以降の出生に正の相関
- 第2子以降の出生に対する夫の家事・育児時間の影響度は、最近の夫婦の方が大きい
(平成14年度成年者よりも、平成24年度成年者の方が影響が大きい)

図表2-33 夫の休日の家事・育児時間別に見た第2子以降の出生状況(全国)

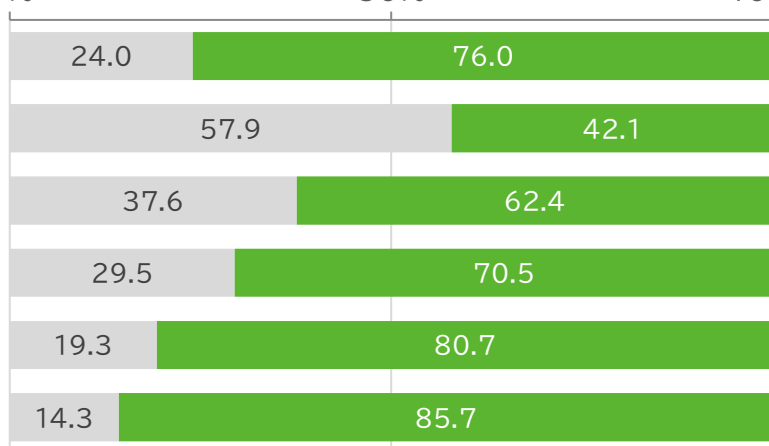
【夫の休日の家事・育児時間別に見た第2子以降の出生状況(平成24年度成年者)】

(単位:%)

夫の休日の 家事・育児時間		総数		子どもなしの夫婦		子ども1人以上の夫婦	
		出生あり	出生なし	第1子出生あり	出生なし	第2子以降出生あり	出生なし
総数	(100.0)	72.5	27.5	57.0	43.0	86.2	13.8
家事・育児時間なし	(3.6)	59.6	40.4	63.8	36.2	40.0	60.0
2時間未満	(31.8)	61.4	38.6	57.8	42.2	78.0	22.0
2～4時間未満	(22.9)	69.5	30.5	54.8	45.2	84.5	15.5
4～6時間未満	(12.5)	83.0	17.0	48.6	51.4	90.3	9.7
6時間以上	(24.1)	87.3	12.7	46.2	53.8	88.7	11.3

【こども1人以上の夫婦の第2子以降出生(平成14年度成年者)】

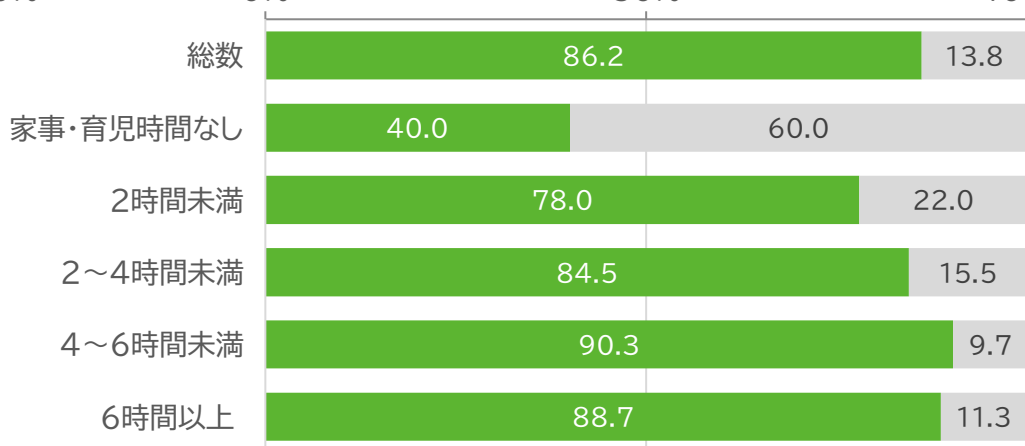
0% 50% 100%



■ 出生なし ■ 出生あり

【こども1人以上の夫婦の第2子以降出生(平成24年度成年者)】

0% 50% 100%



■ 出生あり ■ 出生なし

2.自然増減の状況 夫婦のワークライフバランス

○男性は女性と比べて仕事、女性は男性と比べて家事・育児時間が多く、男女ともにゆとり時間が少ない

図表2－34 男女別 行動の種類別総平均時間

【家事・育児時間】

	総平均時間	全国順位※
男性(夫)	2時間1分	5位(長い)
女性(妻)	6時間20分	12位(長い)
差	4時間19分女性が多い	

【仕事時間】

	総平均時間	全国順位
男性(夫)	5時間40分	47位(短い)
女性(妻)	3時間10分	40位(短い)
差	2時間30分男性が多い	

【ゆとり時間】

	総平均時間	全国順位
男性(夫)	3時間13分	36位(短い)
女性(妻)	2時間25分	38位(短い)
差	48分男性が多い	

【条件】

週平均/夫婦/夫婦ともに有業者(共働き)/
6歳未満の子どもがいる

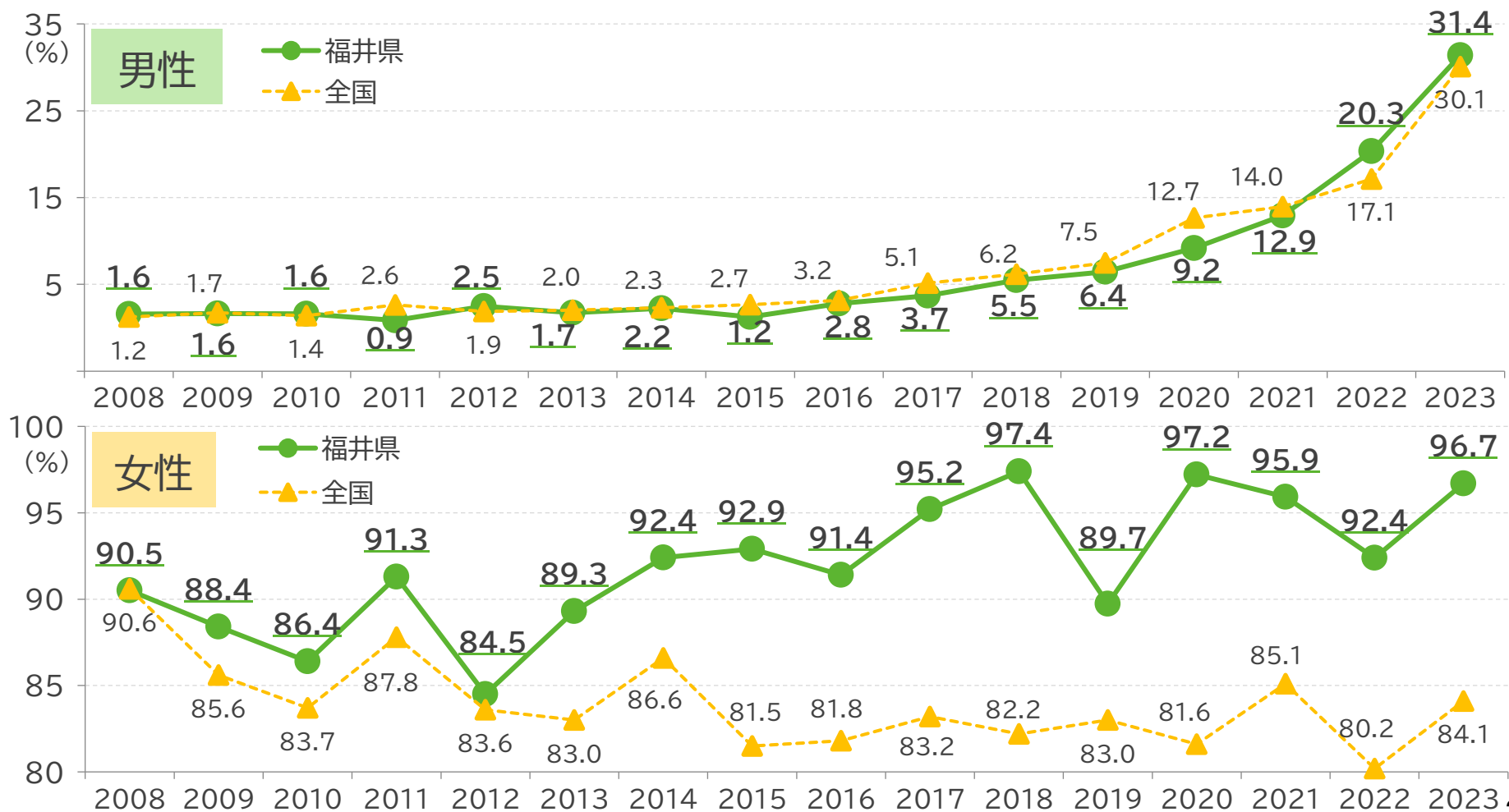
※全国順位は長い順(最も長い都道府県が1位)

2.自然増減の状況 夫婦のワークライフバランス

○本県の女性は全国に比べて育児休業の取得率が高い

○男性の育児休業取得率も31.4%と全国平均を超える水準まで上昇しているが、女性と比較すると低い

図表2-35 育児休業の取得状況



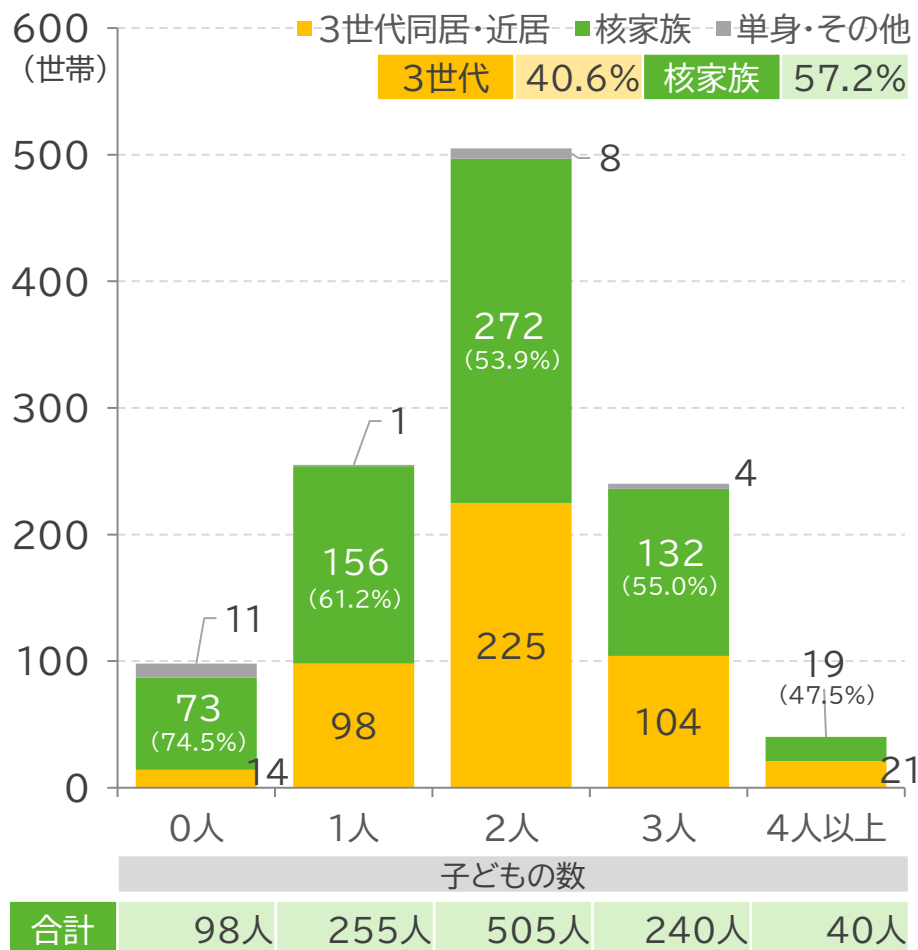
出典：福井県 福井県「勤労者就業環境基礎調査」、全国 厚生労働省「雇用均等基本調査」

2.自然増減の状況 家族形態別子ども数

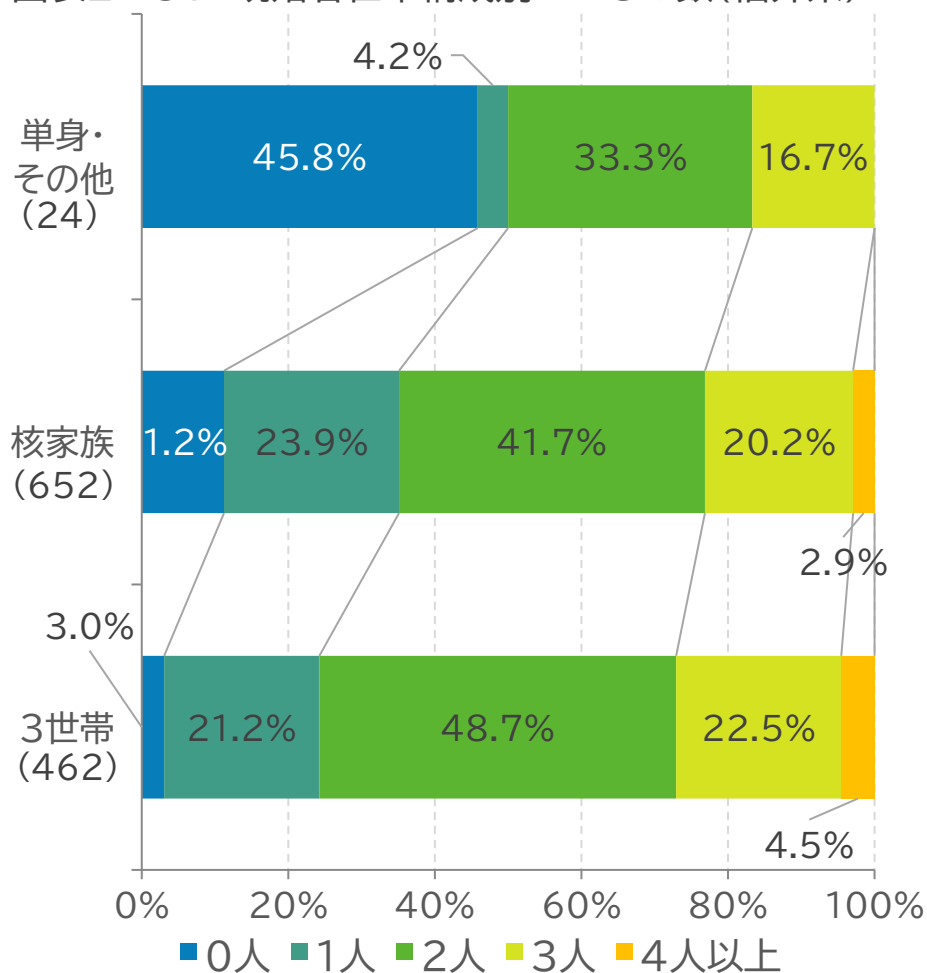
○既婚者の世帯構成について、調査対象者の約57%が核家族

○核家族よりも3世帯家族の方がこどもの数が増える傾向

図表2-36 こどもの数別既婚者世帯構成(福井県)



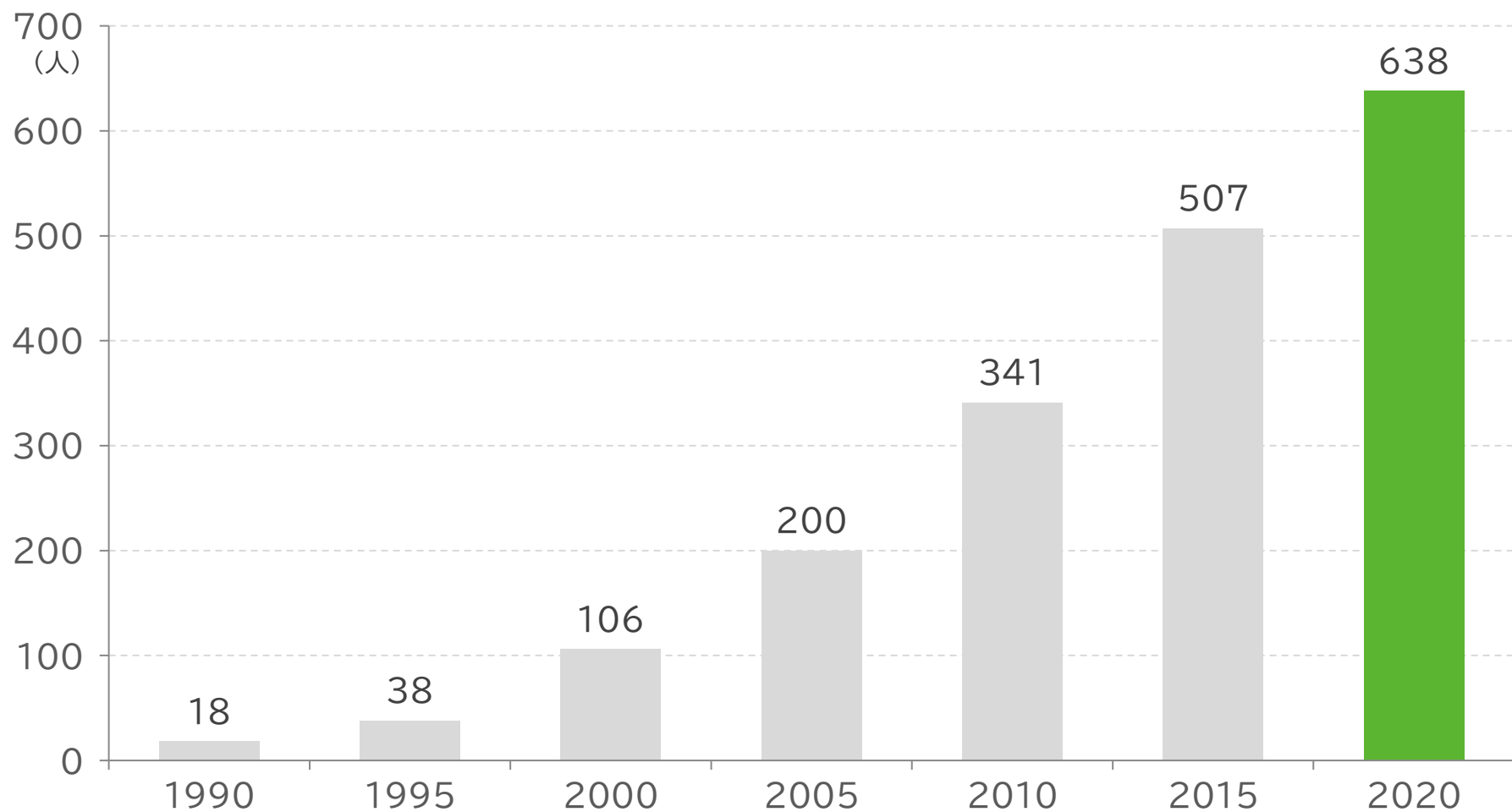
図表2-37 既婚者世帯構成別こどもの数(福井県)



2.自然増減の状況 平均寿命・健康寿命と高齢者の状況

○本県の100歳以上の高齢者は、1990年(18人)から2020年(638人)で約35倍に急増

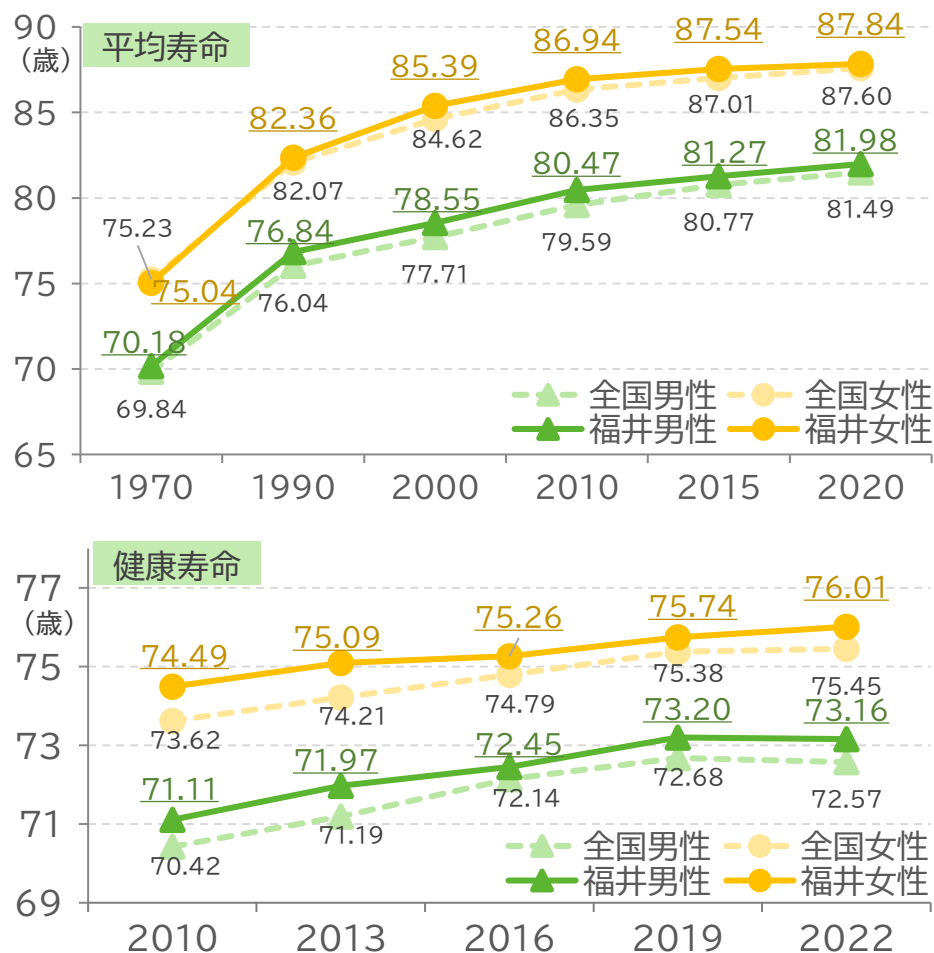
図表2-38 100歳以上の高齢者数(福井県)



2.自然増減の状況 平均寿命・健康寿命と高齢者の状況

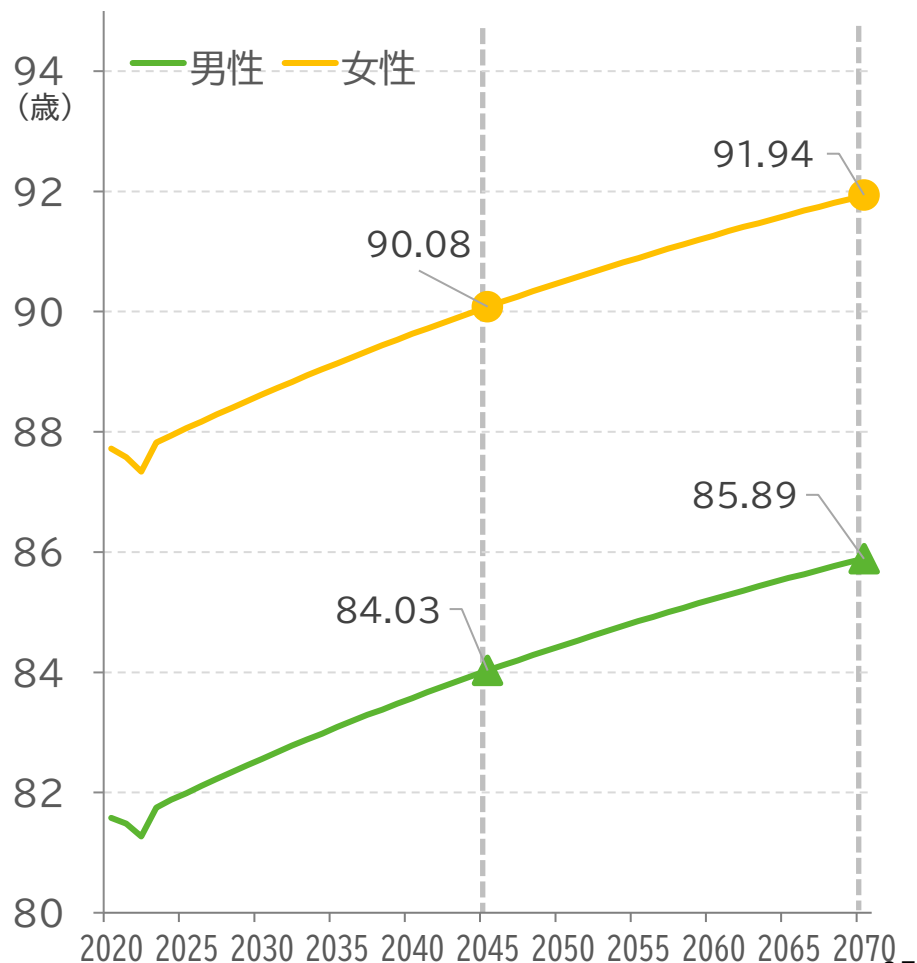
- 本県の平均寿命は全国平均を上回るレベルを維持
- 健康寿命についても全国平均を上回るレベルを維持しながら延伸傾向
- 平均寿命は2070年には男性85.89年、女性は91.94年になると推計

図表2-39 平均寿命と健康寿命



出典: 平均寿命 厚生労働省「都道府県別生命表」
健康寿命 厚生労働省「国民生活基礎調査」等を基に厚生労働省作成

図表2-40 男女別平均寿命推計(死亡中位)



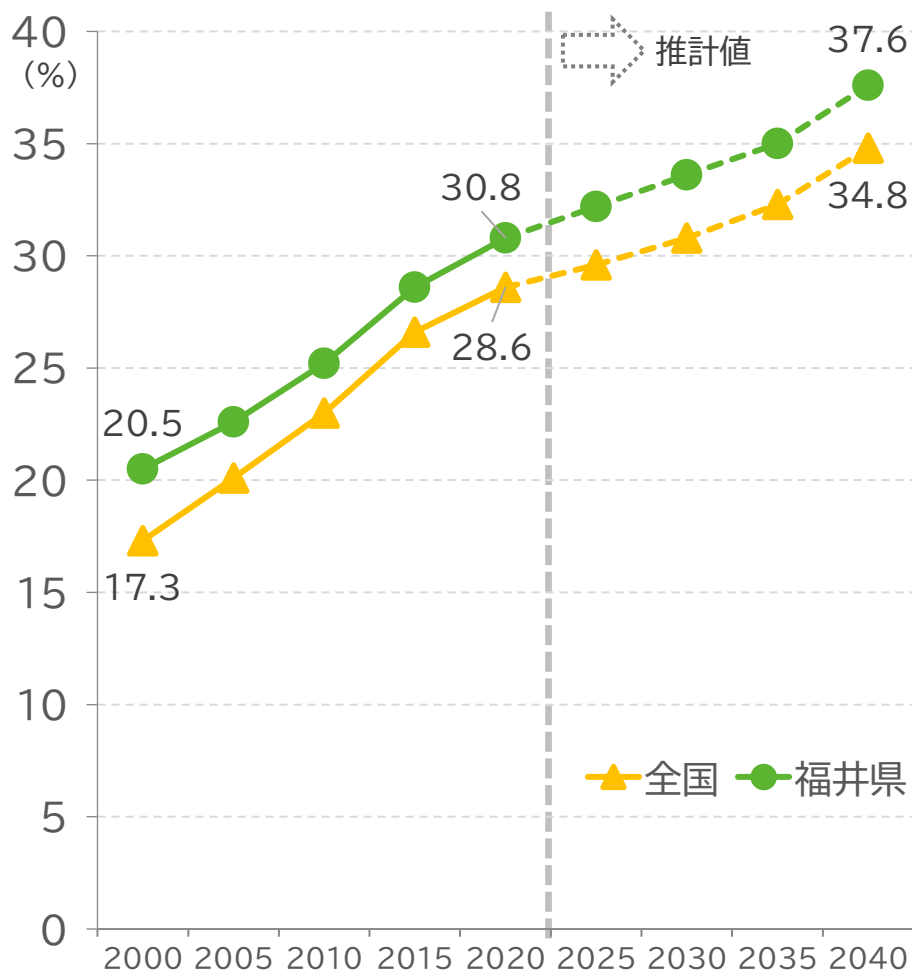
出典: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(2023)

2.自然増減の状況 平均寿命・健康寿命と高齢者の状況

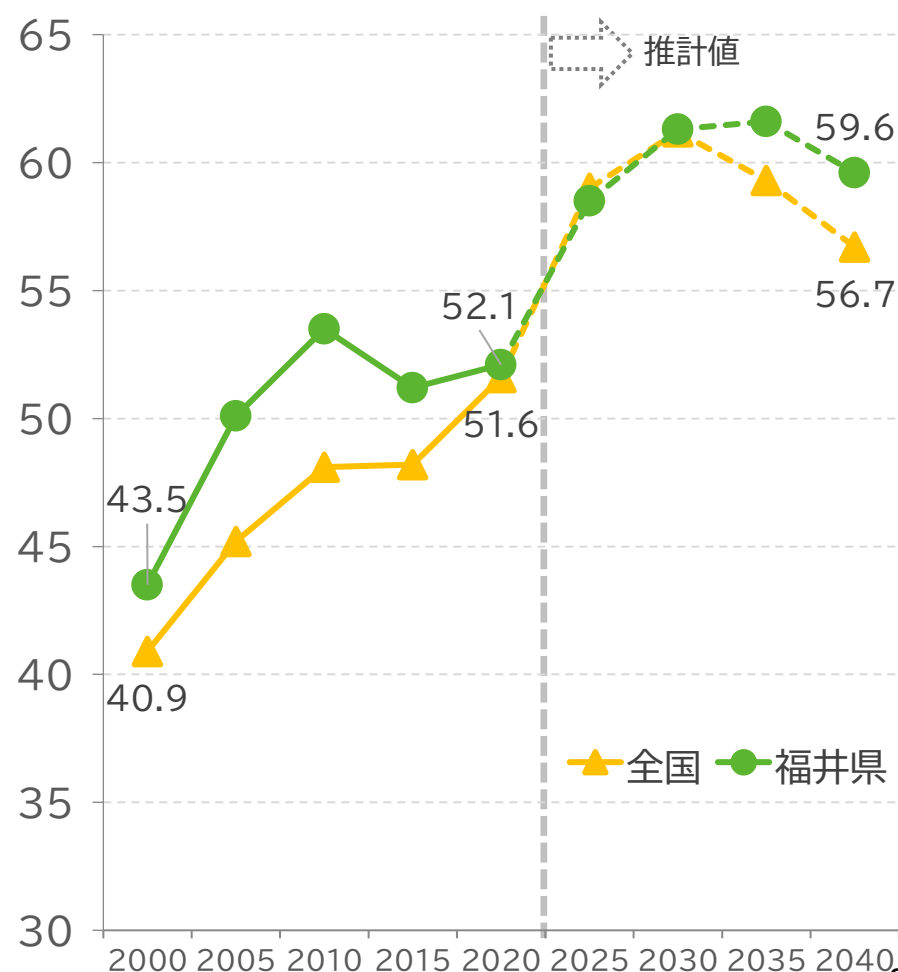
○本県の高齢化率(人口に占める65歳以上の高齢者の割合)は、2020年では30.8%で、今後も高齢化が進展する見込み

○本県の高齢者に占める後期高齢者の割合は2005年に半数を超え、2020年では52.1%で、当面の間上昇する見込み

図表2-41 高齢化率



図表2-42 高齢者に占める後期高齢者割合

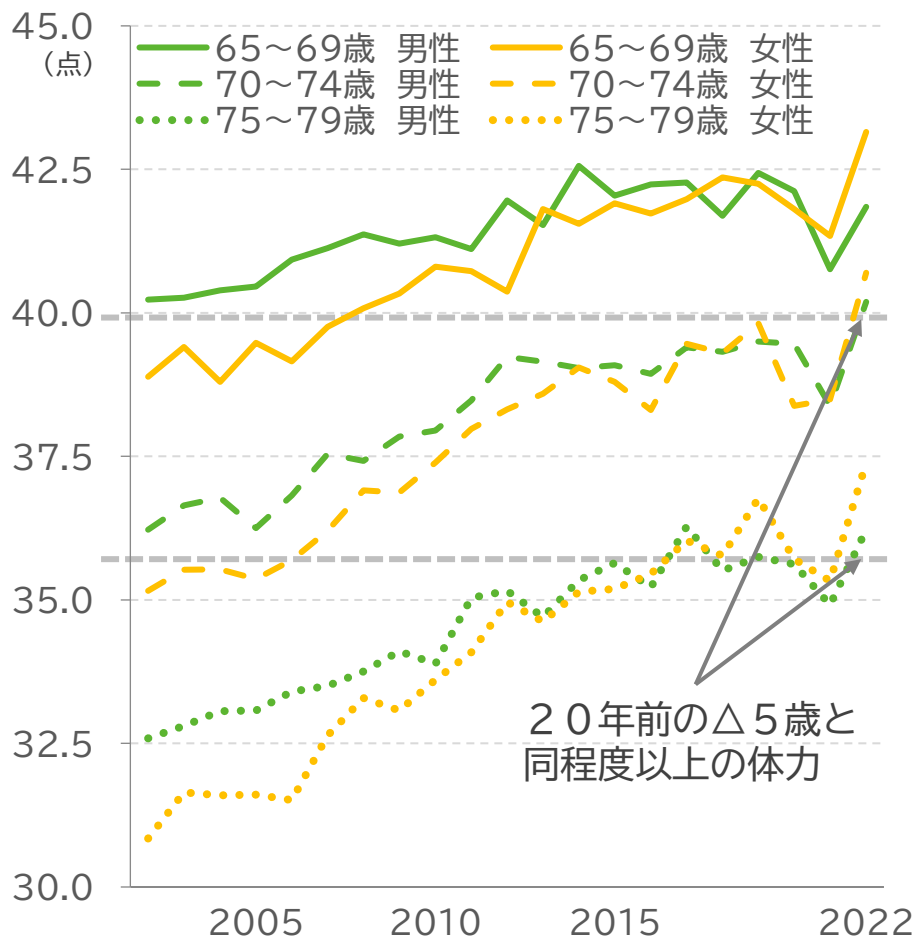


2.自然増減の状況 平均寿命・健康寿命と高齢者の状況

○本県の高齢者の体力・運動能力は、20年で5歳程度以上若返り

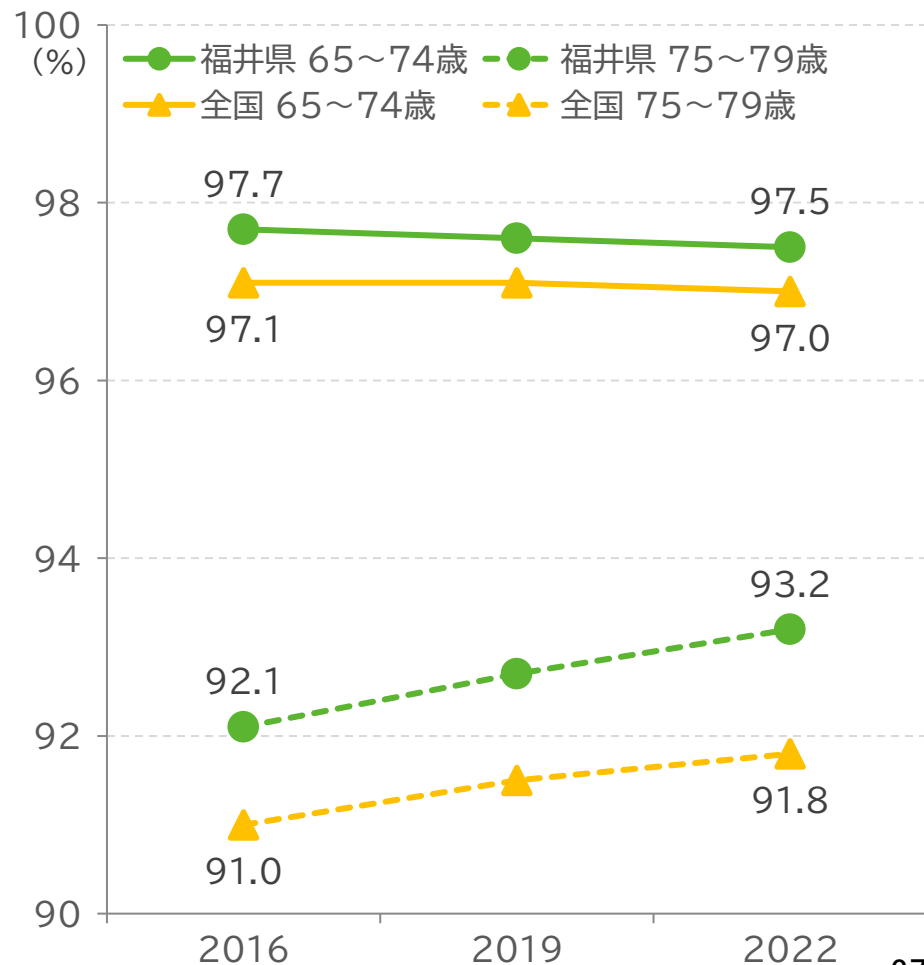
○本県の高齢者全体に占める要介護1以上の認定を受けない高齢者の割合(元気生活率)は全国と比較して高い

図表2-43 高齢者の体力・運動能力(福井県)
(握力や開眼片足立ちなど6種目の合計点を比較)



出典:スポーツ庁「体力・運動能力調査」

図表2-44 高齢者元気生活率

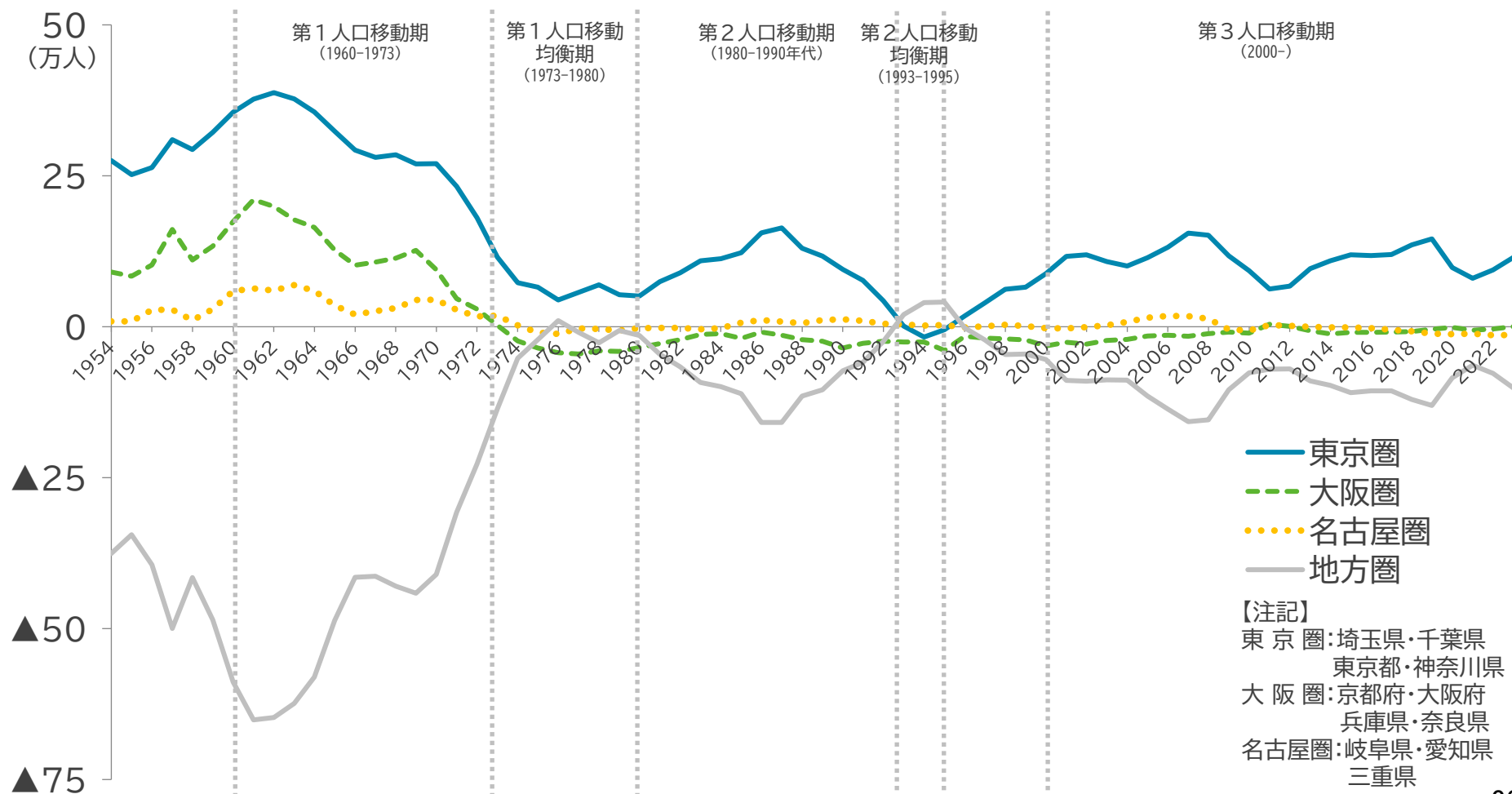


出典:厚生労働省「介護保険事業状況報告」(75-79歳 福井県推計)

3.社会増減の状況 社会増減の推移

○新型コロナウイルス感染症の流行の影響により2020年以降人口移動が一時的に減少したものの、2024年には東京圏への転入超過が11.9万人まで戻る

図表3-1 三大都市圏および地方圏における人口移動の推移

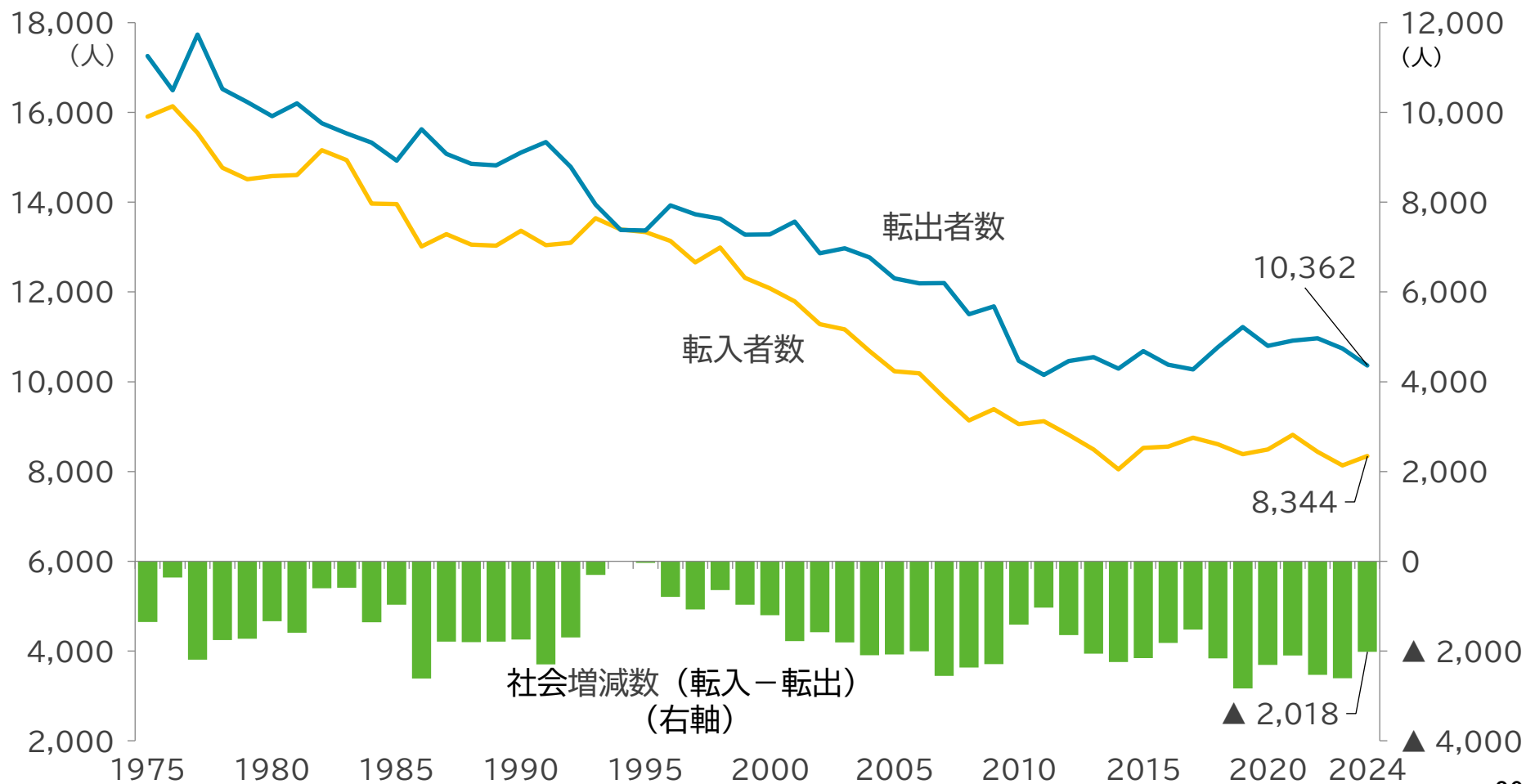


3.社会増減の状況 社会増減の推移

○本県は転出超過(社会減)が長く続いている。新型コロナウイルス感染症の流行の影響により2020年以降転出超過数が一時的に減少

○新型コロナウイルス感染症の収束により転出超過数は再拡大したが、2024年は大幅に改善

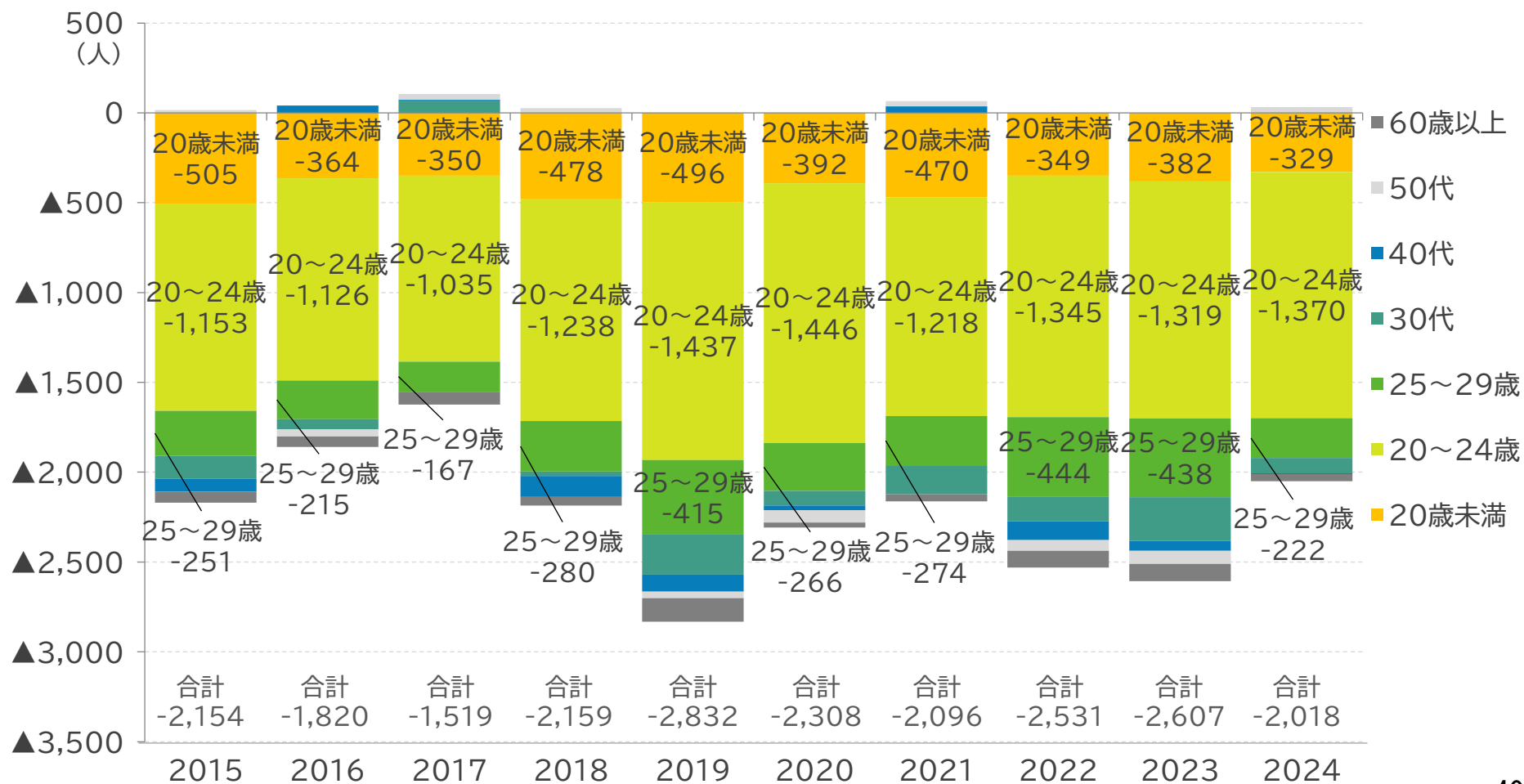
図表3-2 社会増減の推移(福井県)



3.社会増減の状況 県外移動の状況

○大学進学・就職時の県外への転出が多く、社会減全体の6割以上が15-24歳の転出

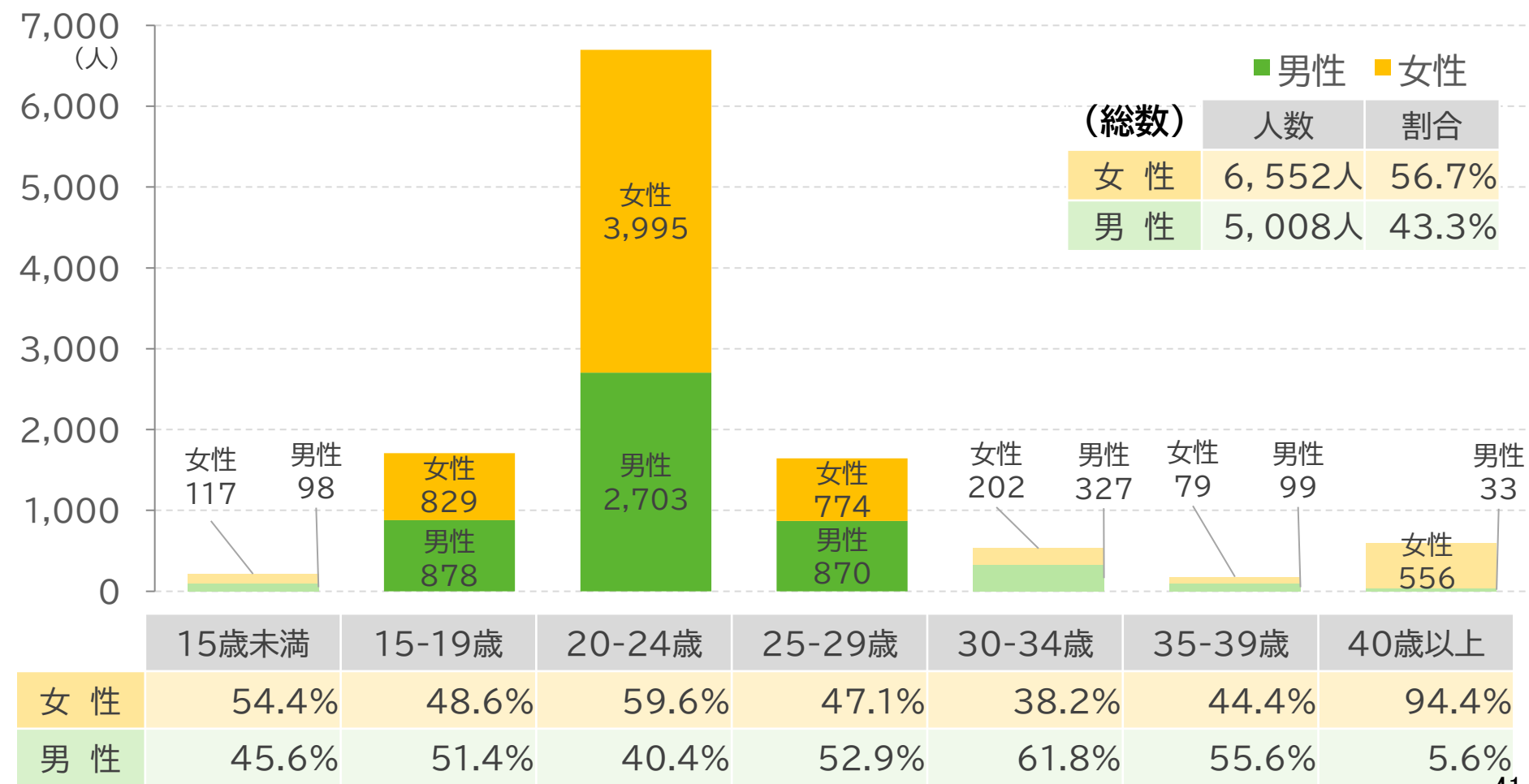
図表3-3 年齢階級別の転入超過数の推移(福井県)



3.社会増減の状況 県外移動の状況

- 直近5年間の転出超過数では、女性が全体の56.7%
- 5歳階級では、転出超過数の最も多い20-24歳で女性が約6割を占めており、全体の男女比に影響

図表3-4 2020-2024 男女別年齢階級別の転出超過数の状況(福井県)

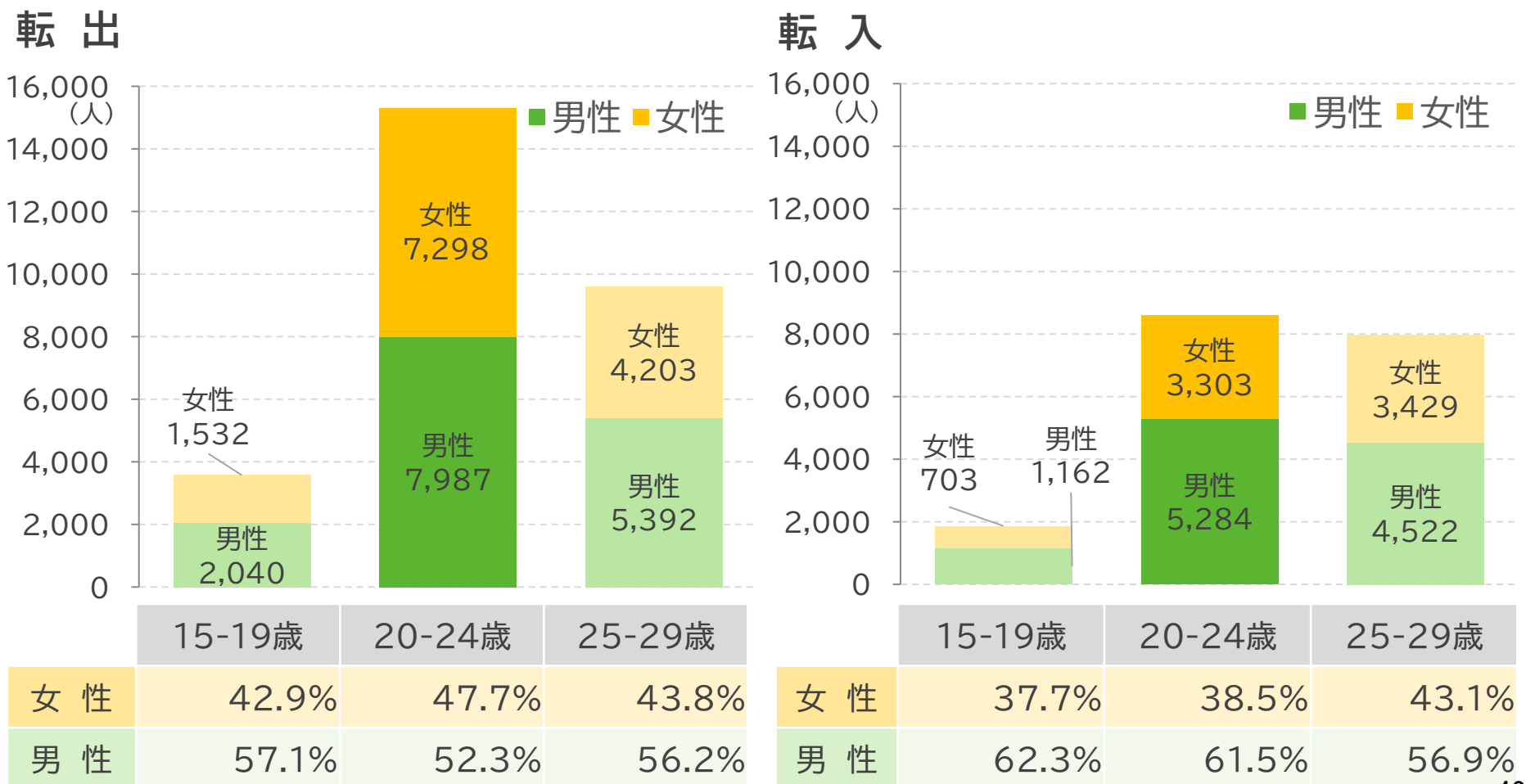


3.社会増減の状況 県外移動の状況

○15-29歳については、転入・転出ともに男性の方が多いものの、女性の転入数が少ないため、転出超過数では女性の方が多い

○特に20～24歳については、転出の約5割を女性が占める一方、転入で女性が占める割合は4割を切っている

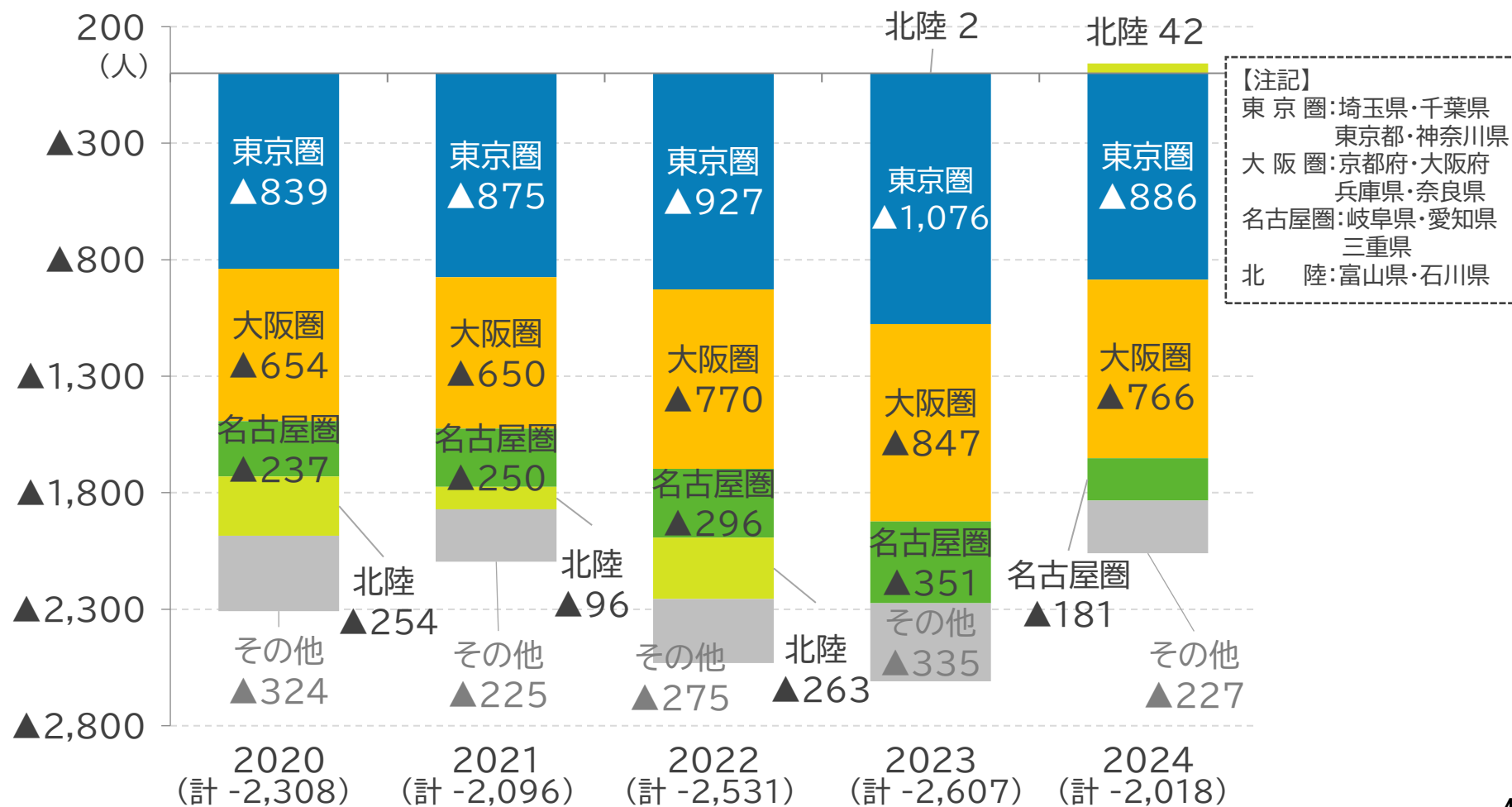
図表3-5 2020-2024 男女別年齢階級別の転入数、転出数の状況(福井県)



3.社会増減の状況 県外移動の状況

○東京圏、大阪圏、名古屋圏の三大都市圏への転出が転出超過の大部分を占め、特に東京圏への転出超過が
高水準を維持

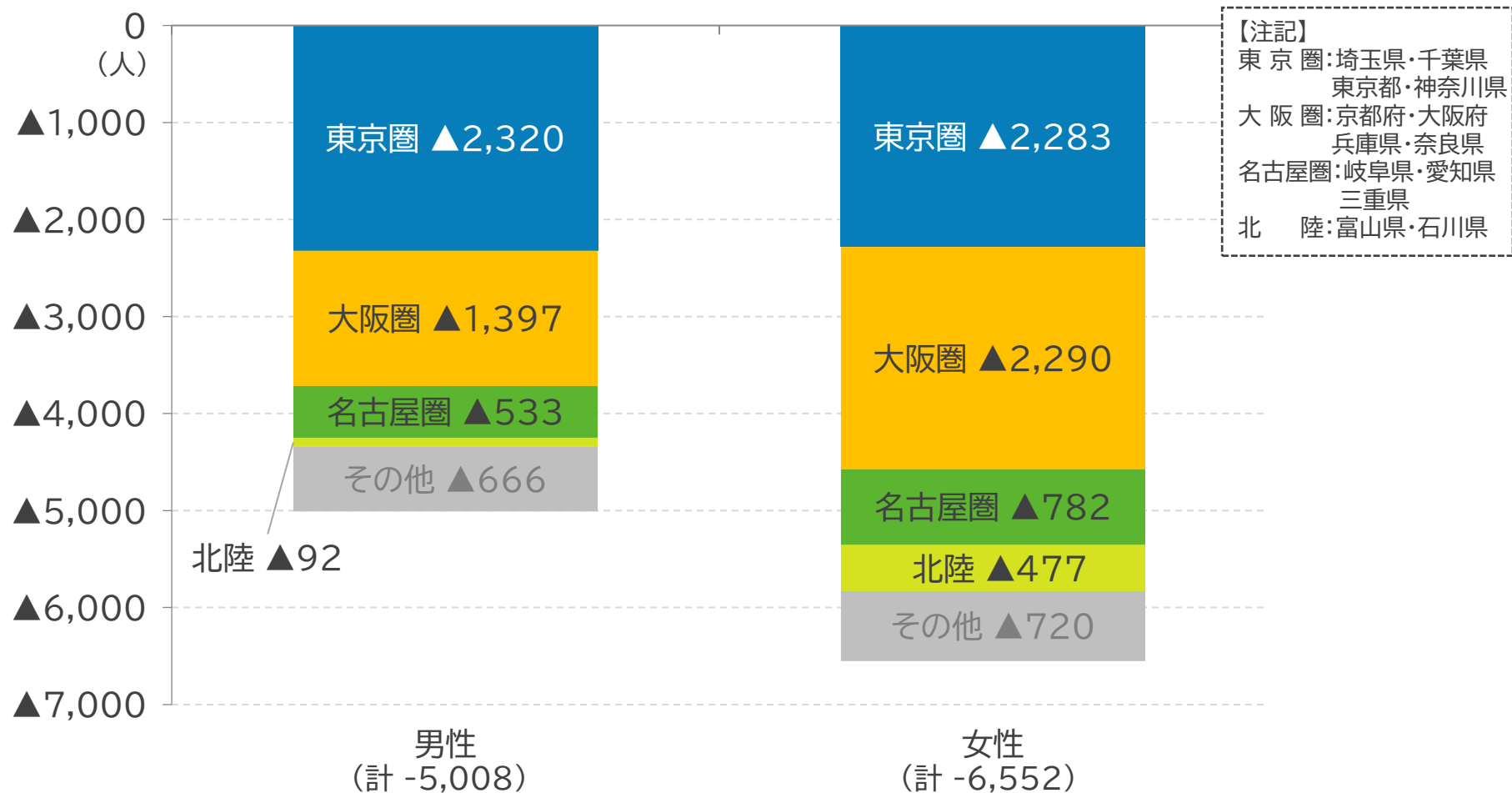
図表3-6 地域ブロック別の転入超過数の推移(福井県)



3.社会増減の状況 県外移動の状況

○男女別に見ると、男性は東京圏、女性は大阪圏に対する転出超過が最も大きい

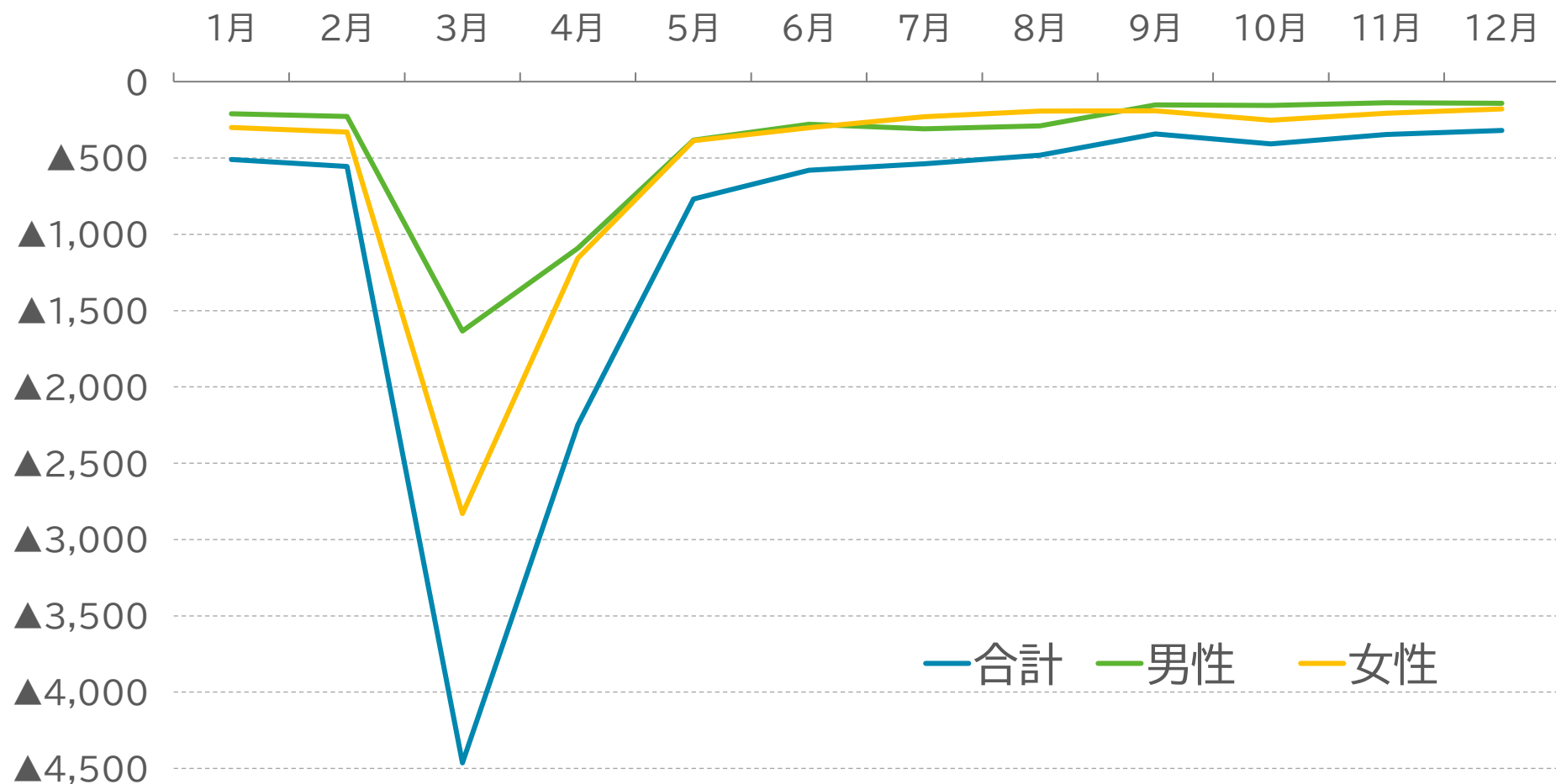
図表3-7 2020-2024 男女別地域ブロック別の転入超過数の状況(福井県)



3.社会増減の状況 県外移動の状況

- 直近5年間の県外移動状況について、月別では3月の転出超過が最も大きい
- 男女別でも月別の転出超過は同様の傾向

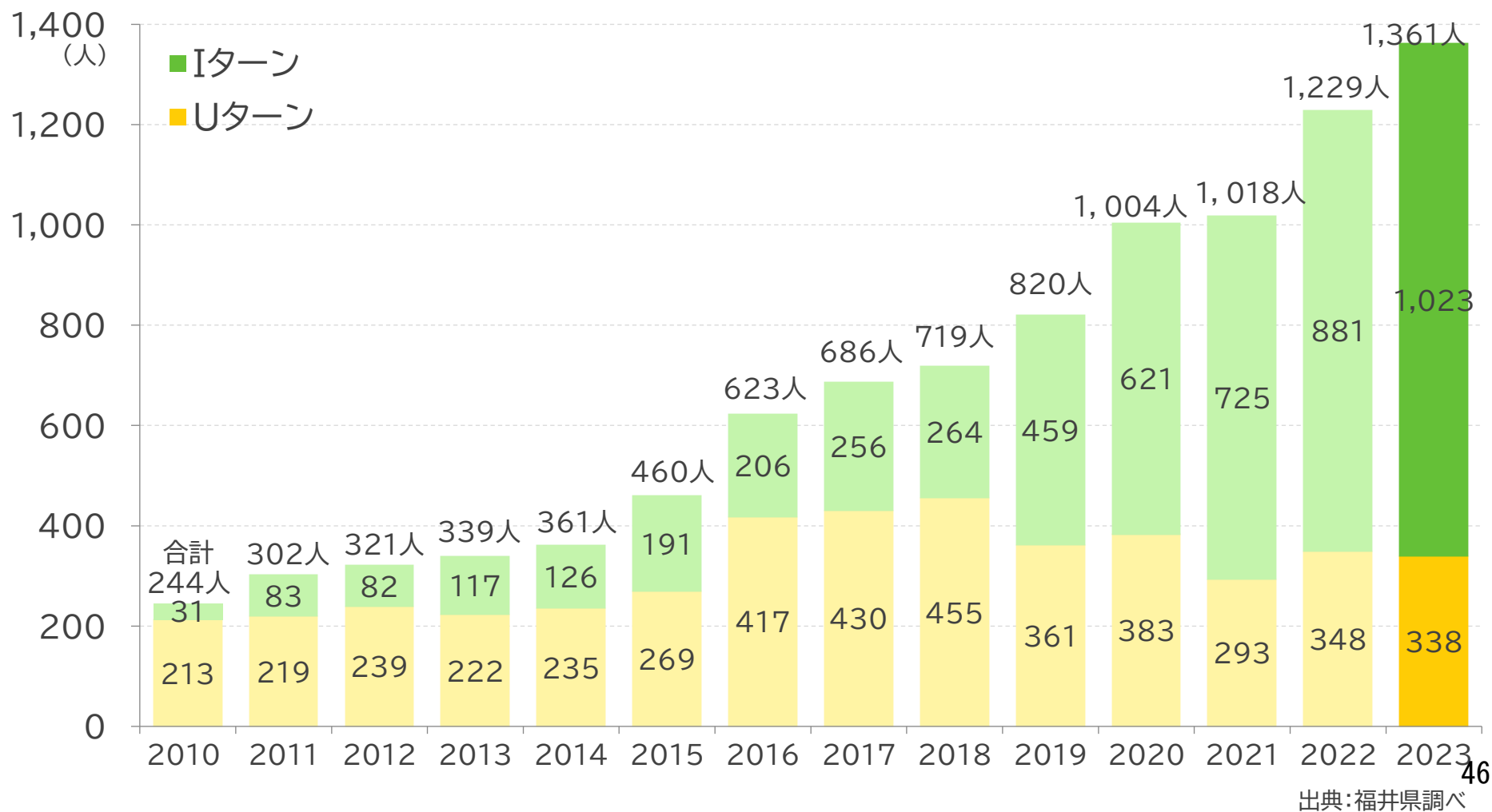
図表3-8 2020-2024 月別男女別の転入超過数の状況(福井県)



3.社会増減の状況 Uターンの状況

○県・市町の支援を受けたU・Iターン者（新ふくい人）は近年増加傾向にあり、Iターン者が大きく増加

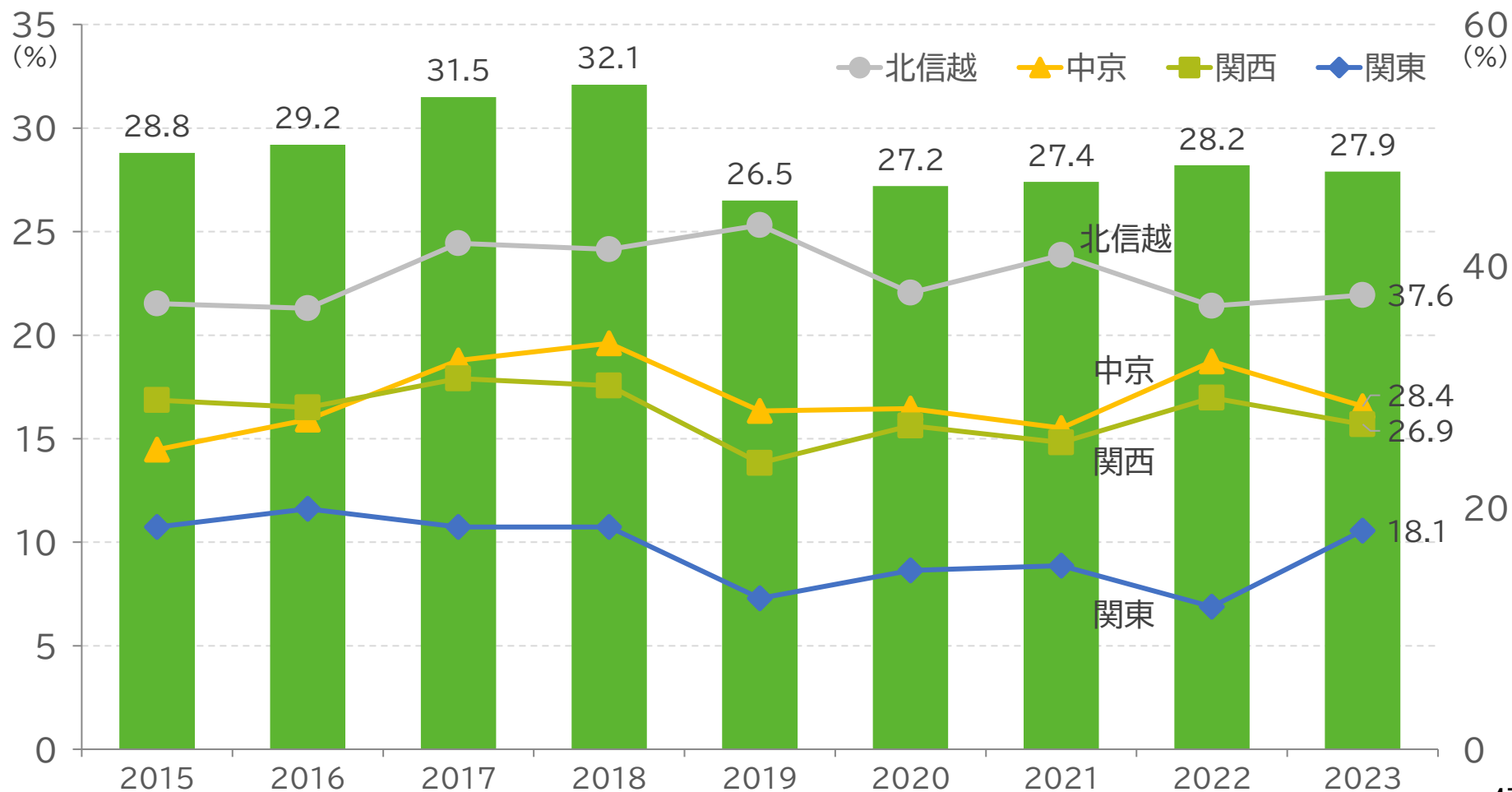
図表3-9 新ふくい人(県・市町の支援を受けたU・Iターン者)数の推移



3.社会増減の状況 Uターンの状況

○新卒学生のUターン就職率は、都市圏大企業の採用拡大の影響により2019年度に落ち込み、その後はやや増加傾向

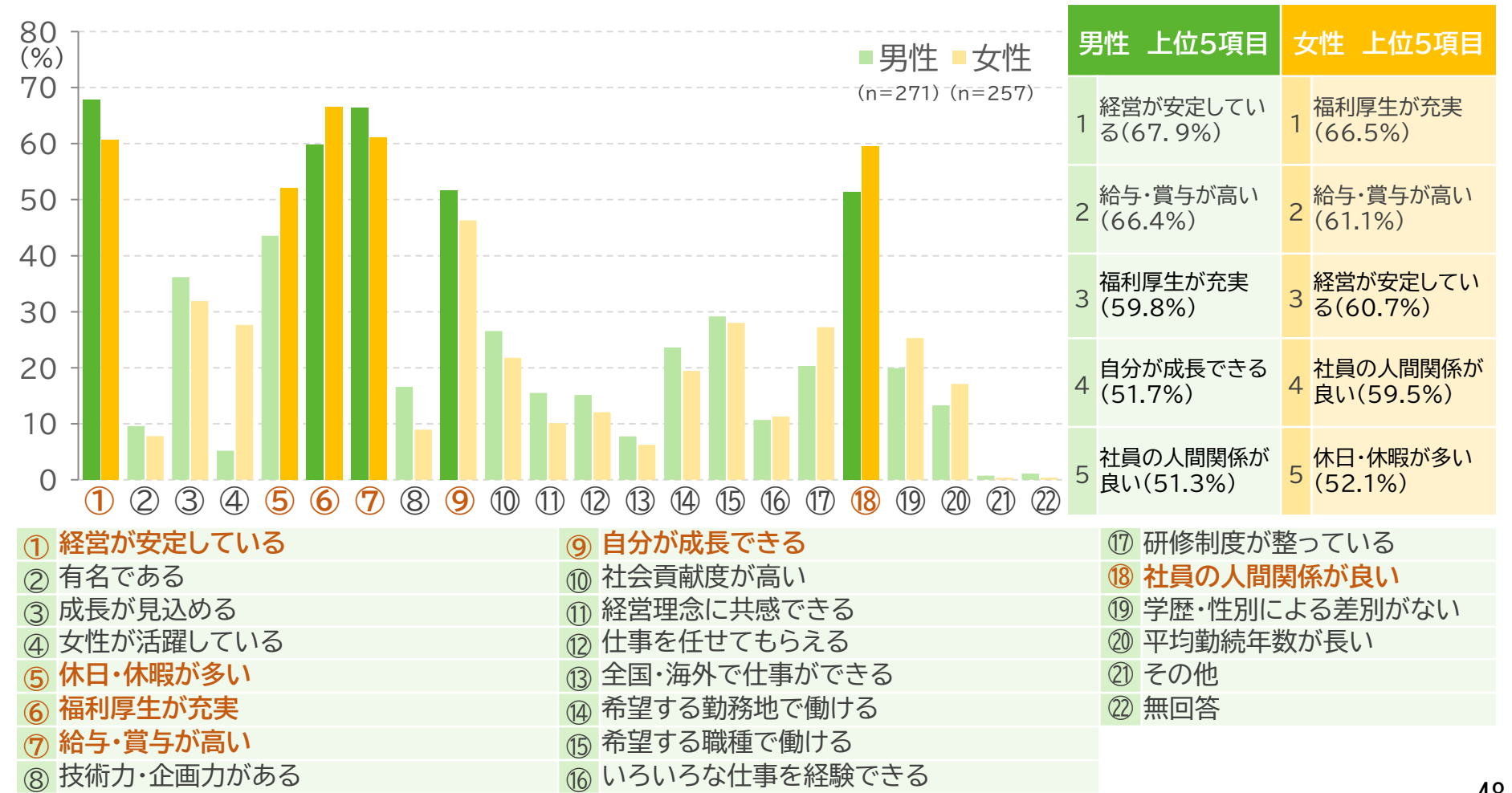
図表3-10 地域別の学生Uターン就職率の推移(福井県)



3.社会増減の状況 UIターンの状況

○新規学卒者が考える「良い企業」の条件は、上位5項目は男女ともにほぼ同じ項目が並ぶが、男性は経営の安定性を、女性は福利厚生をより重視する傾向

図表3-11 【新規学卒者】良い企業とはどのような企業か(福井県) ※複数選択

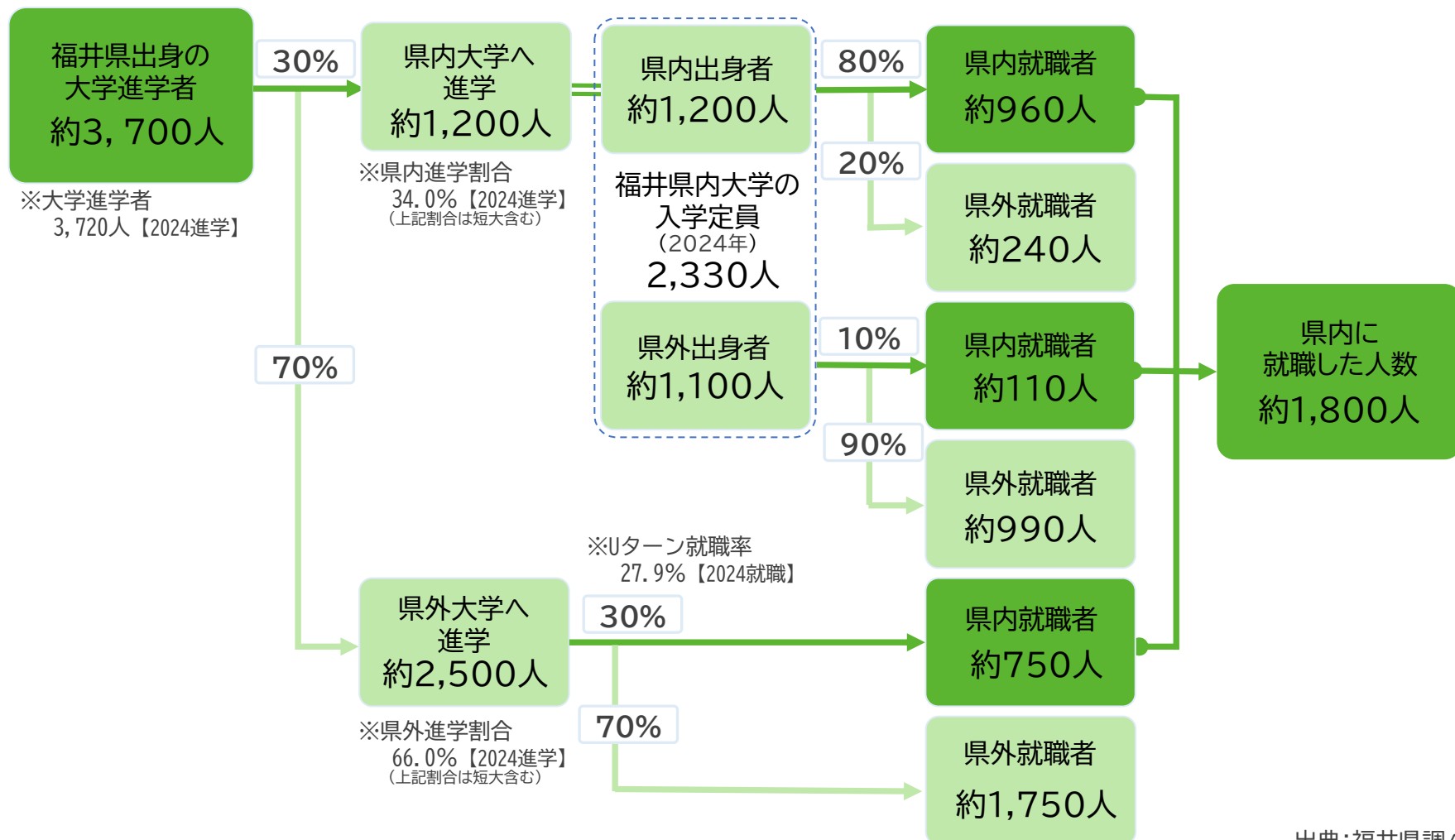


3.社会増減の状況 Uターンの状況

○本県出身の大学進学者のうち、約7割が県外大学へ進学し、県外大学へ進学した人のうち本県で就職する人は約3割

○県内大学へ進学した人のうち、本県で就職する者は約8割

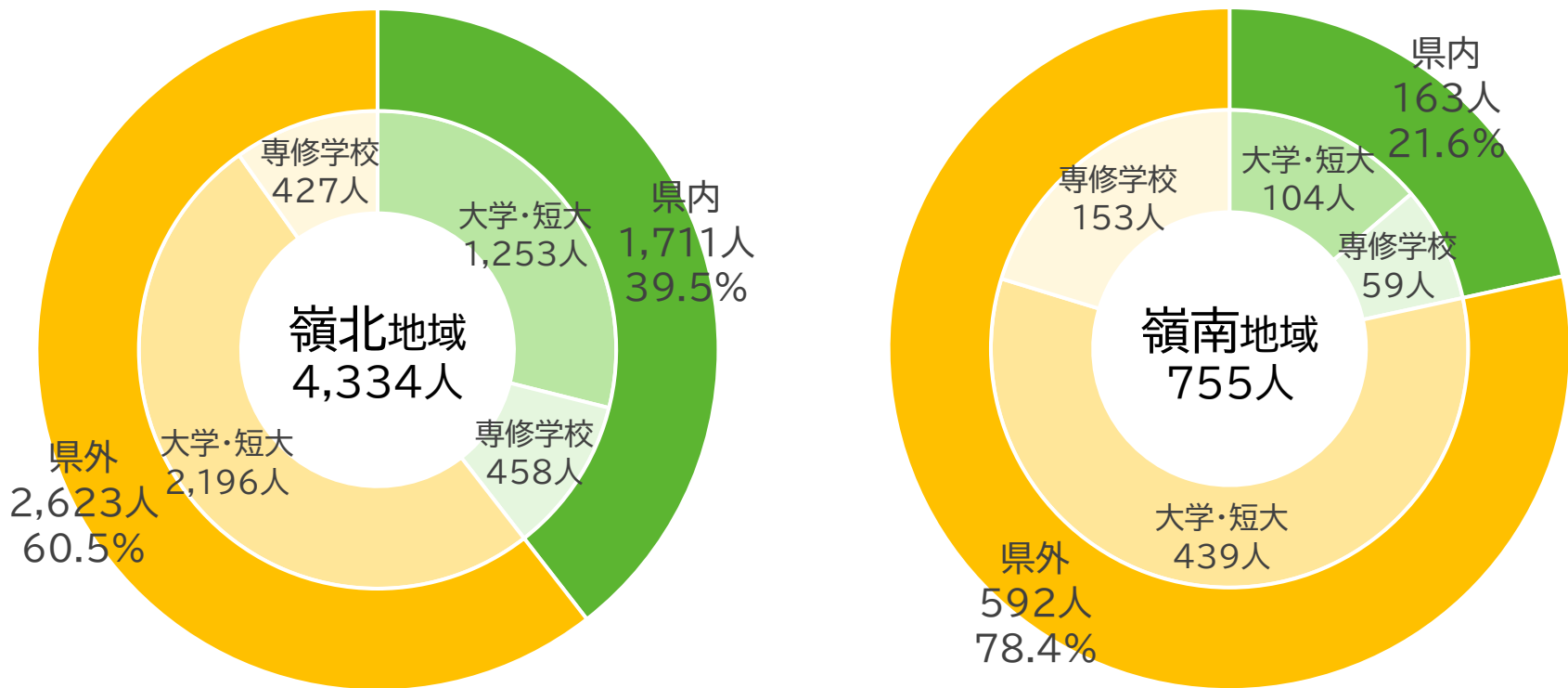
図表3-12 若者の県内定着率の状況



3.社会増減の状況 Uターンの状況

- 県内高校生の県外への進学率は、大学等で7割弱、専修学校で約5割
- 嶺南地域の高校生は、約8割が県外大学等・専修学校に進学しており、嶺北に比べて県外進学率が高い

図表3－13 県内高校生の大学等・専修学校への進学状況(2024.4)



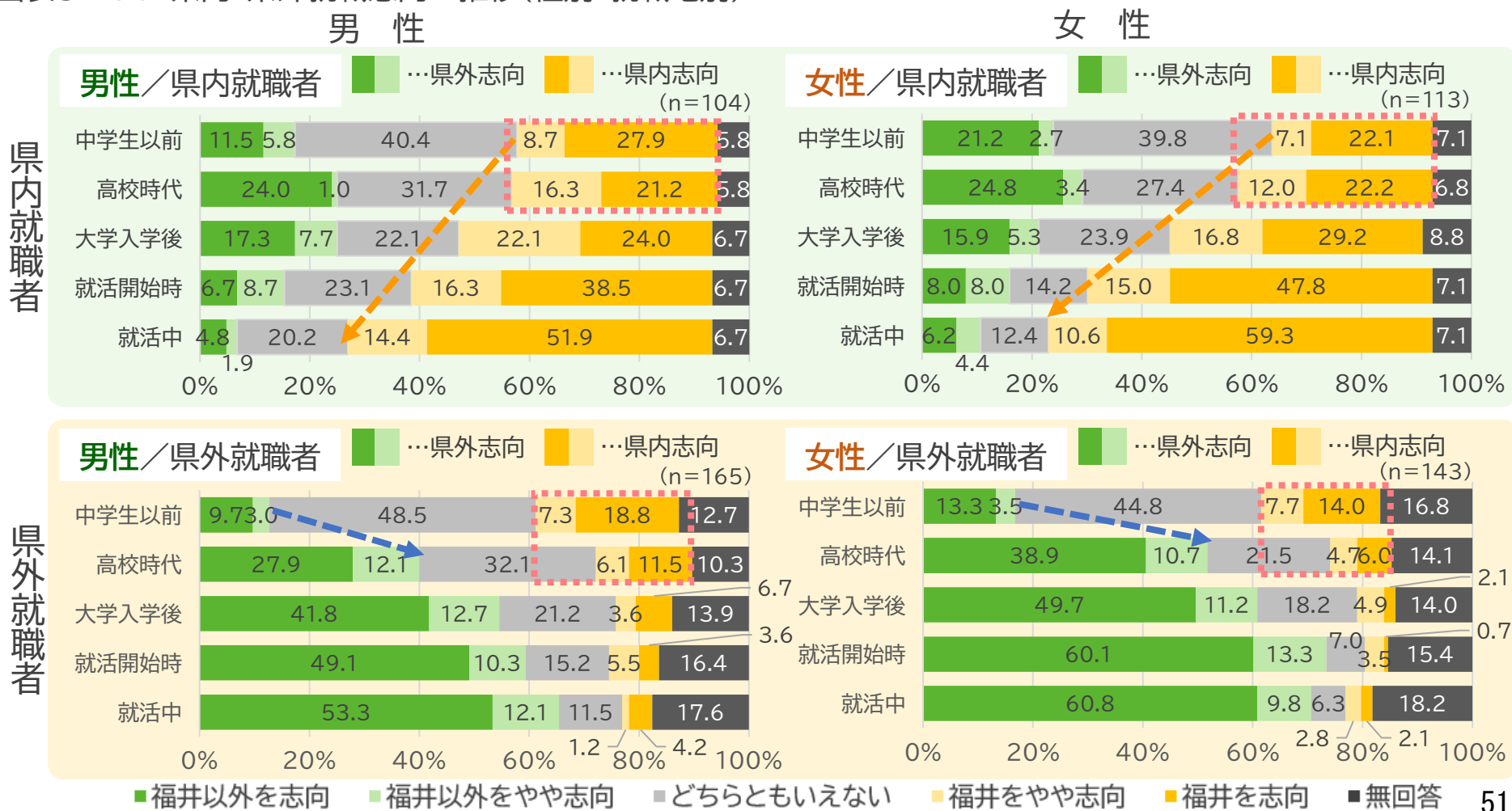
2024.4進学状況

	大学・短大	専修学校	計
県内進学	1,357人(34.0%)	517人(47.1%)	1,874人(36.8%)
県外進学	2,635人(66.0%)	580人(52.9%)	3,215人(63.2%)

3.社会増減の状況 UIターンの状況

- 県内就職者と県外就職者を比較すると、中学生・高校生の時点で県内を志向する割合に大きな差
- 県内就職者の県内志向は、男女ともに中学時代から就活にかけて徐々に高まる -->
- 県外就職者の県外志向は、男女ともに高校時代に高まっており、特に女性が急激に高まる -->

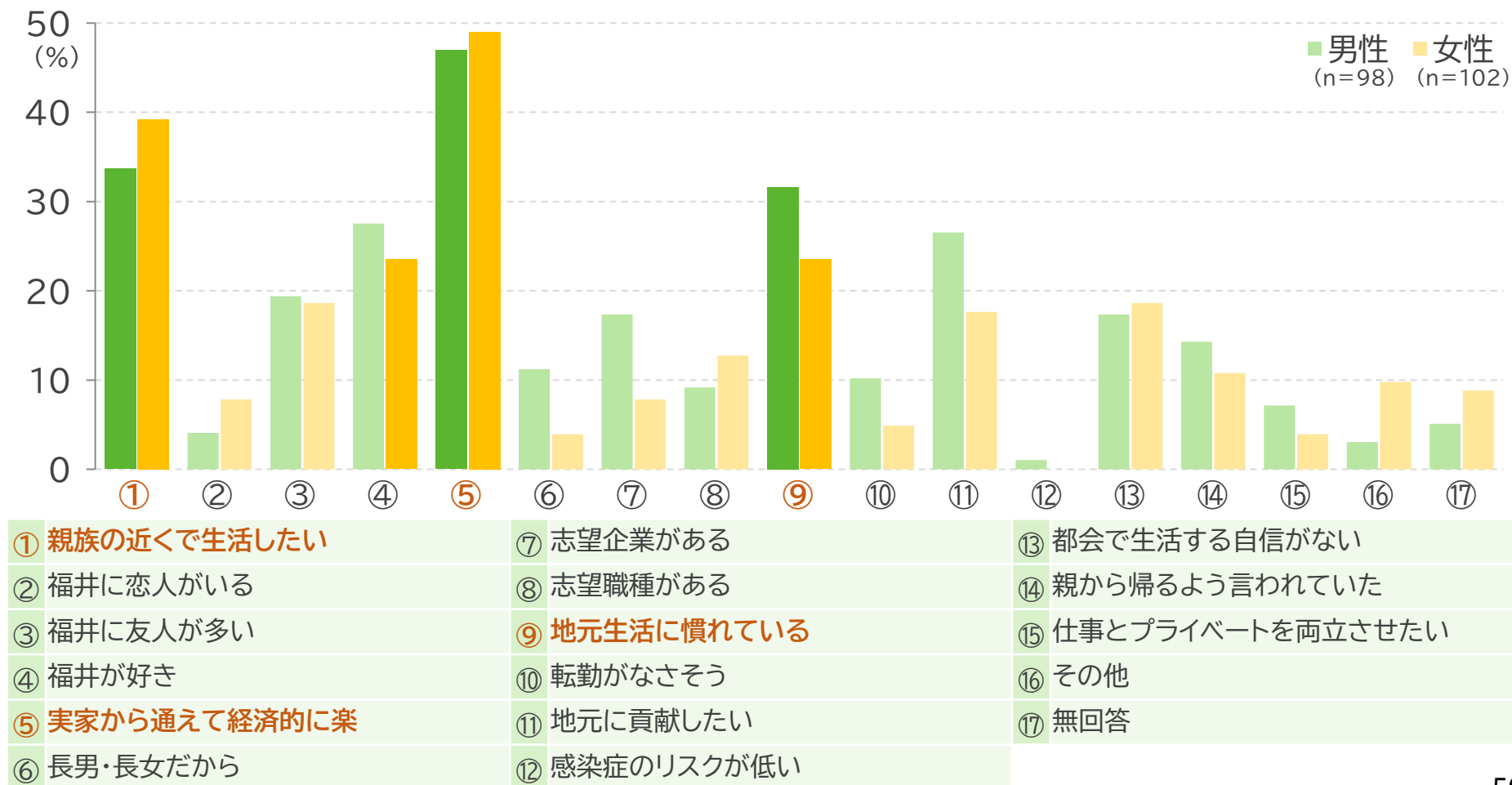
図表3-14 県内・県外就職意向の推移(性別・就職地別)



3.社会増減の状況 Uターンの状況

○福井県内就職者が県内に就職した理由は、・親族の近くで生活したい/・経済的に楽/・地元生活に慣れているが男女ともにトップ3（女性は・福井が好き が同率3位）

図表3-15 【県内就職者向け】福井で就職した理由 ※複数選択

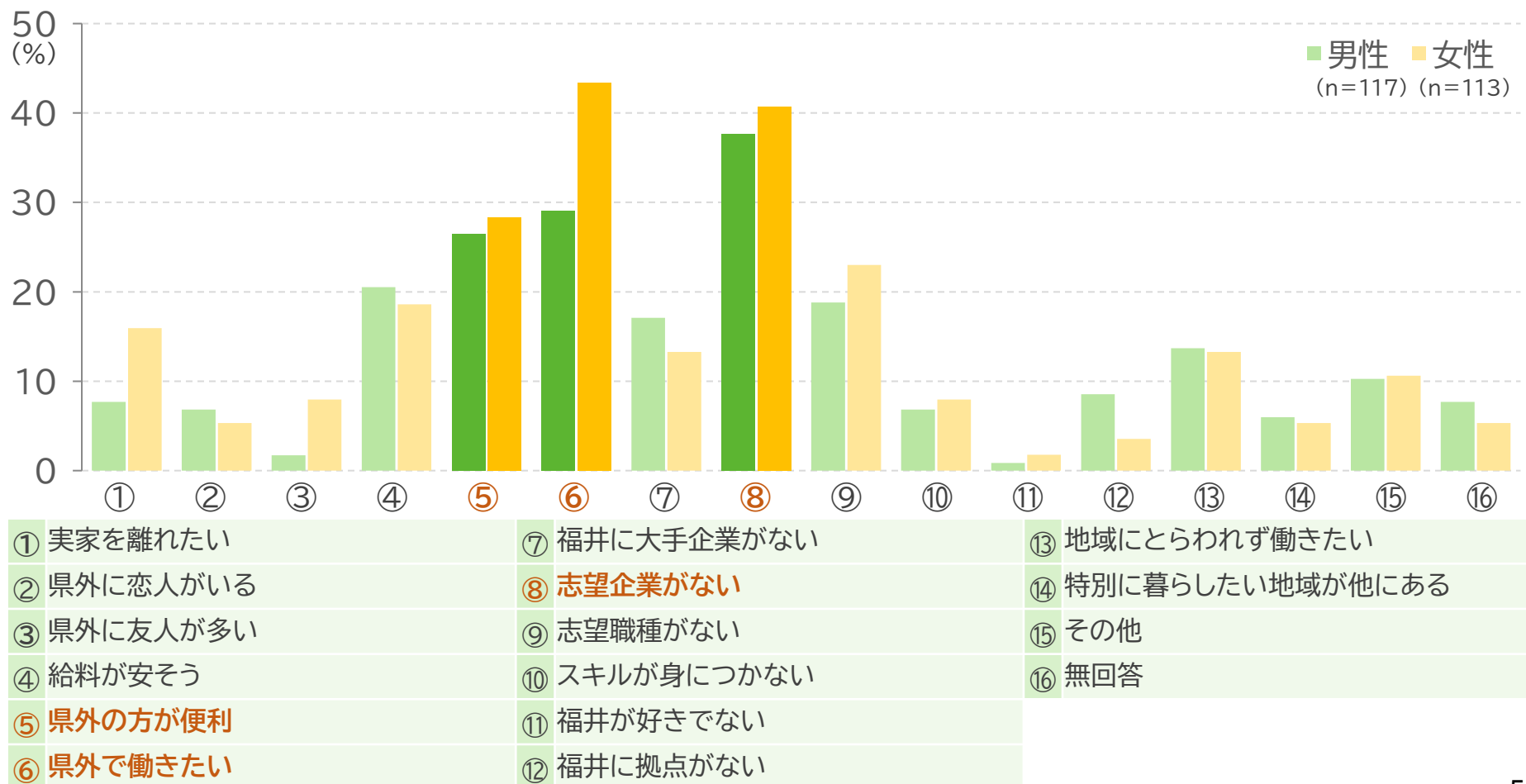


3.社会増減の状況 Uターンの状況

○県外就職者が福井で就職しなかった理由は、・県外で働きたい/・志望企業がない/・県外の方が便利
が男女ともにトップ3

○・実家を離れたい/・県外で働きたい は男性に比べて女性が選択した割合が大きい

図表3-16 【県外就職者向け】福井で就職しなかった理由 ※複数選択



4.県内市町の状況 市町別社会増減の状況

○前期戦略策定の2020年を基準に前後各5年間で県外への移動状況を比較すると、県全体では転出超過が拡大

○市町別では、6市町が改善

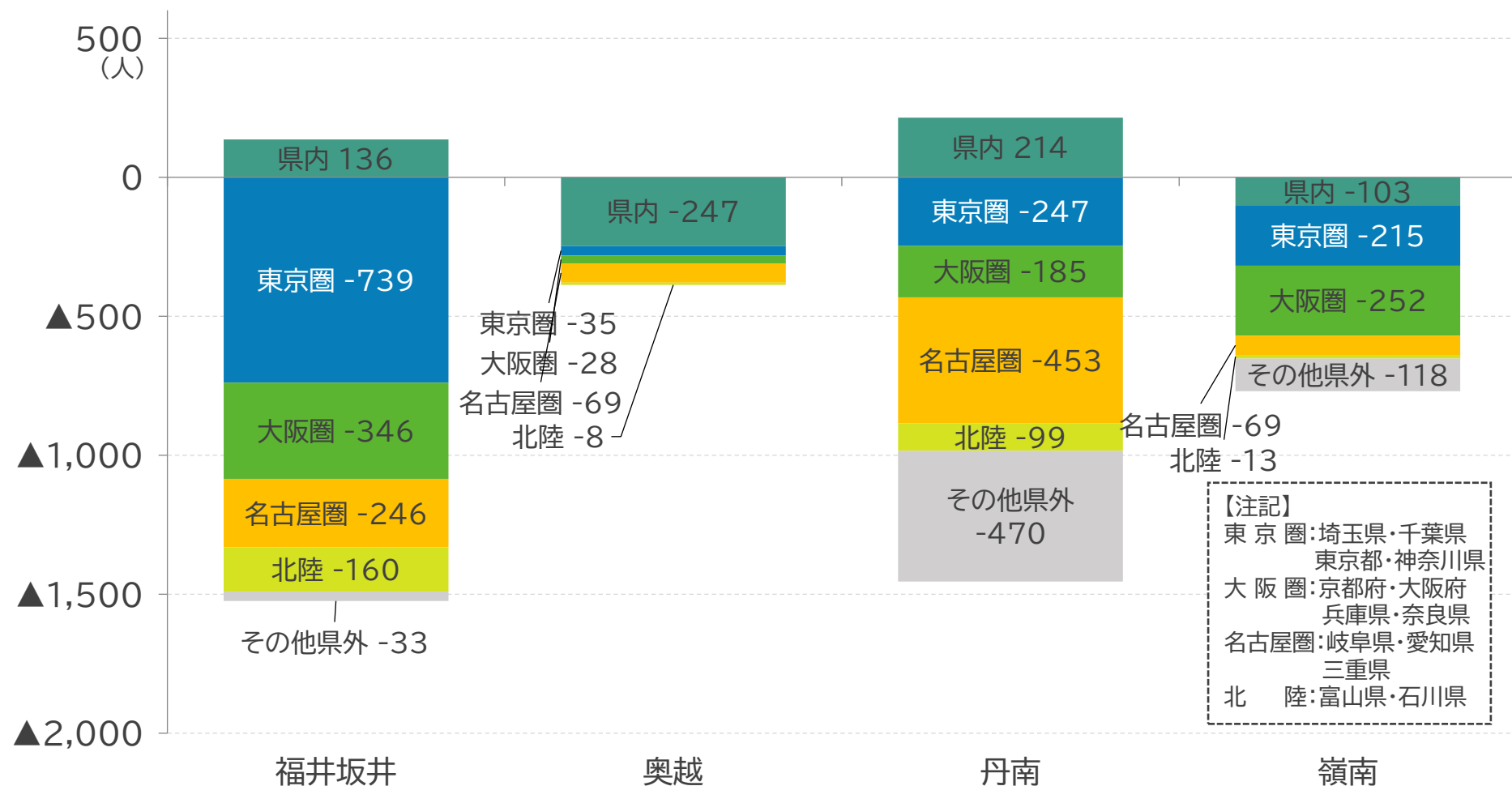
図表4-1 県内市町の社会移動の状況

市町名	前期戦略策定前の社会移動 (2015～2019平均) A (転入者数－転出者数)					前期戦略策定後の社会移動 (2020～2023平均) B (転入者数－転出者数)					前期戦略策定前と策定後の 社会移動の差 B－A				市町名
	計 (人)	人口	人口当たりの 社会増減率	県外 移動	県内 移動	計 (人)	人口	人口当たりの 社会増減率	県外 移動	県内 移動	計 (人)	社会増加率 の差	県外 移動	県内 移動	
福井市	▲ 302	262,363	-0.1%	▲ 679	377	▲ 602	259,266	-0.2%	▲ 819	217	▲ 300	▲ 0	▲ 140	▲ 160	福井市
敦賀市	▲ 273	65,976	-0.4%	▲ 288	15	▲ 314	63,209	-0.5%	▲ 318	5	▲ 41	▲ 0	▲ 30	▲ 11	敦賀市
小浜市	▲ 103	29,610	-0.3%	▲ 133	30	▲ 107	28,338	-0.4%	▲ 103	▲ 3	▲ 3	▲ 0	30	▲ 33	小浜市
大野市	▲ 191	33,569	-0.6%	▲ 105	▲ 86	▲ 243	30,181	-0.8%	▲ 101	▲ 143	▲ 52	▲ 0	4	▲ 57	大野市
勝山市	▲ 170	23,764	-0.7%	▲ 71	▲ 99	▲ 130	21,595	-0.6%	▲ 57	▲ 74	40	0	14	26	勝山市
鯖江市	101	68,372	0.1%	▲ 93	195	▲ 23	68,107	0.0%	▲ 160	137	▲ 124	▲ 0	▲ 67	▲ 57	鯖江市
あわら市	▲ 104	28,414	-0.4%	▲ 65	▲ 39	▲ 132	26,897	-0.5%	▲ 72	▲ 60	▲ 27	▲ 0	▲ 7	▲ 21	あわら市
越前市	▲ 241	80,072	-0.3%	▲ 135	▲ 106	▲ 150	79,513	-0.2%	▲ 165	15	92	0	▲ 30	121	越前市
坂井市	▲ 223	91,105	-0.2%	▲ 253	29	▲ 153	87,403	-0.2%	▲ 261	108	70	0	▲ 8	79	坂井市
永平寺町	▲ 82	18,897	-0.4%	▲ 54	▲ 28	6	18,771	0.0%	▲ 26	31	88	0	28	59	永平寺町
池田町	▲ 28	2,674	-1.0%	1	▲ 29	▲ 32	2,282	-1.4%	▲ 6	▲ 26	▲ 4	▲ 0	▲ 7	3	池田町
南越前町	▲ 64	10,843	-0.6%	▲ 23	▲ 41	▲ 104	9,656	-1.1%	▲ 33	▲ 71	▲ 40	▲ 0	▲ 10	▲ 30	南越前町
越前町	▲ 161	21,894	-0.7%	▲ 59	▲ 102	▲ 85	19,584	-0.4%	▲ 55	▲ 30	76	0	4	72	越前町
美浜町	▲ 59	9,750	-0.6%	▲ 47	▲ 12	▲ 50	8,944	-0.6%	▲ 37	▲ 13	9	0	10	▲ 1	美浜町
高浜町	▲ 37	10,487	-0.4%	▲ 4	▲ 33	▲ 107	10,015	-1.1%	▲ 78	▲ 29	▲ 70	▲ 0	▲ 75	4	高浜町
おい町	▲ 36	8,304	-0.4%	▲ 22	▲ 14	▲ 57	7,776	-0.7%	▲ 28	▲ 29	▲ 21	▲ 0	▲ 6	▲ 15	おい町
若狭町	▲ 124	15,251	-0.8%	▲ 68	▲ 56	▲ 105	13,574	-0.8%	▲ 69	▲ 36	19	0	▲ 1	20	若狭町
県計	▲ 2,097	781,344	-0.3%	▲ 2,097		▲ 2,386	755,108	-0.3%	▲ 2,386		▲ 289	▲ 0	▲ 289		県計

4.県内市町の状況 市町別社会増減の状況

○福井坂井からは東京圏、奥越・丹南からは名古屋圏、嶺南からは大阪圏への転出超過が大きい

図表4-2 地域別・転出先別 転入超過数の状況

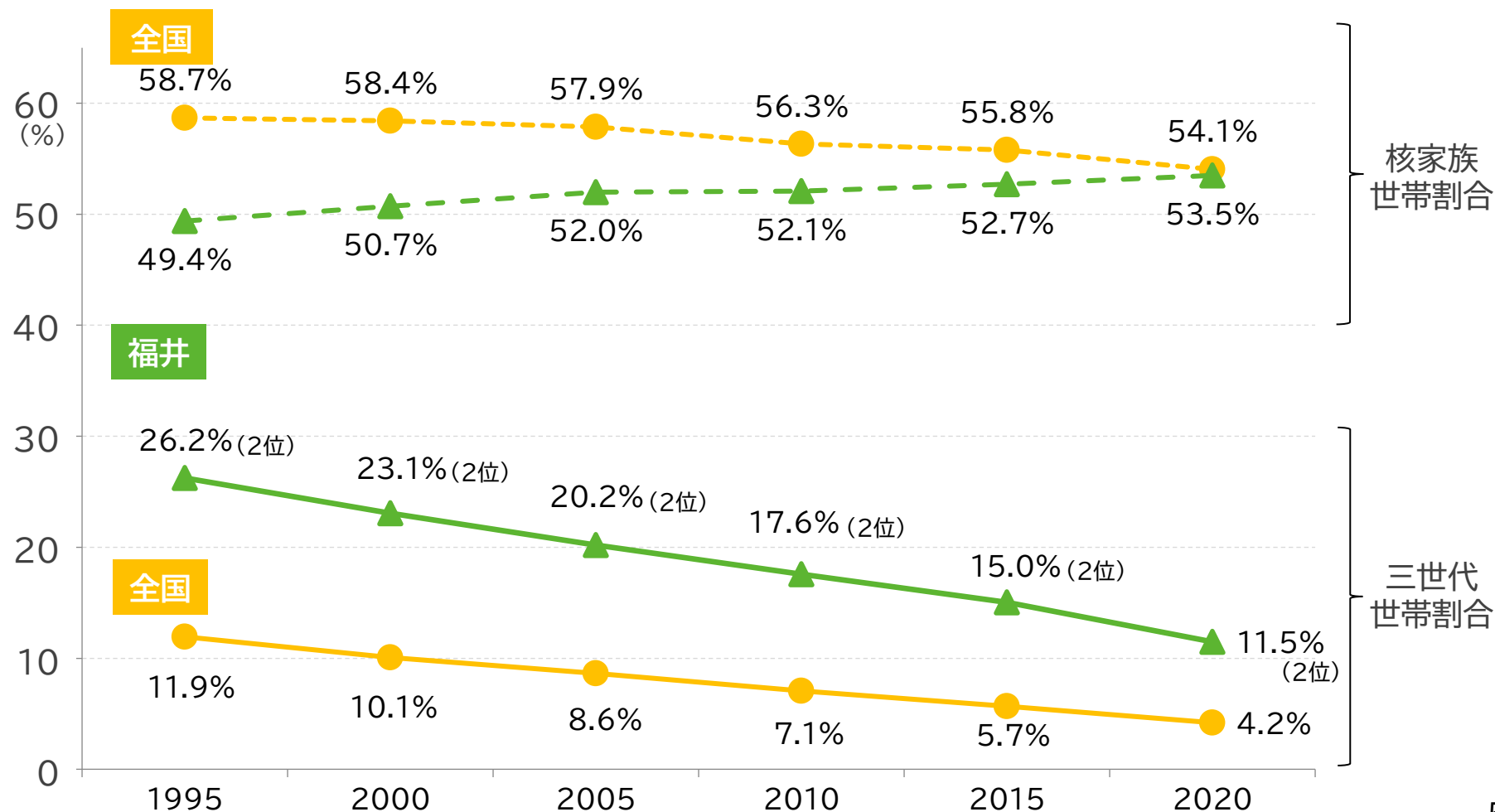


5.県民の暮らしの状況 世帯構成

○本県の三世代世帯割合は、全国2位の水準にあるものの一貫して低下

○一方、核家族世帯の割合は徐々に上昇

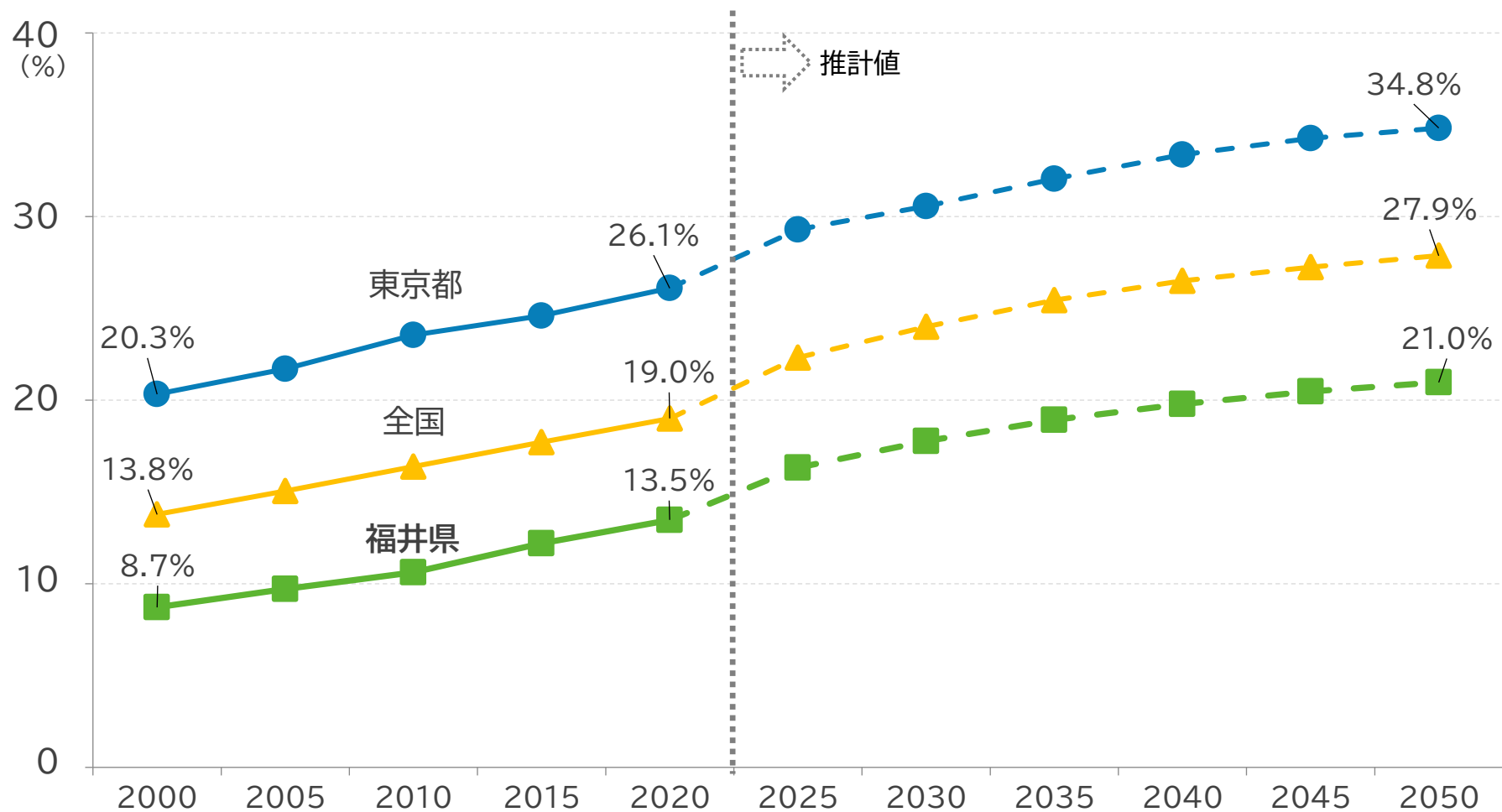
図表5-1 三世代世帯割合の推移、核家族世帯の割合の推移



5.県民の暮らしの状況 世帯構成

○本県の一人暮らし高齢者割合は全国に比べて低いものの、上昇傾向にあり、2050年には福井県の高齢者の4.8人に1人が一人暮らしとなる見込み

図表5-2 一人暮らし高齢者割合(※)の推移 ※65歳以上単独世帯÷65歳以上人口

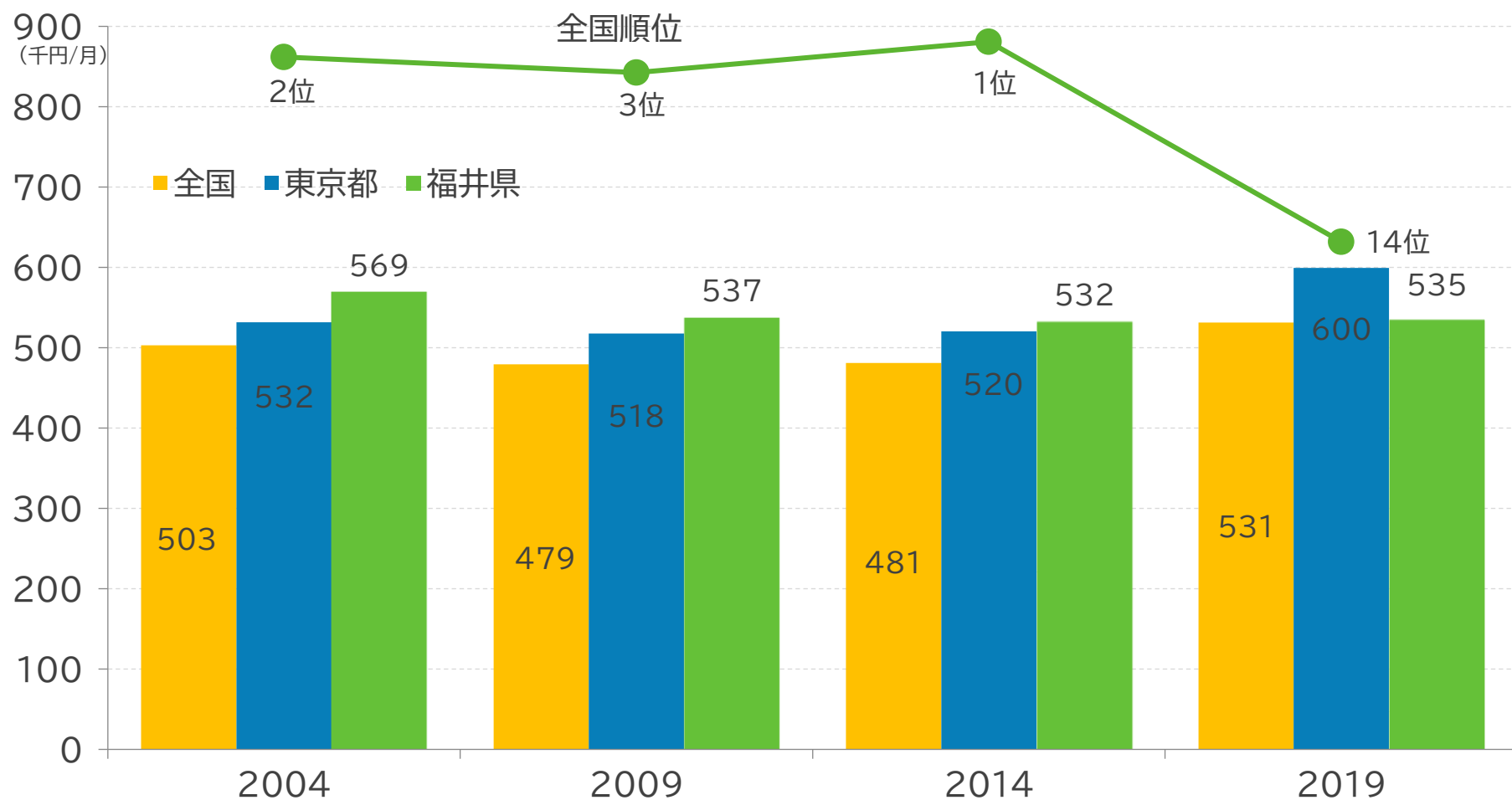


5.県民の暮らしの状況 働く環境

○本県の世帯収入は全国を上回る水準で推移

○これまで全国上位を推移していたが、他自治体の伸びが本県の伸びを上回り、2019年は14位

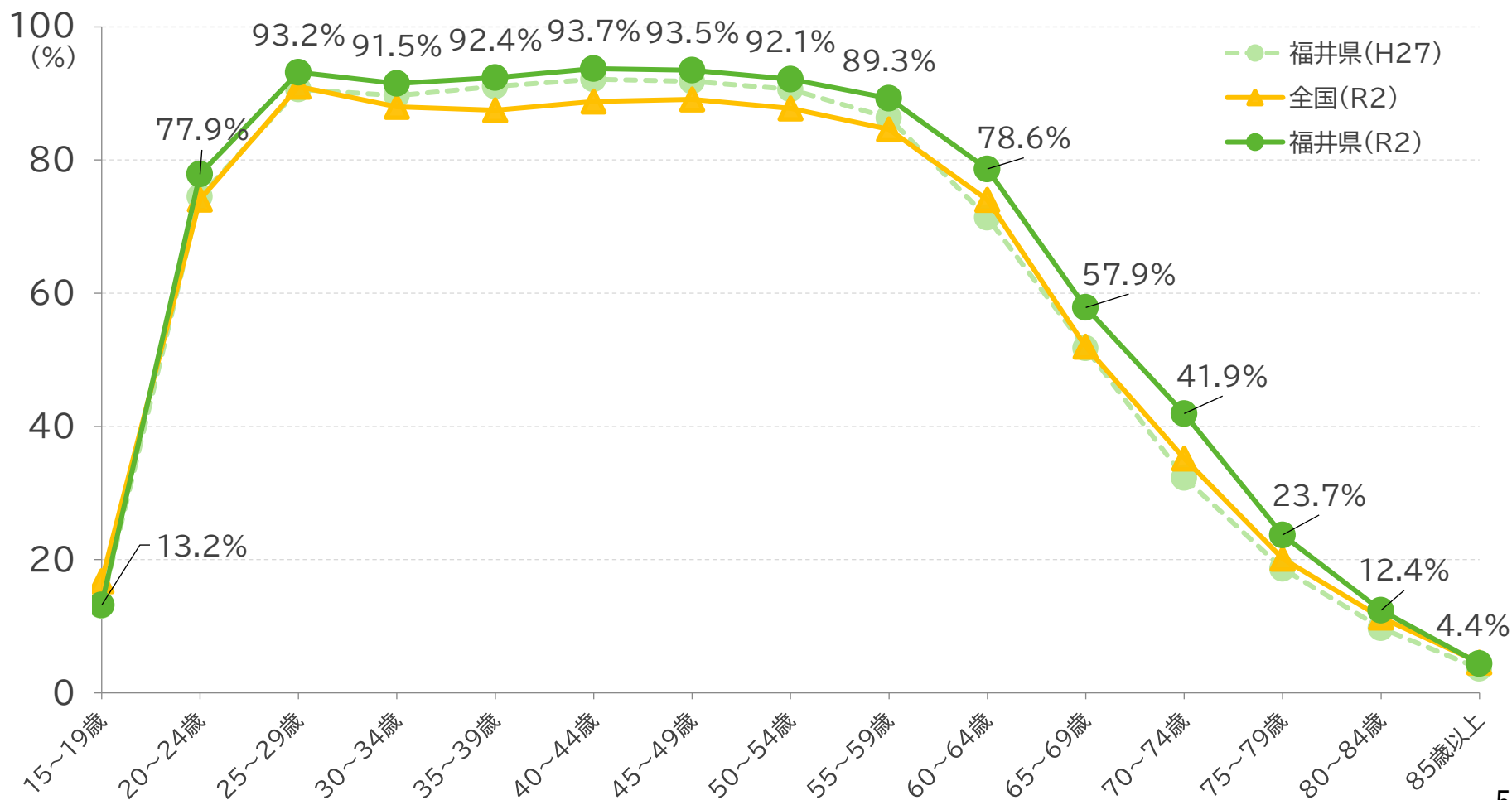
図表5-3 世帯収入の推移(2人以上の世帯のうち勤労者世帯)



5.県民の暮らしの状況 働く環境

○本県の労働力率は、15-19歳、85歳以上を除き、全国の値より高い

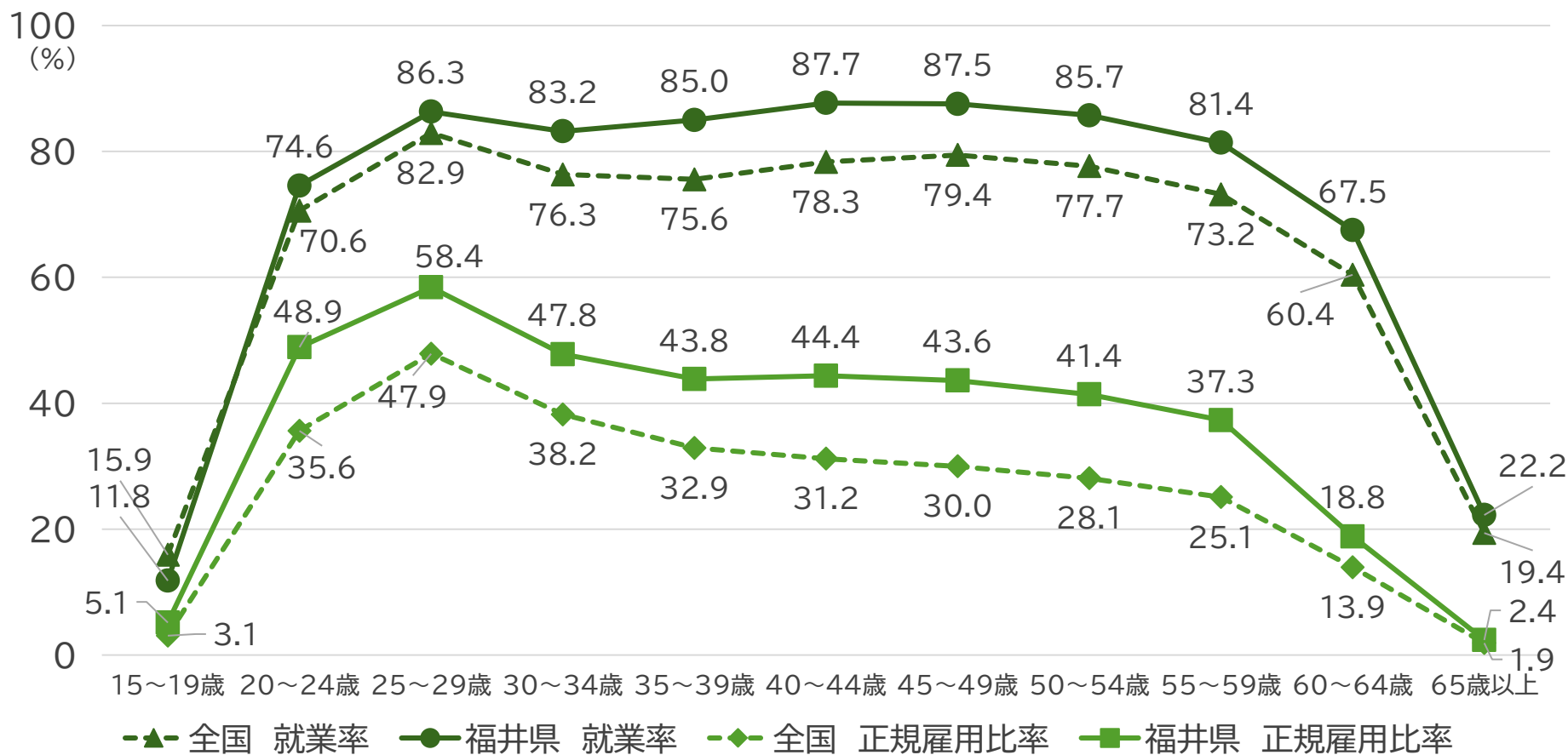
図表5-4 年齢階級別労働力率比較



5.県民の暮らしの状況 働く環境

○本県の正規雇用率は、すべての年代で全国平均を上回るが、出産・子育て期を経て低下(L字カーブ)

図表5-5 女性の就業率と正規雇用率



M字カーブ(女性就業率)
「就業者」/「各年齢区分人口」

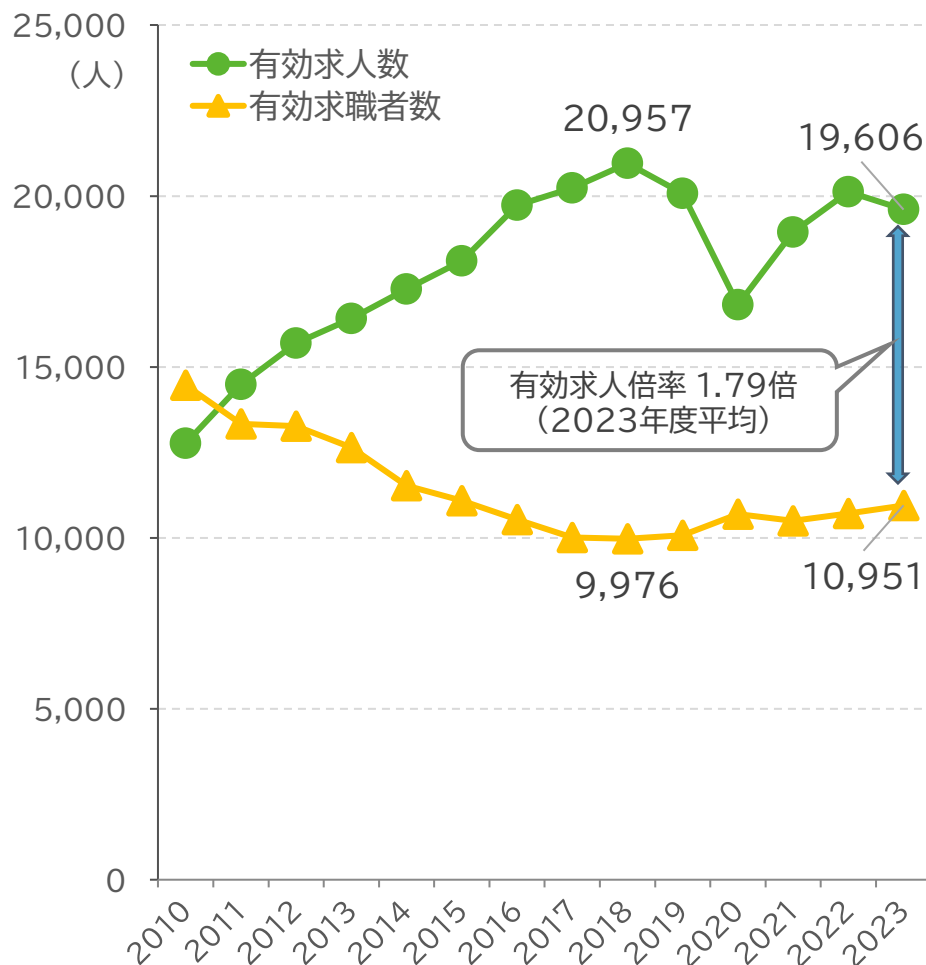
L字カーブ(正規雇用比率・女性)
「正規の職員・従業員」/「各年齢区分人口」

5.県民の暮らしの状況 働く環境

○本県の有効求人倍率は全国上位の水準で推移しており、求職者の不足数は約1万人と推計

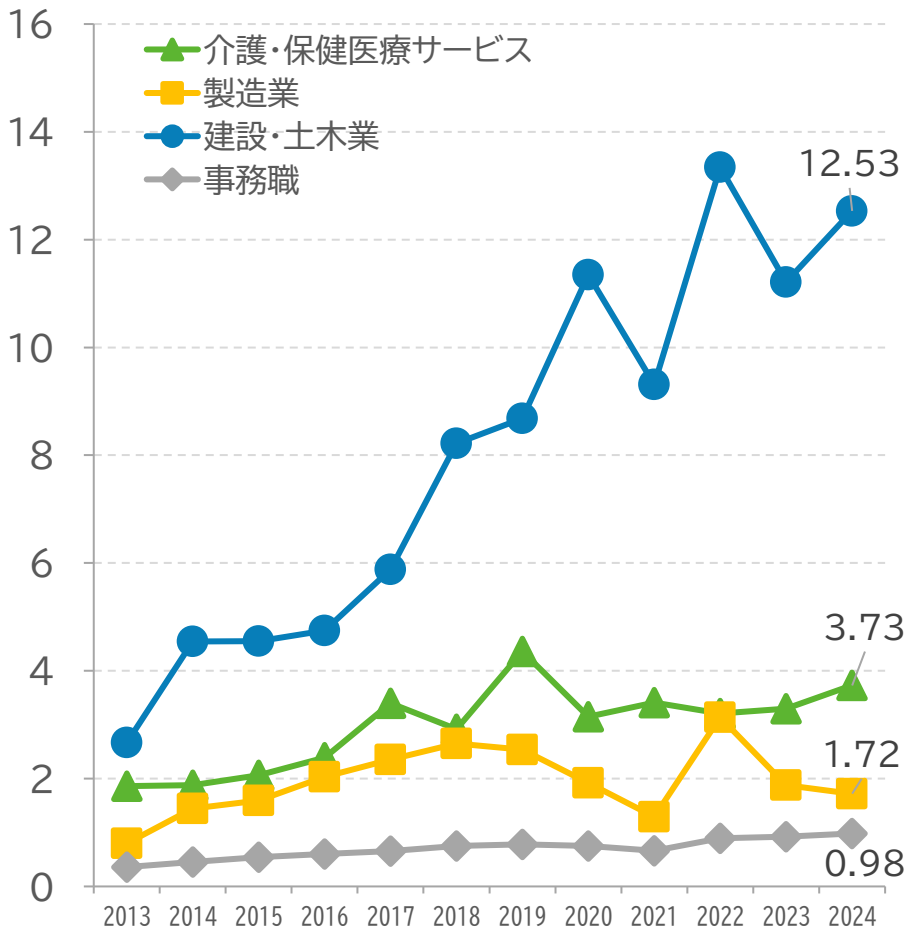
○事務職の有効求人倍率は0.98倍であるのに対して、建設・土木業12.53倍、介護・保健医療サービス業3.73倍など、職種間で開きがある

図表5-6 有効求人倍率の推移(福井県)



出典:福井労働局「雇用失業情勢」

図表5-7 職種別有効求人倍率の推移(福井県)



出典:福井労働局「有効求人・求職者状況」

5.県民の暮らしの状況 働く環境

○民間シンクタンクが作成した「子育て世代の女性の働きやすさ指標」では、福井県は客観的指標上の子育て世帯の働きやすさは上位

○ただし、女性管理職比率と男女間賃金比率は全国下位

図表5－8 子育て世代の女性の働きやすさ指標

順位	都道府県	働きやすさ指標	学童保育登録率	保育所定員率	三世帯同居率	男性の家事育児負担率	男性の長時間労働者比率	男性の育児休業等利用率	女性の正規雇用比率	女性管理職比率	男女間賃金比率	子育て世代の女性の有業率 (%、参考)
			順位(47都道府県中)									
1	高知県	1.16	31	1	36	2	6	23	5	3	3	84.9
2	鳥取県	1.06	4	8	7	23	8	22	10	1	5	88.3
3	島根県	0.93	11	6	9	3	4	12	9	39	10	87.3
4	秋田県	0.87	3	2	4	13	3	36	4	26	24	86.2
5	青森県	0.86	6	9	11	18	13	19	24	4	1	83.6
6	福井県	0.84	16	3	2	5	7	11	7	34	35	88.2
7	富山県	0.76	15	5	5	30	2	4	3	44	17	87.1
8	山形県	0.68	1	18	1	38	19	33	2	9	40	87.6
9	新潟県	0.63	17	4	3	4	5	31	17	47	9	87.2
10	徳島県	0.48	29	14	22	33	23	29	6	2	6	83.3

5.県民の暮らしの状況 働く環境

○現在の20-30代の男女が非正規を選ぶ理由は、「正規の仕事がないから」ではなく、「自分の都合の良い時間に働きたいから」が大幅増

○「家事・育児・介護等と両立しやすいから」を選択した割合は10年間で大きな変化なし

図表5-9 非正規の職員・従業員に就いた主な理由(20-30代)(全国)

20-30代	2023年		
理 由	男女計	男	女
自分の都合の良い時間に働きたいから	38.1(↗)	40.7(↗)	36.7(↗)
家計の補助・学費等を得たいから	12.5(↘)	11.1(→)	13.0(↘)
家事・育児・介護等と両立しやすいから	13.6(→)	1.6(↗)	20.4(→)
通勤時間が短いから	4.7(↗)	4.8(↗)	4.4(↗)
専門的な技能等をいかせるから	6.0(→)	6.3(→)	5.6(→)
正規の職員・従業員の仕事がないから	9.8(↘)	14.3(↘)	7.4(↘)
その他	15.3	21.2	12.4

2013年		
男女計	男	女
23.9	24.6	24.0
15.6	10.3	18.1
13.4	0.0	19.8
2.8	2.6	3.0
5.9	6.2	5.7
25.9	39.5	19.3
12.5	16.9	10.1

※2023年の各数値の下に記載した矢印記号について、2013年と比較し、
 (↗):1%以上増加した項目 (↘):1%以上減少した項目 (→):増減が1%未満の項目

(参考)自分の都合の良い時間に働きたいから

	2023年		
	男女計	男	女
20代	45.2	46.3	44.5
30代	30.3	30.3	30.1

2013年		
男女計	男	女
28.7	29.3	28.7
19.6	16.7	20.8

5.県民の暮らしの状況 働く環境

○前職をやめた求職者が次職に希望する雇用形態については、男性は54歳までは、正規を希望する割合の方が高いが、女性は35歳以降、非正規を希望する割合の方が高い

図表5－10 平成29年10月以降に前職をやめた求職者が希望する雇用形態(福井県)

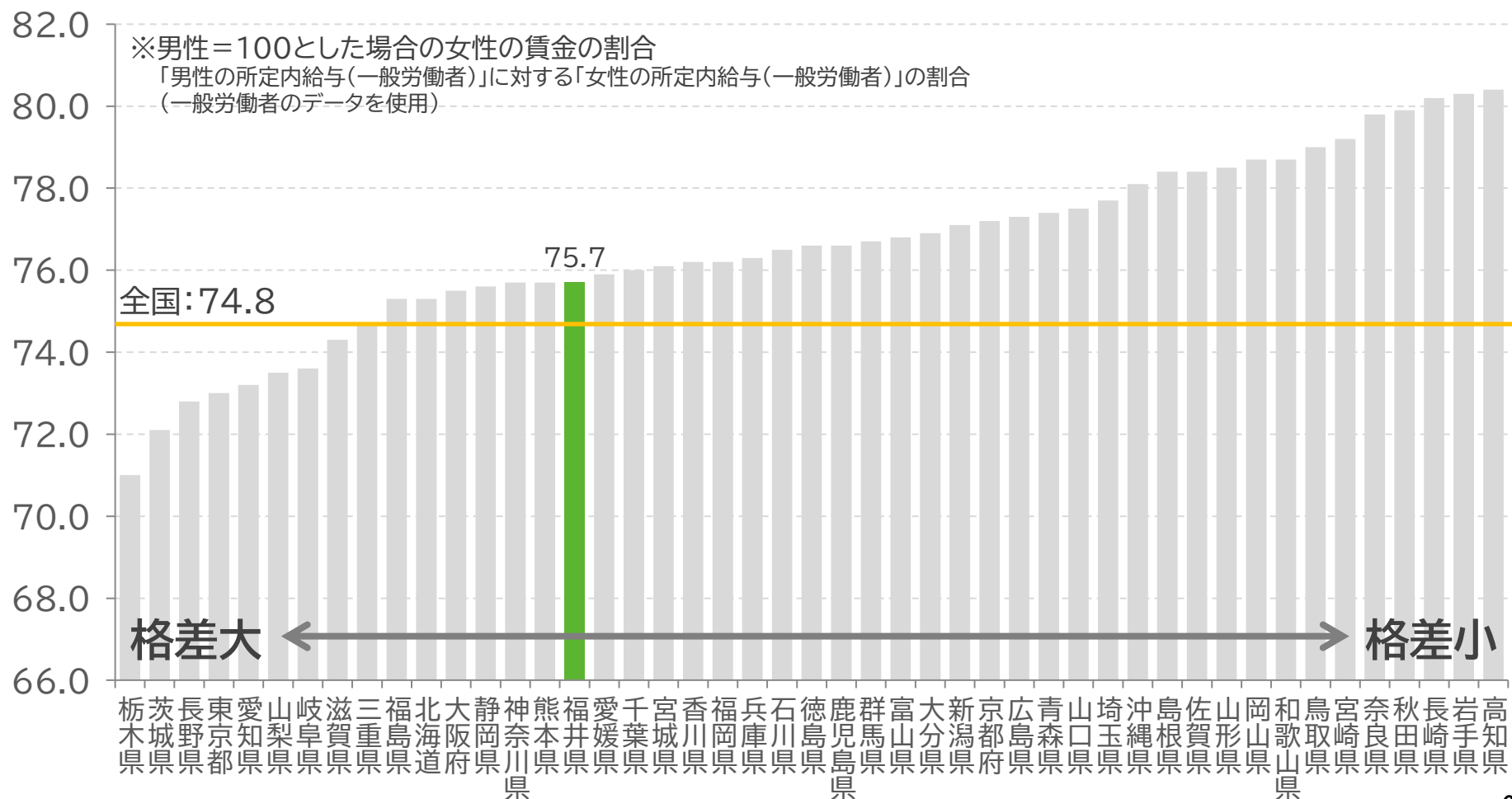
男 性	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	総 数
総数	200	700	400	100	500	800	2,800
正規の職員・従業員	100	600	300	100	200	0	1,200
非正規	100	100	0	0	300	500	900
その他	0	0	100	0	0	300	700
正規割合	50.0%	85.7%	75.0%	100.0%	40.0%	0.0%	42.9%
非正規割合	50.0%	14.3%	0.0%	0.0%	60.0%	62.5%	32.1%

女 性	15-24歳	25-34歳	35-44歳	45-54歳	55-64歳	65歳以上	総 数
総数	300	1,100	600	1,200	600	800	4,600
正規の職員・従業員	200	500	200	400	0	0	1,400
非正規	100	400	300	600	600	500	2,500
その他	0	200	100	200	0	300	700
正規割合	66.7%	45.5%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	30.4%
非正規割合	33.3%	36.4%	50.0%	50.0%	100.0%	62.5%	54.3%

5.県民の暮らしの状況 働く環境

- 男性の一般労働者の給与を100とした場合の女性の一般労働者の給与を都道府県別に比較すると、福井県は14位(格差が大きい自治体が1位)で、全国平均値より高い
- 厚生労働省は、男女間賃金格差が大きい地域では若年女性の流出が進むという“緩やかな相関関係”があると指摘

図表5-11 都道府県別男女間賃金格差

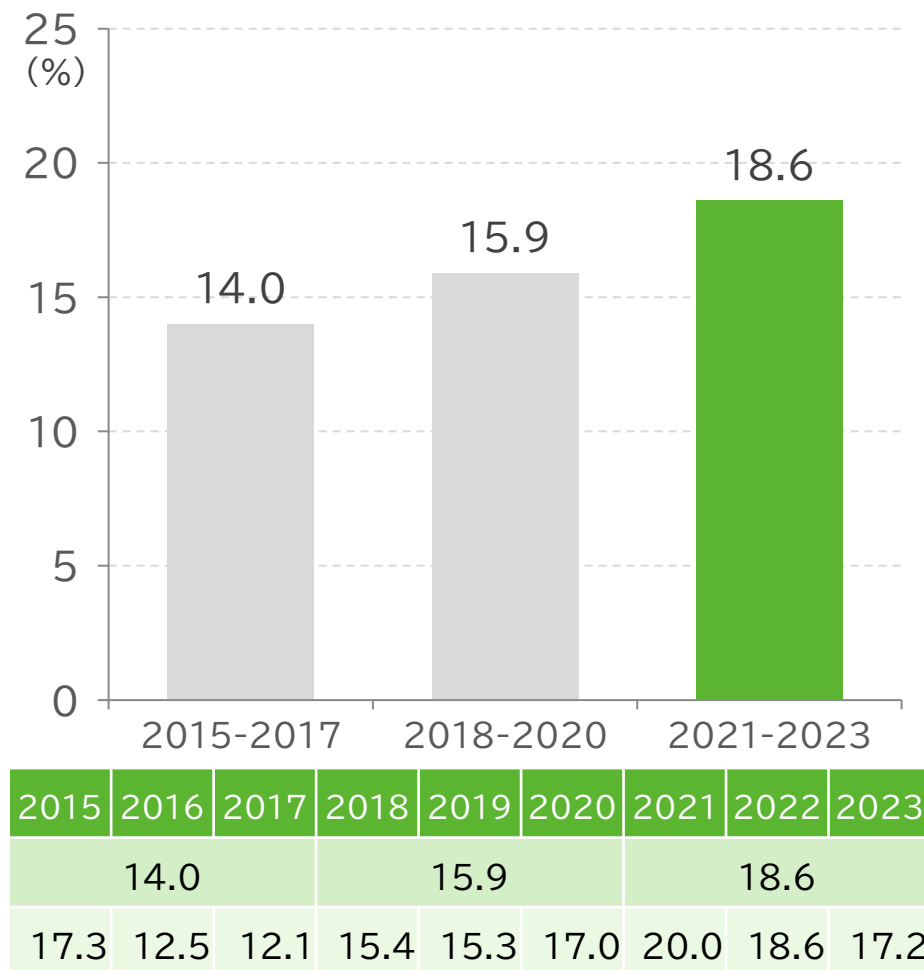


5.県民の暮らしの状況 働く環境

○県内企業の女性の管理職割合は上昇傾向

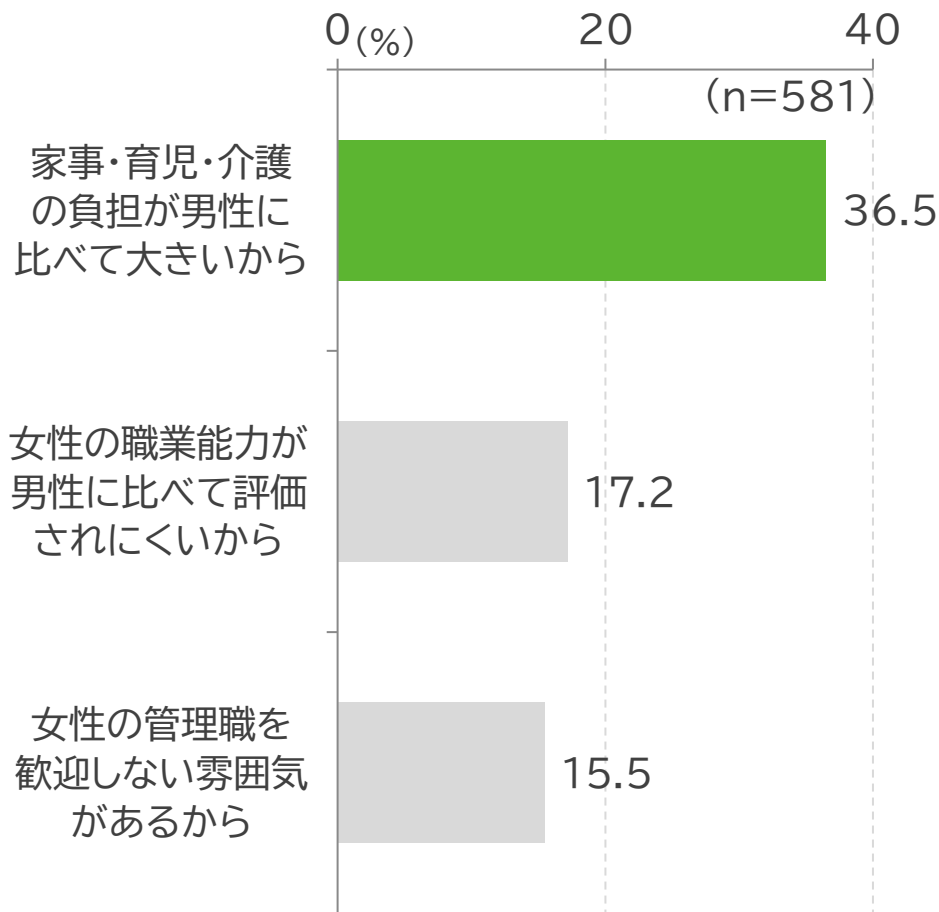
○福井県女性にとって、家事・育児・介護の負担が大きいことが管理職になる上での大きなハードル

図表5-12 県内企業の女性管理職割合



出典：福井県「勤労者就業環境基礎調査」

図表5-13 女性が管理職になることが難しい理由
(女性・複数回答)

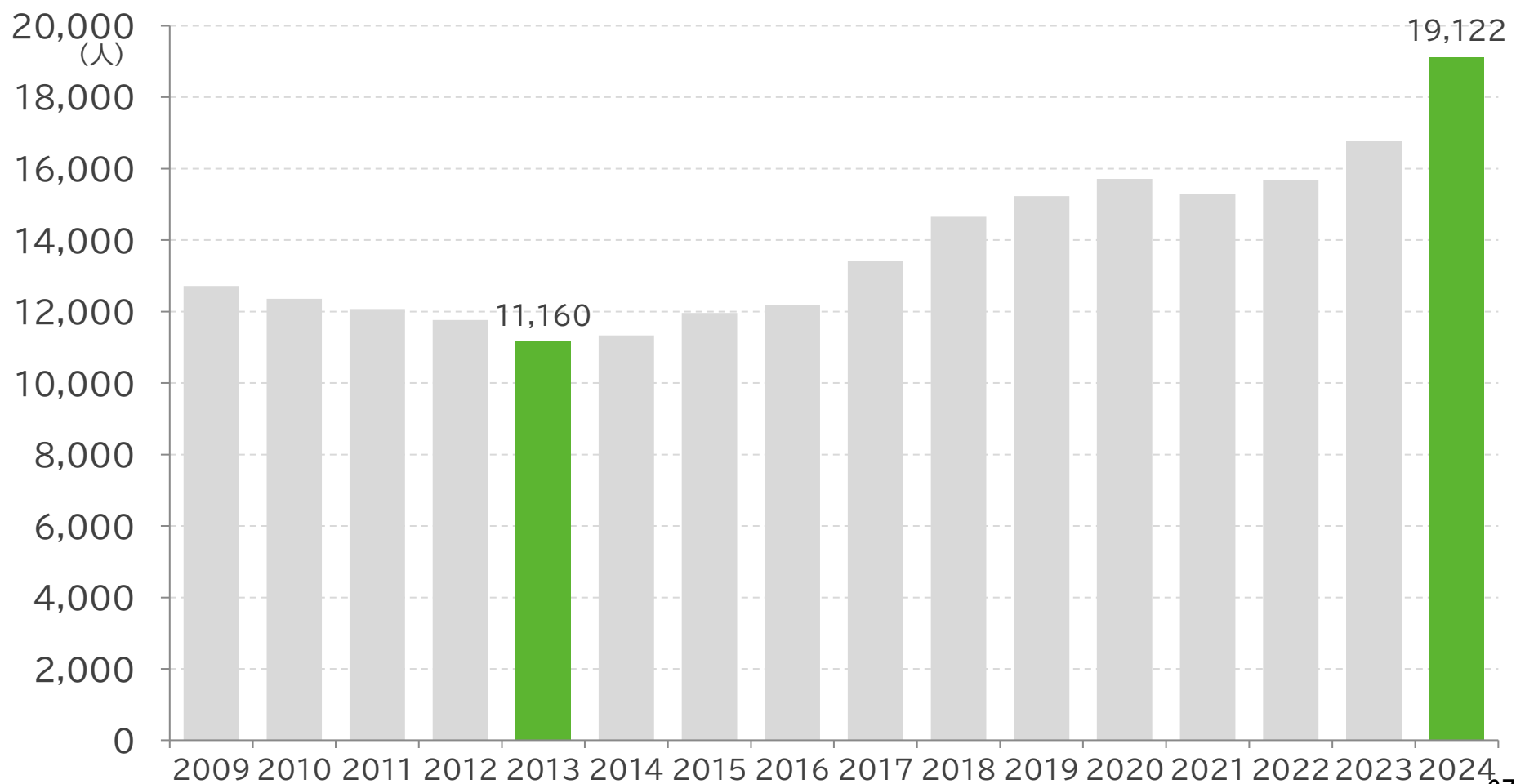


出典：福井県「男女共同参画に関する県民意識調査」(2020)

5.県民の暮らしの状況 外国人の状況

○福井県内の外国人住民数は2013年まで減少傾向にあったが2014年から増加傾向に転じ、2024（12月末現在）の外国人住民数は、過去最高の19,122人

図表5－14 福井県の外国人住民数の推移

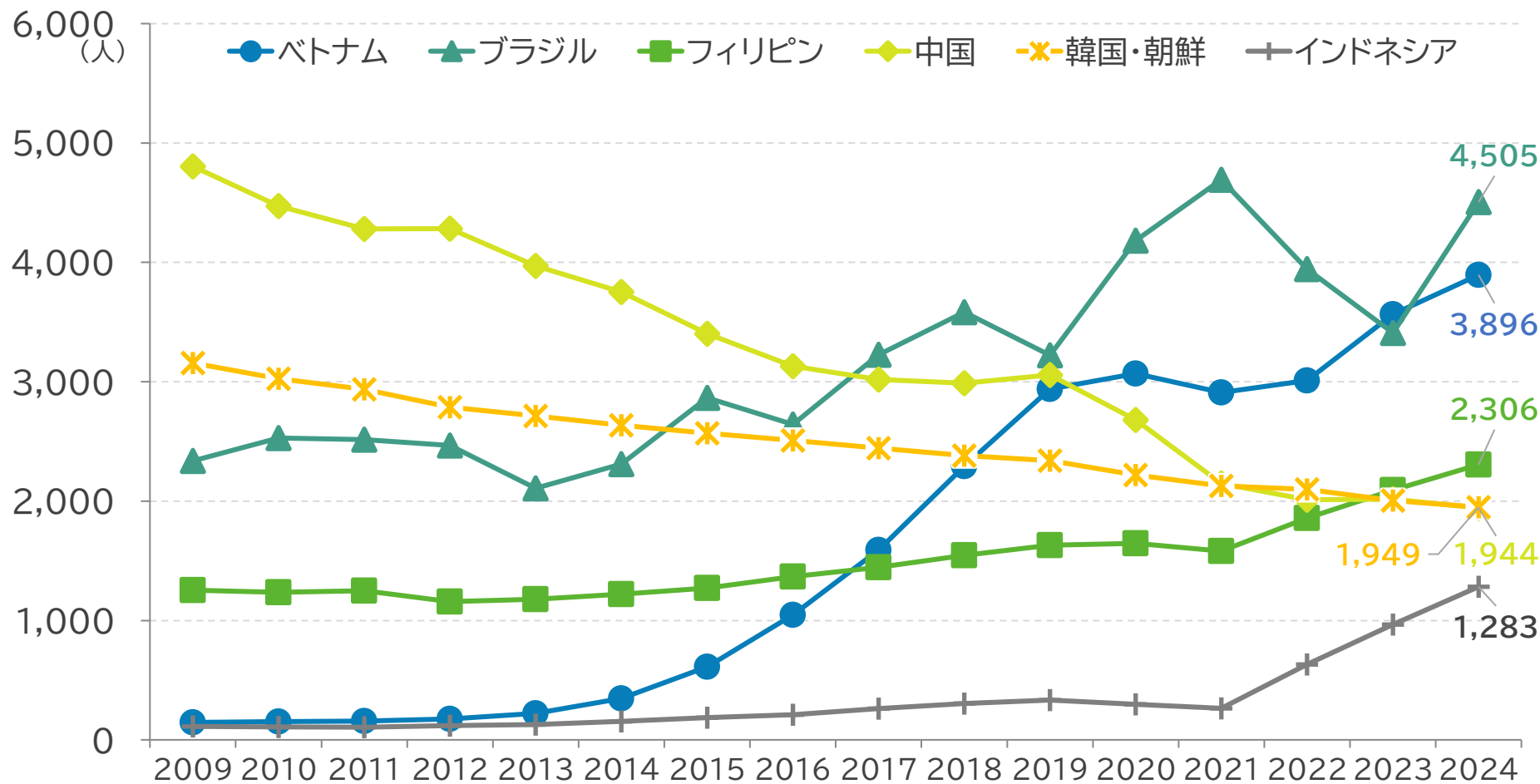


5.県民の暮らしの状況 外国人の状況

○福井県の外国人住民数を国籍別で見ると、ブラジルが最多

○近年ベトナム人の伸びが大きい

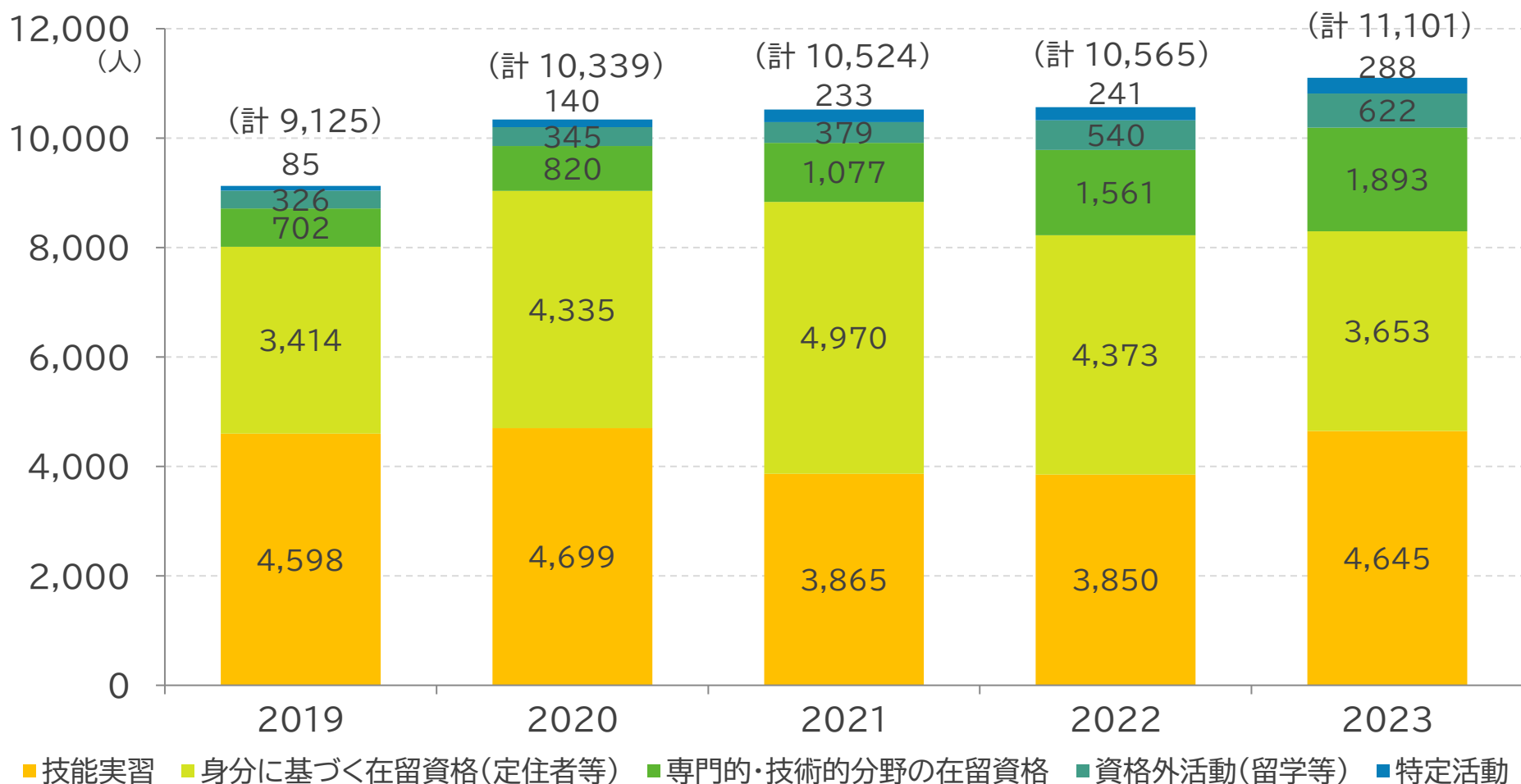
図表5-15 福井県の国籍別外国人住民数の推移



5.県民の暮らしの状況 外国人の状況

○県内の外国人労働者は年々増加しており、10年間で約2倍(2024:5,363人)

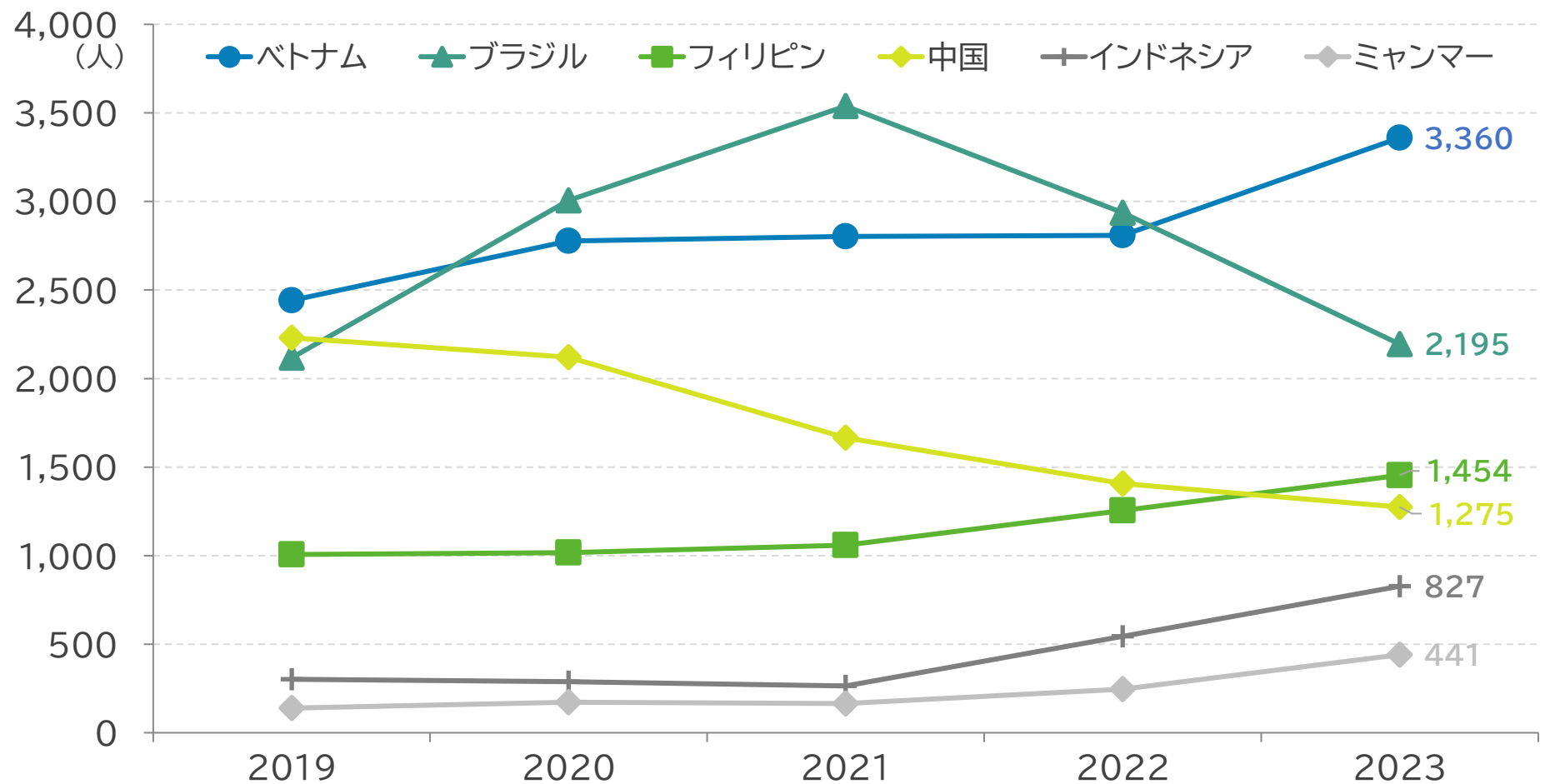
図表5-16 福井県の外国人労働者数の推移(在留資格別)



5.県民の暮らしの状況 外国人の状況

○福井県の外国人労働者数を国籍別で見ると、2023年にベトナムがブラジルを抜き最多

図表5-17 福井県の国籍別外国人労働者数の推移(在留資格別)

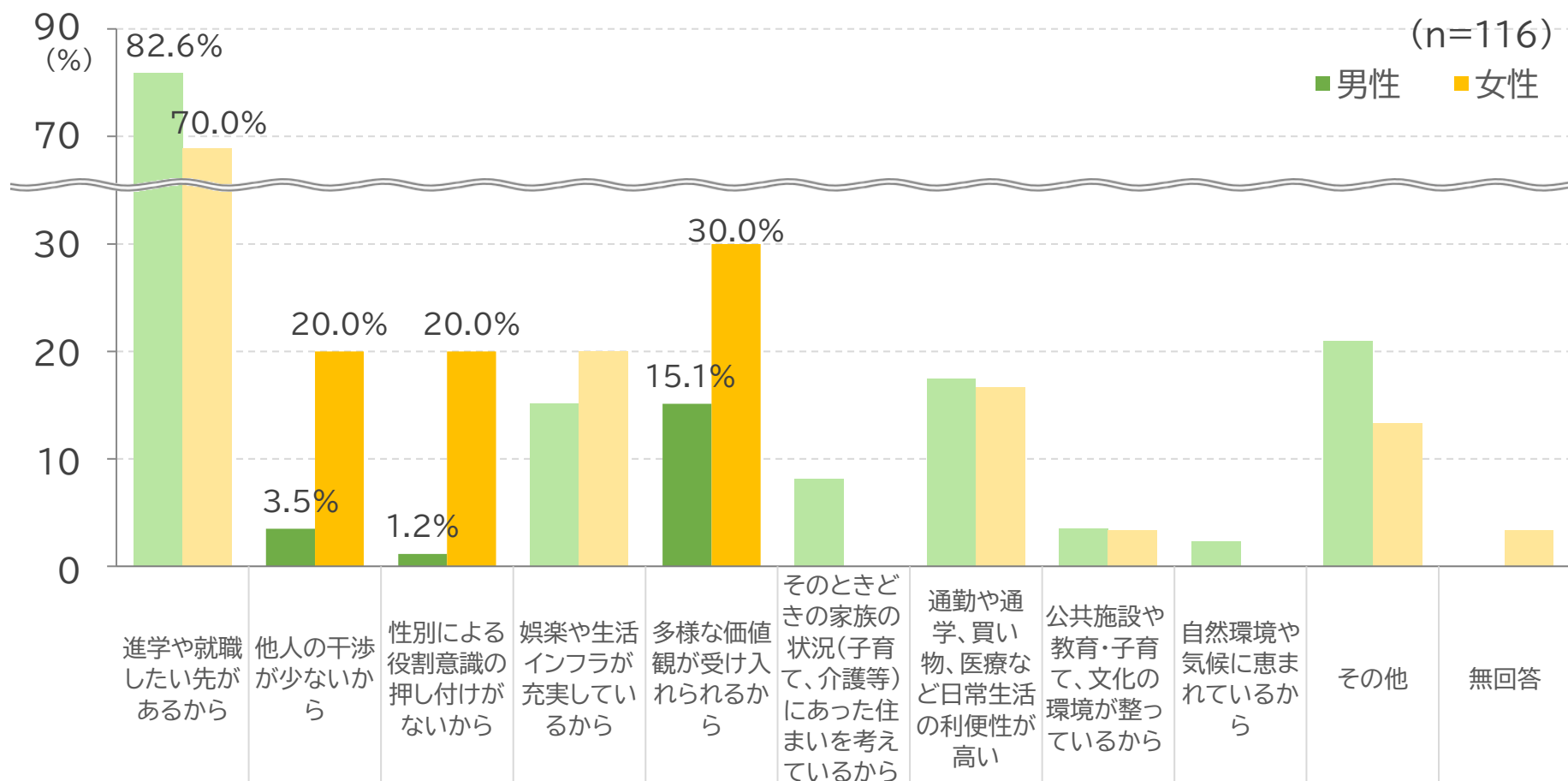


5.県民の暮らしの状況 福井県民の社会意識

○女性は男性に比べ、「他人の干渉がない」「性別による役割分担意識の押し付けがない」「多様な価値観が受け入れられる」ことを理由に県外に移住した割合が高い

図表5-18 県外に居住地を移した理由(福井県)

※福井県での居住経験がある県外在住者 ※複数選択

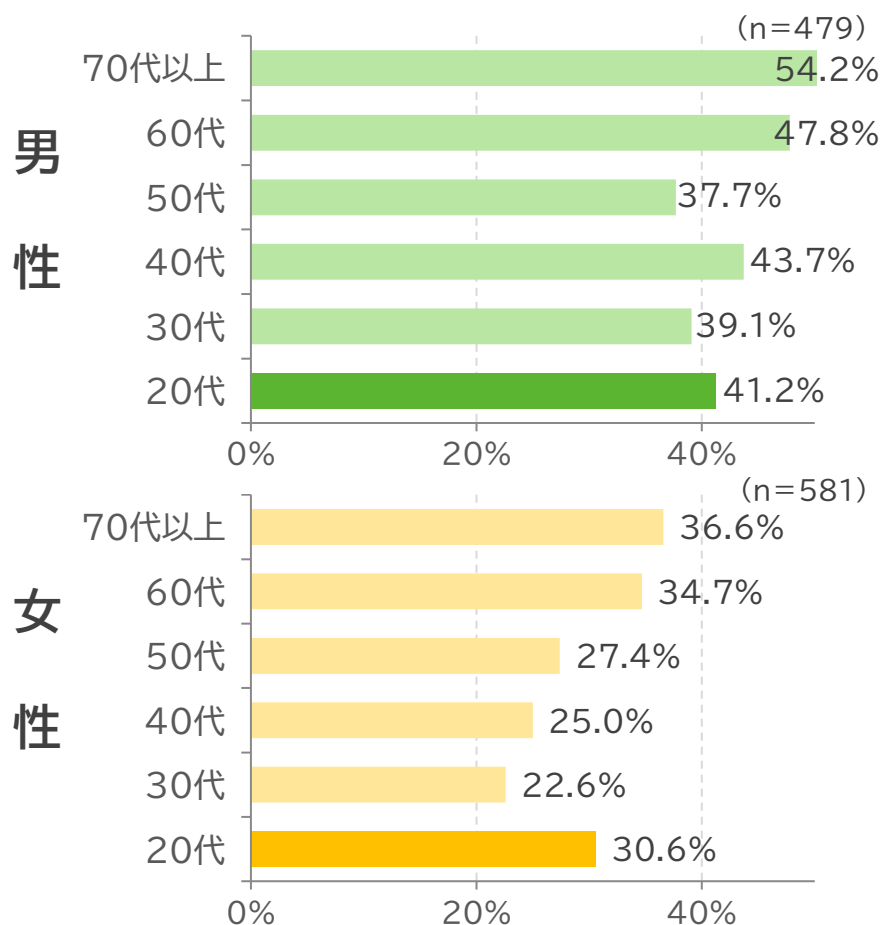


5.県民の暮らしの状況 福井県民の社会意識

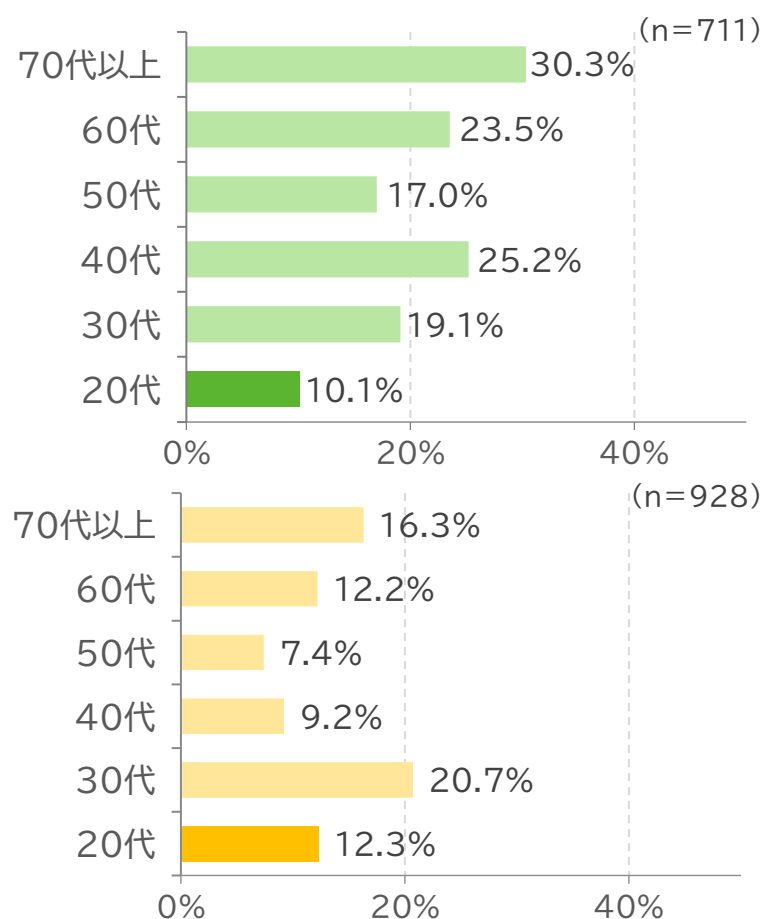
○家庭における男女の役割意識は、若い世代を中心に薄れる傾向にあるものの、依然として男女差がある

図表5-19 「男は仕事、女は家庭」といった考えに 賛成 と回答した割合(福井県)

2015 (県民意識調査)



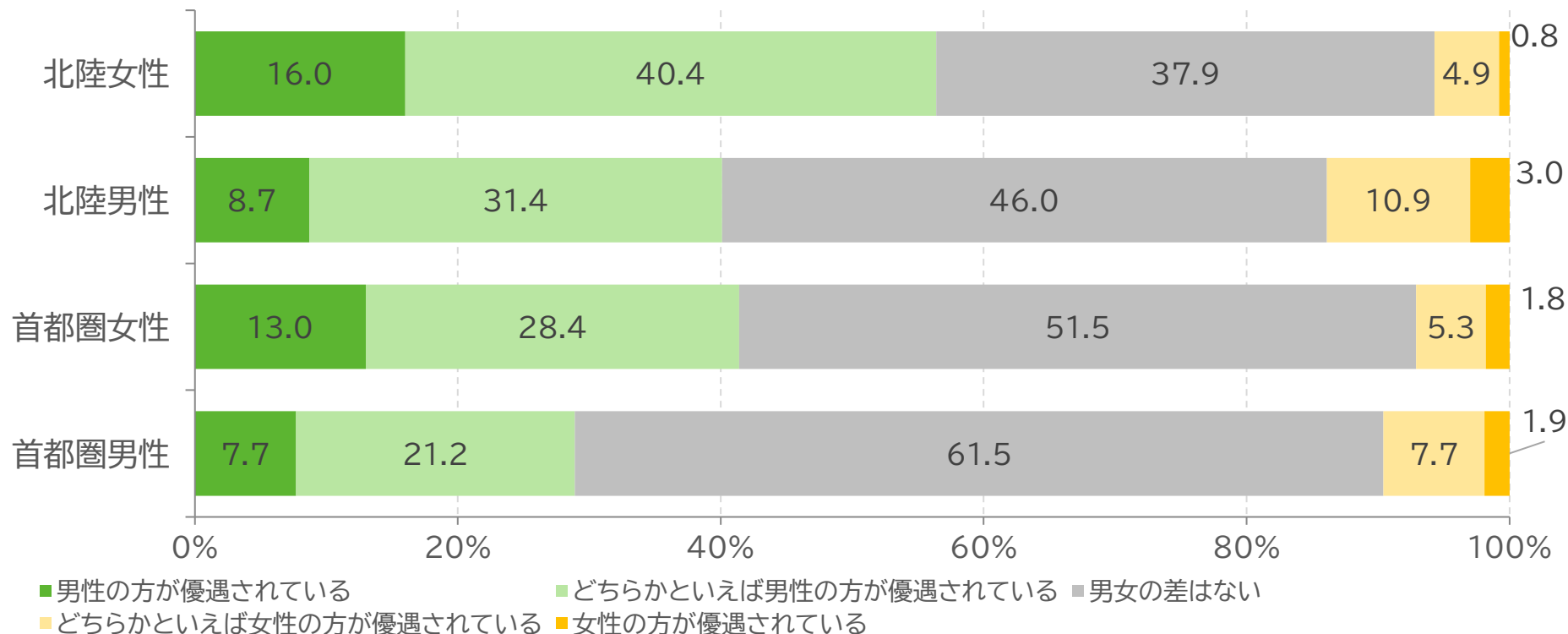
2024 (県民アンケート)



5.県民の暮らしの状況 福井県民の社会意識

○職場においては、北陸の女性は全国に比べ性別により男性が優遇されていると感じる割合が高く、特に来客対応、お茶出し等は主に女性が行っていると感じている割合が高い

図表5-20 職場における性別による待遇の違い(北陸)



◆勤務先における性別役割分担の偏り

(来客対応、お茶出し、お菓子配りなどの庶務を誰が担っているか)

北陸女性は「主に女性」(75.2%)「男女両方」(13.9%)と、大幅に女性への偏りを感じている一方で、

首都圏女性は「主に女性」(36.7%)「男女両方」(30.8%)と拮抗している。

重要な仕事を任せられる、仕事を休んで家族を看護・介護するについても、首都圏より北陸で、一方への性への偏りが強く表れている。

5.県民の暮らしの状況 福井県民の社会意識

○県民の主観的幸せ実感について、20-30代の幸せ実感度合いが全体の平均未満

図表5－21 県民の年代別の幸せ実感(福井県)

